

令和元年度 県民意識調査報告書

令和元年 8 月

秋 田 県

目 次

第Ⅰ部 調査の概要

1	調査の目的	3
2	調査の内容	3
3	調査の設計	3
4	回収結果	3
5	集計・分析に当たって	3
6	統計表	3
7	有効回答者の属性	4
8	標本抽出方法	8

第Ⅱ部 調査結果の概要

第Ⅲ部 調査結果の詳細

第1章 「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」について

1 各戦略の施策に関連する事柄についての満足度

(1) 戦略1 秋田の未来につながるふるさと定着回帰戦略について

ア	社会減の抑制に向けた雇用の場の創出、人材育成・確保	19
イ	若者の県内定着・回帰と移住の促進による秋田への人の流れづくり	21
ウ	結婚や出産、子育ての希望をかなえる全国トップレベルのサポート	22
エ	女性や若者の活躍推進とワーク・ライフ・バランスの実現	23
オ	活力にあふれ、安心して暮らすことができる地域社会づくり	24

(2) 戦略2 社会の変革へ果敢に挑む産業振興戦略について

ア	成長分野の競争力強化と中核企業の創出・育成	25
イ	中小企業・小規模企業者の活性化と生産性向上	26
ウ	国内外の成長市場の取り込みと投資の促進	27
エ	産業人材の確保・育成と働きやすい環境の整備	28

(3) 戦略3 新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略について

ア	秋田の農林水産業を牽引する多様な人材の育成	29
イ	複合型生産構造への転換の加速化	30
ウ	秋田米の戦略的な生産・販売と水田フル活用	31
エ	農林水産物の高付加価値化と国内外への展開強化	32
オ	「ウッドファーストあきた」による林業・木材産業の成長産業化	33
カ	つくり育てる漁業と広域浜プランの推進による水産業の振興	34
キ	地域資源を生かした活気ある農山漁村づくり	35

(4)	戦略4 秋田の魅力が際立つ 人・もの交流拡大戦略について	
	ア 地域の力を結集した「総合的な誘客力」の強化	36
	イ 「食」がリードする秋田の活性化と誘客の推進	37
	ウ 文化の発信力強化と文化による地域の元気創出	38
	エ 「スポーツ立県あきた」の推進とスポーツによる交流人口の拡大	39
	オ 県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備	40
	カ 交流の持続的拡大を支える交通ネットワークの構築	41
(5)	戦略5 誰もが元気で活躍できる健康長寿・地域共生社会戦略について	
	ア 健康寿命日本一への挑戦	42
	イ 心の健康づくりと自殺予防対策	43
	ウ 医療ニーズに対応した医療提供体制の整備	44
	エ 高齢者や障害者等が安全・安心に暮らせる福祉の充実	45
	オ 次代を担う子どもの育成	46
(6)	戦略6 ふるさとの未来を拓く人づくり戦略について	
	ア 自らの未来を主体的に切り拓き、秋田を支える気概に満ちた人材の育成	47
	イ 子ども一人一人に応じた教育の充実と確かな学力の定着	48
	ウ 世界で活躍できるグローバル人材の育成	49
	エ 豊かな人間性と健やかな体の育成	50
	オ 子どもの成長を支える魅力的で良質な学びの場づくり	51
	カ 地域社会と産業の活性化に資する高等教育機関の振興	52
	キ 地域を元気にする住民参加の学びの場と芸術・文化に親しむ機会の提供	53
2	(参考) 各戦略の施策に関連する事柄についての満足度の平均値	54

第2章 県政の重要課題について

重要課題として県に力を入れて欲しいこと	58
---------------------	----

第3章 県の特定期間について

1 県の広報活動について

(1) 県が発信する情報の取得方法	63
(2) 広報活動の現状評価	65

2 家庭での防災活動について

(1) 家庭での災害時に備えた備蓄状況	66
(2) 災害に備えた家庭での防災活動の状況	67

3 読書活動について

(1) 読書への興味	69
(2) 1日の平均読書時間	70

4	男女共同参画について	
	「男は仕事、女は家庭」の考え方	71
5	社会活動・地域活動について	
	「社会活動・地域活動」への取組の頻度	72
6	地域社会の住みやすさについて	
	住んでいる地域の住みやすさ	73
7	子育て環境づくりについて	
	子育て家庭に対する県の経済的支援	74
8	高齢者の社会参加について	
	60歳以上の方の仕事や社会活動等への参加状況（平成30年度）	75
9	がん対策について	
	(1) 日本人のがん発症率に関する認知度	76
	(2) がん検診の受診時期に対する考え方	77
10	環境保全活動について	
	環境保全活動への参加	78
11	地球温暖化対策について	
	(1) 優先させるべき対策	80
	(2) 地球温暖化防止への取組	81
12	海岸漂着ごみ対策について	
	(1) 海岸漂着ごみ問題に関する認知度	83
	(2) 県などの取組の現状評価	84
13	循環型社会の形成について	
	ごみを減らすための取組内容	85
第4章 県政への自由意見について		
1	自由意見の項目別件数	87
2	主な自由意見	88
付属資料：調査票		101

第 I 部 調査の概要

1 調査の目的

- (1) 県政に対する県民意識を把握し、第3期ふるさと秋田元気創造プランの進行管理に活用する。
- (2) 政策評価において、県民意識を取り入れる手法の一つとして活用する。
- (3) 県民の提案や要望を把握し、政策立案や問題解決、計画の策定に反映させる。
- (4) 特定課題に関する県民意識を把握し、取組の推進に活用する。

2 調査の内容

- (1) プランに掲げた戦略の施策に関連する事柄についての満足度（選択式）
- (2) 県政の重要課題について（選択式）
- (3) 特定の課題に関する意識（選択式）
 - ① 県の広報活動について
 - ② 家庭での防災活動について
 - ③ 読書活動について
 - ④ 男女共同参画について
 - ⑤ 社会活動・地域活動について
 - ⑥ 地域社会の住みやすさについて
 - ⑦ 子育て環境づくりについて
 - ⑧ 高齢者の社会参加について
 - ⑨ がん対策について
 - ⑩ 環境保全活動について
 - ⑪ 地球温暖化対策について
 - ⑫ 海岸漂着ごみ対策について
 - ⑬ 循環型社会の形成について
- (4) 県に力を入れて欲しいことや、取り組むべきだと思うこと（自由記述式）

3 調査の設計

- (1) 調査対象： 県内に居住する満18歳以上の男女個人
- (2) 標本数： 5,000人
- (3) 標本抽出方法： 全県25市町村の選挙人名簿を基にした層化抽出法
- (4) 調査手法： ア 郵送による調査票の配布
イ 郵送回答とインターネット回答の併用
- (5) 調査期間： 令和元年5月23日（木）～6月7日（金）
- (6) 調査機関： 株式会社フィデア情報システムズ

4 回収結果

- (1) 調査票回収数 2,840人（回収率 56.8%）
- (2) 有効回答数 2,828人（有効回答率 56.6%）

5 集計・分析に当たって

- (1) 比率（%）は、小数点以下第2位を四捨五入して表示する。このため、各回答の比率の合計が100%にならないこと（99.9%、100.1%など）がある。満足度の平均点は、小数点以下第3位を四捨五入して算出する。
- (2) 18～19歳を10歳代として集計する。

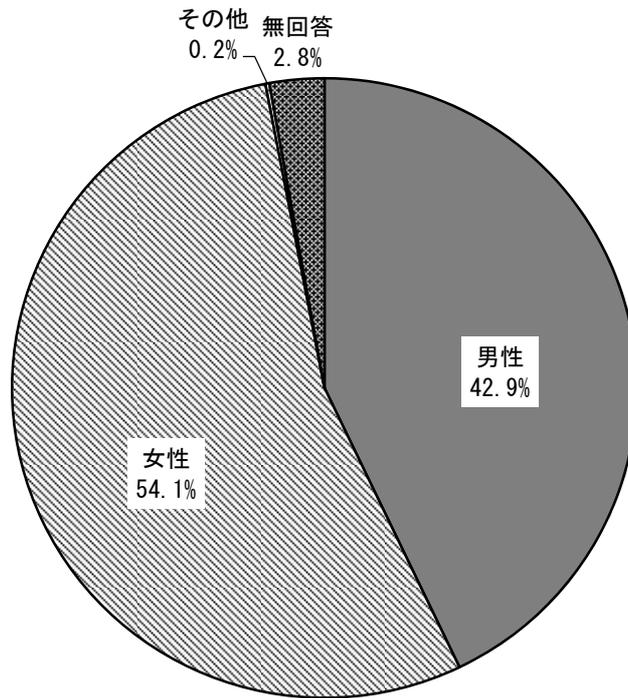
6 統計表

各設問の回答に関する統計データは、県の公式ウェブサイト「美の国あきたネット」(<http://www.pref.akita.lg.jp>)に掲載している。

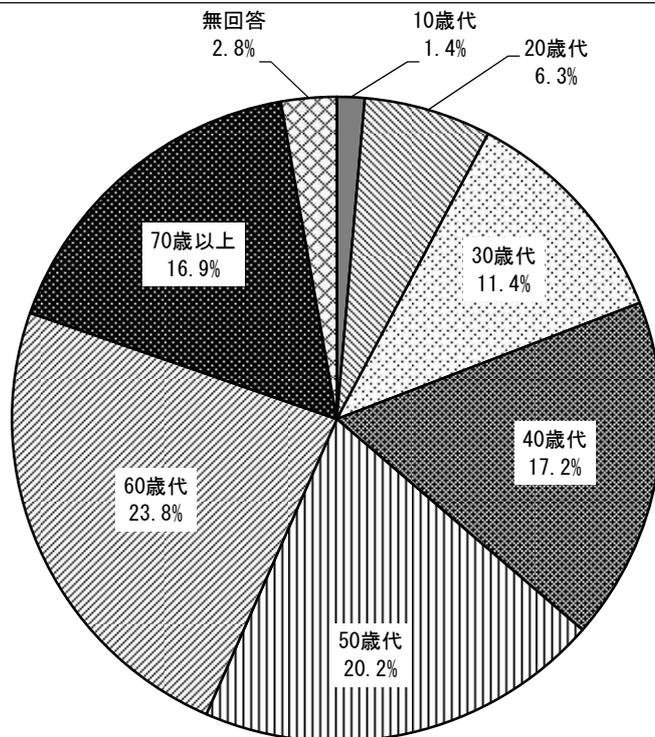
7 有効回答者の属性

属性		有効回答者		推計人口（H30.10.1現在）	
		客体数	構成比	18歳以上人口	構成比
合計		2,828	100.00%	850,076	100.00%
性別	男性	1,213	42.9%	393,851	46.3%
	女性	1,530	54.1%	456,225	53.7%
	その他	5	0.2%	—	—
	無回答	80	2.8%	—	—
年齢	18～19歳	39	1.4%	15,980	1.9%
	20～29歳	179	6.3%	61,044	7.2%
	30～39歳	323	11.4%	92,612	10.9%
	40～49歳	487	17.2%	121,864	14.3%
	50～59歳	572	20.2%	127,326	15.0%
	60～69歳	672	23.8%	169,333	19.9%
	70歳以上	478	16.9%	261,917	30.8%
	無回答	78	2.8%	—	—
18歳未満の子の有無	養育している	576	20.4%	—	—
	養育していない	2114	74.8%	—	—
	無回答	138	4.9%	—	—
出身	秋田県の出身	2543	89.9%	—	—
	秋田県以外の出身	202	7.1%	—	—
	無回答	83	2.9%	—	—
居住地域	鹿角地域	105	3.7%	30,796	3.6%
	北秋田地域	283	10.0%	91,961	10.8%
	山本地域	195	6.9%	68,097	8.0%
	秋田地域	1051	37.2%	333,399	39.2%
	由利地域	286	10.1%	87,158	10.3%
	仙北地域	398	14.1%	108,769	12.8%
	平鹿地域	250	8.8%	76,363	9.0%
	雄勝地域	180	6.4%	53,533	6.3%
	無回答	80	2.8%	—	—
職業	農業	210	7.4%	—	—
	林業	9	0.3%	—	—
	漁業	0	0.0%	—	—
	建設業	148	5.2%	—	—
	製造業	255	9.0%	—	—
	情報通信業	22	0.8%	—	—
	運輸業・郵便業	62	2.2%	—	—
	卸売業・小売業（観光関連）	21	0.7%	—	—
	卸売業・小売業（観光関連以外）	164	5.8%	—	—
	宿泊業	13	0.5%	—	—
	飲食サービス業	111	3.9%	—	—
	学術研究・学校教育・学習支援	81	2.9%	—	—
	医療・保健	145	5.1%	—	—
	福祉	156	5.5%	—	—
	公務（上記以外）	109	3.9%	—	—
	その他の業種	422	14.9%	—	—
	学生	47	1.7%	—	—
	無職	759	26.8%	—	—
	無回答	94	3.3%	—	—

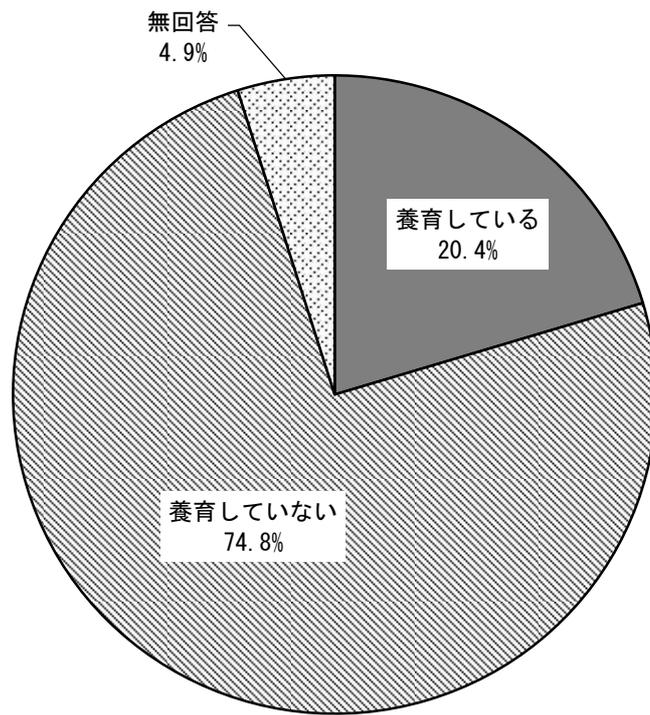
性別



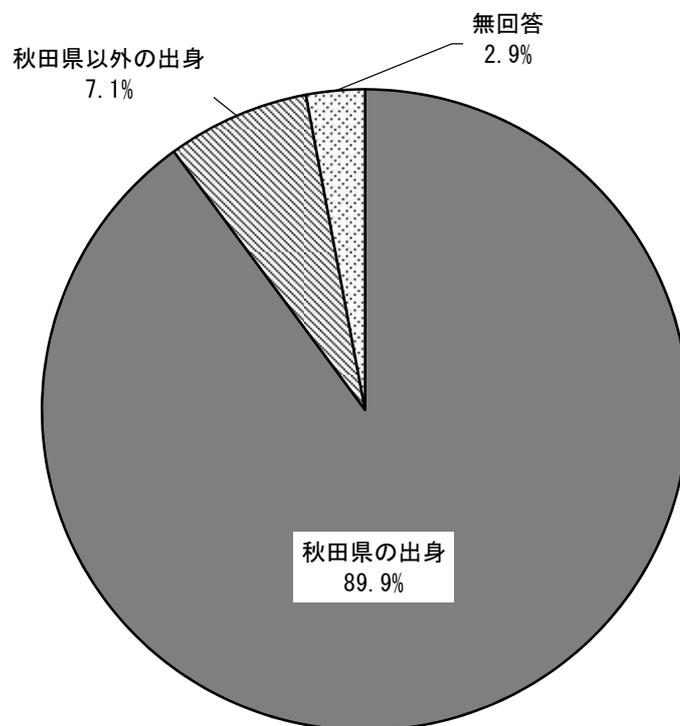
年齢



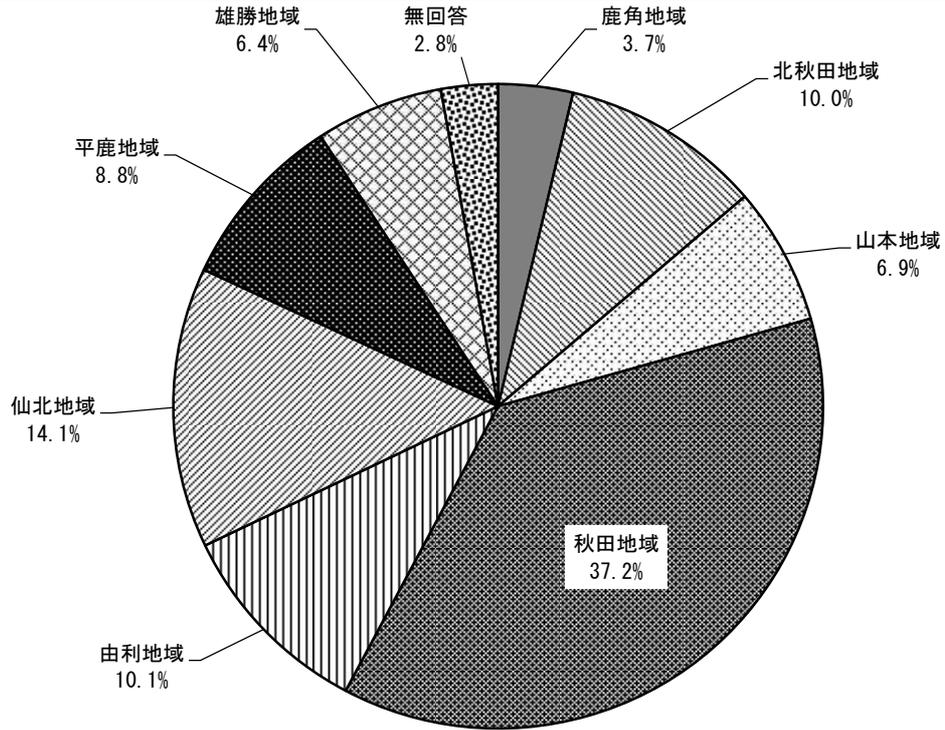
18歳未満の子の有無



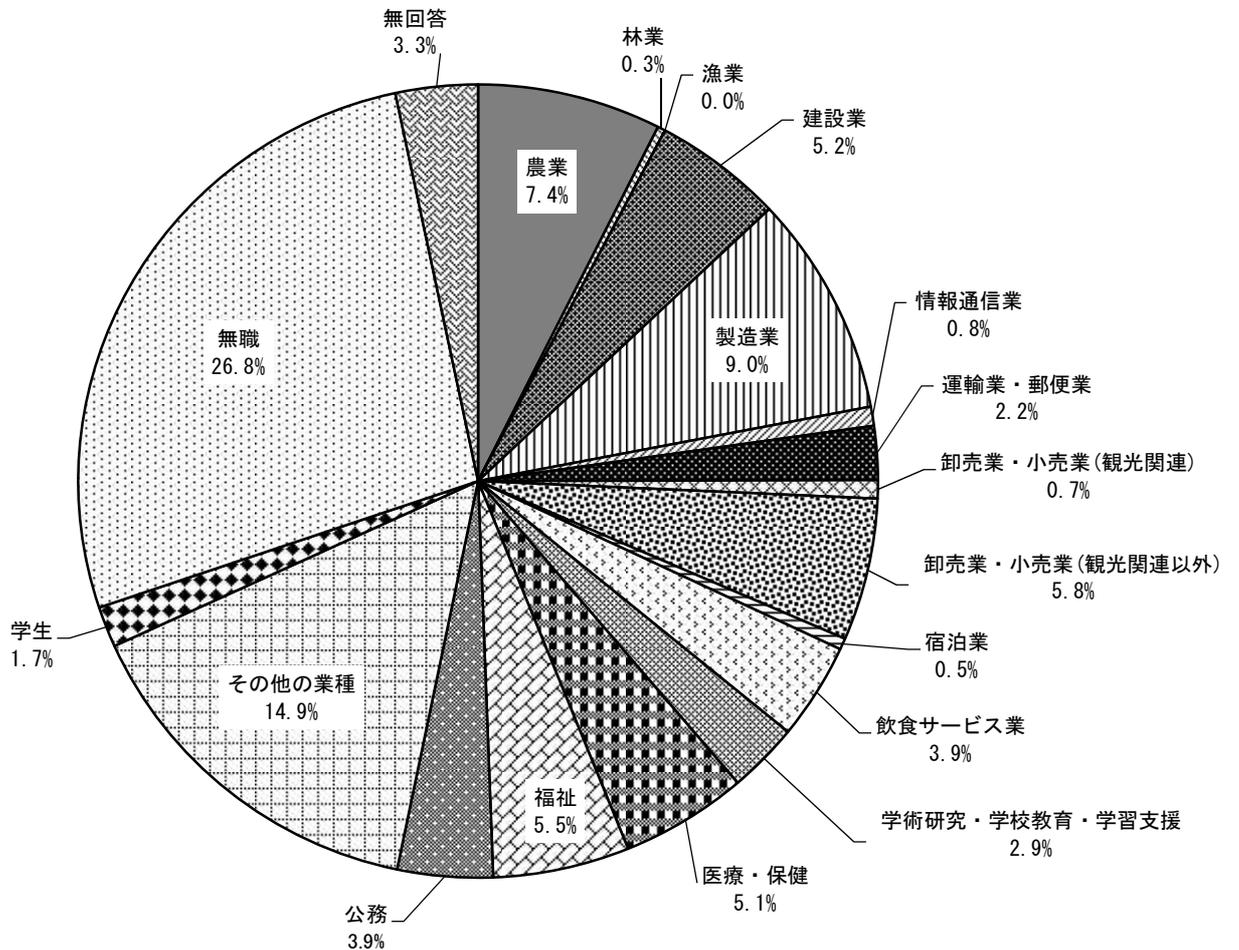
出身



居住地域



職業



8 標本抽出方法

(1) 層化及び標本数の配分

調査対象を県内 25 市町村で層化し、各市町村の満 18 歳以上の人口（平成 30 年 10 月 1 日現在）の構成比に応じて 5,000 の標本を比例分配した。

地域名	NO	市町村名	18 歳以上人口 (H30. 10. 1 現在)	18 歳以上人口 構成比	調査地点 人口按分
		県 計	850, 076	100. 00%	5, 000
鹿角地域	1	鹿角市	26, 377	3. 10%	155
	2	小坂町	4, 419	0. 52%	26
北秋田地域	3	大館市	62, 154	7. 31%	366
	4	北秋田市	27, 792	3. 27%	163
	5	上小阿仁村	2, 015	0. 24%	12
山本地域	6	能代市	44, 779	5. 27%	263
	7	藤里町	2, 797	0. 33%	16
	8	三種町	14, 354	1. 69%	84
	9	八峰町	6, 167	0. 73%	36
秋田地域	10	秋田市	261, 783	30. 80%	1, 540
	11	男鹿市	23, 942	2. 82%	141
	12	潟上市	27, 908	3. 28%	164
	13	五城目町	7, 922	0. 93%	47
	14	八郎潟町	5, 106	0. 60%	30
	15	井川町	4, 182	0. 49%	25
	16	大潟村	2, 556	0. 30%	15
由利地域	17	由利本荘市	66, 323	7. 80%	390
	18	にかほ市	20, 835	2. 45%	123
仙北地域	19	大仙市	69, 030	8. 12%	406
	20	仙北市	22, 813	2. 68%	134
	21	美郷町	16, 926	1. 99%	100
平鹿地域	22	横手市	76, 363	8. 98%	449
雄勝地域	23	湯沢市	38, 739	4. 56%	228
	24	羽後町	12, 576	1. 48%	74
	25	東成瀬村	2, 218	0. 26%	13

(2) 報告書の見方

母集団全体の中から一部を抽出する標本調査では、母集団全体を対象に行った調査と比べ、何らかの誤差が生ずる。本調査では信頼係数を95%と設定しており、誤差は以下の式で得られる。第Ⅲ部では点推定値を掲載しているが、以上のような誤差をもっている。

①回答割合の誤差 標本誤差 = $1.96 \times \sqrt{p(1-p)/n}$	N=母集団数 n=標本数
②回答結果の平均値の誤差 標本誤差 = $1.96 \times s/\sqrt{n}$	s=標本標準偏差 p=回答比率

①の回答割合に関しては、本調査における誤差の早見表を以下に記載する。この表では、例えば、「全体」の50%から「十分」という回答比率が得られた間について、繰り返し標本を抽出し推定を何度も行った場合、95%の確率で母割合（全県民が「十分」と考える割合）を50%±1.8%の範囲内に含むことを表しており、例えば、100回中95回は誤差を含めた範囲内に母割合を含むが、5回は含まないときがある。

回答割合の誤差の早見表

項目名	N:母集団数 (人)	n:回答者数 (人)	p:回答比率(%)				
			10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
全体	850,076	2,828	1.1%	1.5%	1.7%	1.8%	1.8%
年代別							
18～39歳	169,636	541	2.5%	3.4%	3.9%	4.1%	4.2%
40～59歳	249,190	1,059	1.8%	2.4%	2.8%	3.0%	3.0%
60歳以上	431,250	1,150	1.7%	2.3%	2.6%	2.8%	2.9%

※無回答の78人を含むため、年代別の計と一致しない。

②の回答結果の平均値に関し、誤差を考慮した区間推定結果を以下に掲載する。この推定の精度は、繰り返し標本を抽出し推定を何度も行った場合に95%の確率で母平均（母集団である全県民の回答の平均値）をその範囲内に含む程度であり、例えば、100回中95回は信頼区間の中に母平均を含むが、5回は含まないときがある。

回答結果の平均値の区間推定

質問No.	全体		年代別					
			18～39歳		40～59歳		60歳以上	
	標本平均値	信頼区間	標本平均値	信頼区間	標本平均値	信頼区間	標本平均値	信頼区間
1	1.88	1.85～1.92	1.90	1.82～1.98	1.79	1.73～1.84	1.98	1.92～2.03
2	2.21	2.17～2.25	2.23	2.14～2.32	2.16	2.10～2.22	2.26	2.20～2.32
3	2.62	2.58～2.65	2.61	2.52～2.71	2.63	2.57～2.69	2.60	2.55～2.66
4	2.40	2.37～2.44	2.41	2.32～2.50	2.38	2.32～2.43	2.44	2.38～2.49
5	2.34	2.30～2.37	2.39	2.30～2.47	2.24	2.18～2.30	2.41	2.36～2.47
6	2.17	2.13～2.21	2.29	2.19～2.38	2.16	2.10～2.22	2.12	2.06～2.18
7	2.22	2.18～2.26	2.28	2.19～2.37	2.18	2.12～2.24	2.23	2.17～2.28
8	2.12	2.08～2.16	2.37	2.27～2.46	2.12	2.05～2.18	2.03	1.97～2.09
9	2.23	2.19～2.27	2.29	2.20～2.38	2.21	2.15～2.27	2.22	2.16～2.28
10	2.62	2.58～2.66	2.83	2.74～2.93	2.63	2.57～2.70	2.51	2.45～2.57
11	3.25	3.22～3.29	3.42	3.34～3.50	3.27	3.22～3.33	3.17	3.11～3.22
12	3.12	3.08～3.16	3.35	3.26～3.44	3.06	3.00～3.12	3.07	3.01～3.12
13	2.98	2.94～3.02	3.20	3.12～3.28	2.97	2.91～3.03	2.90	2.85～2.95
14	2.89	2.85～2.93	3.15	3.07～3.24	2.93	2.86～2.99	2.75	2.69～2.81
15	2.84	2.80～2.87	3.15	3.06～3.24	2.81	2.75～2.87	2.71	2.66～2.76
16	2.60	2.57～2.64	2.96	2.87～3.04	2.64	2.58～2.71	2.41	2.35～2.47
17	2.75	2.71～2.79	2.85	2.76～2.95	2.77	2.71～2.84	2.68	2.62～2.74
18	3.11	3.08～3.15	3.31	3.24～3.39	3.11	3.05～3.17	3.01	2.96～3.07
19	2.81	2.78～2.85	2.92	2.82～3.01	2.79	2.72～2.85	2.78	2.73～2.84
20	2.95	2.91～2.98	2.97	2.88～3.06	2.96	2.90～3.02	2.95	2.90～3.00
21	2.69	2.65～2.73	2.65	2.57～2.74	2.63	2.57～2.69	2.78	2.72～2.83
22	2.41	2.37～2.45	2.30	2.21～2.39	2.33	2.27～2.39	2.55	2.50～2.61
23	3.00	2.97～3.03	2.77	2.69～2.86	2.97	2.91～3.02	3.13	3.08～3.18
24	2.41	2.37～2.44	2.23	2.13～2.32	2.35	2.28～2.41	2.54	2.48～2.60
25	2.51	2.47～2.55	2.43	2.33～2.53	2.33	2.27～2.39	2.72	2.66～2.78
26	2.72	2.69～2.76	2.75	2.65～2.85	2.63	2.57～2.69	2.80	2.75～2.86
27	2.80	2.77～2.84	2.77	2.68～2.87	2.75	2.69～2.81	2.86	2.81～2.91
28	3.06	3.03～3.10	3.05	2.96～3.14	3.04	2.99～3.10	3.10	3.05～3.14
29	3.25	3.22～3.28	3.25	3.17～3.33	3.21	3.16～3.27	3.29	3.24～3.33
30	2.94	2.91～2.98	3.06	2.97～3.15	2.90	2.84～2.96	2.93	2.88～2.98
31	3.09	3.06～3.12	3.17	3.09～3.25	3.03	2.98～3.08	3.10	3.06～3.15
32	3.03	3.00～3.06	3.12	3.04～3.20	3.01	2.96～3.06	3.01	2.96～3.06
33	2.96	2.92～2.99	3.08	2.99～3.16	2.92	2.87～2.98	2.94	2.88～2.99
34	2.99	2.96～3.03	3.11	3.04～3.19	2.94	2.89～3.00	2.99	2.95～3.04

第Ⅱ部 調査結果の概要

1 第1章「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」について (P19~57)

「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」の6つの戦略の各施策に関連する事柄について、5「十分」、4「おおむね十分」、3「ふつう」、2「やや不十分」、1「不十分」及びN「わからない」の中から1つを選択する形式で満足度の状況等を調査した。

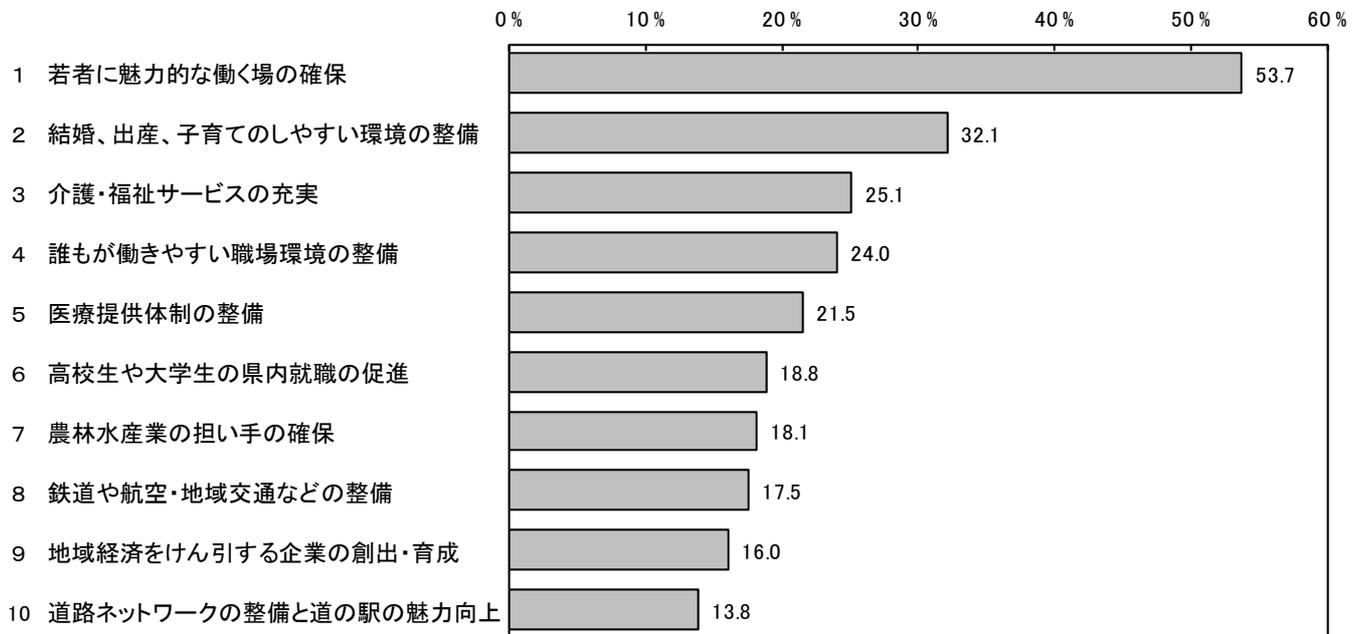
	満足度	回答の割合 (%)							
		十分(5)	おおむね十分(4)	ふつう(3)	やや不十分(2)	不十分(1)	わからない	無回答	
戦略1	1 若者にとって魅力的な働く場が確保されている。	1.88	0.3	2.0	23.5	24.6	38.7	9.8	1.1
	2 高校生や大学生の県内就職が進んでいる。	2.21	0.4	5.3	28.9	26.0	23.1	15.3	1.0
	3 安心して子育てができる社会になっている。	2.62	1.3	12.5	40.8	20.6	14.5	9.1	1.1
	4 女性や若者が職場や地域で生き生きと活躍できる社会になっている。	2.40	0.7	5.6	39.7	25.5	17.2	10.0	1.2
	5 地域交通や買い物サービスなどの日常生活に必要な機能が維持され、安心して生き生きと生活できる地域社会になっている。	2.34	0.9	7.6	35.7	26.5	22.2	5.7	1.5
戦略2	6 地域経済を牽(けん)引することができる競争力を持った企業が増えている。	2.17	0.2	2.7	27.8	22.9	21.2	23.7	1.6
	7 中小企業の安定した経営が確保されている。	2.22	0.1	2.6	29.3	24.6	18.6	23.2	1.5
	8 企業誘致が進んでいる。	2.12	0.5	3.2	24.9	23.0	23.4	23.5	1.4
戦略3	9 産業人材の確保・育成が進んでいる。	2.23	0.3	2.7	28.9	23.7	18.3	24.6	1.6
	10 農林水産業で働く人が、地域で元気に活躍している。	2.62	0.9	8.2	36.8	16.7	10.7	24.5	2.1
	11 えだまめ、ねぎ、しいたけ、キク、秋田牛などの生産が盛んに行われている。	3.25	3.9	27.2	41.4	7.9	2.9	15.2	1.4
	12 あきたこまちをはじめ、全国の産地間競争に打ち勝つ米づくりが盛んに行われている。	3.12	4.8	23.5	39.9	12.7	5.1	12.6	1.4
	13 飲料や発酵食品など、県産の農林水産物を生かした加工品づくりや販売が盛んに行われている。	2.98	2.7	16.3	44.0	13.4	4.9	17.4	1.3
	14 秋田スギ丸太の生産量が増大し、県産材の利用が進んでいる。	2.89	2.1	10.6	36.8	12.1	4.9	31.9	1.7
	15 ハタハタ、マダイ、ヒラメ、サケなど、県内で獲れた多様な魚が流通・販売されている。	2.84	2.4	10.9	43.0	15.3	6.6	20.4	1.4
16 豊かな農山漁村で生き生きとした暮らしが営まれ、農地・森林を守る活動などが行われている。	2.60	1.1	7.6	35.6	17.7	10.3	26.2	1.6	

		満足度	回答の割合 (%)						わからない	無回答
			十分(5)	おおむね十分(4)	ふつう(3)	やや不十分(2)	不十分(1)			
戦略4	17	国内外から観光誘客が進んでいる。	2.75	1.9	16.1	37.1	18.2	11.5	12.9	2.4
	18	日本酒や発酵食品など、秋田の食品が国内外の市場で盛んに流通している。	3.11	3.0	22.6	41.6	11.0	4.1	15.7	1.9
	19	国内外に秋田ならではの文化の魅力が伝えられている。	2.81	2.4	15.7	39.7	18.5	8.9	12.5	2.4
	20	スポーツに関連する様々な活動が盛んに行われ、地域に活気もたらされている。	2.95	2.6	18.7	45.5	14.3	7.1	9.5	2.3
	21	地域間の交流や生活を支える県内の道路ネットワークが整備されている。	2.69	1.2	11.5	43.6	18.2	11.1	12.2	2.3
	22	鉄道や航空、地域交通など利便性の高い交通ネットワークが整備されている。	2.41	1.2	8.5	34.9	24.8	19.1	9.4	2.1
戦略5	23	食事やたばこなど、これまでの生活習慣を見直し、健康づくりに取り組む県民の意識が高まってきている。	3.00	2.0	19.5	50.0	11.7	5.8	9.8	1.1
	24	誰も自殺に追い込まれることのないよう、悩みを抱えた方が相談しやすい環境が整っている。	2.41	0.8	5.5	34.5	20.5	16.4	21.0	1.2
	25	どこに住んでいても、安心して医療を受けられる体制が整っている。	2.51	2.3	10.3	37.3	24.5	17.5	6.8	1.3
	26	高齢者や障害がある方などが、住み慣れた地域でニーズに合った介護・福祉サービスを受けることができる。	2.72	1.9	12.1	43.0	17.6	10.9	13.3	1.1
	27	全ての子どもが生まれ育った環境にかかわらず、健やかに育まれる支援体制が整っている。	2.80	1.8	11.4	45.7	14.3	8.5	17.1	1.2
戦略6	28	学校教育を通じて、ふるさと秋田を愛し支える心が育まれている。	3.06	2.8	16.2	49.0	8.3	4.1	17.7	1.8
	29	学校教育を通じて、意欲的に学ぼうとする態度や、自ら考え、判断し、表現する力が育まれている。	3.25	3.5	23.7	45.4	5.8	2.4	17.5	1.7
	30	学校教育を通じて、外国文化を理解しようとする態度や、英語でコミュニケーションをとる能力が育まれている。	2.94	2.0	14.6	42.3	13.2	4.9	21.3	1.8
	31	学校教育を通じて、他人への思いやりなどの豊かな人間性と健やかな体が育まれている。	3.09	2.1	17.7	50.4	8.0	3.4	16.7	1.7
	32	学校・家庭・地域が連携し、社会全体で子どもたちの成長を支えていく体制が整備されている。	3.03	2.3	17.1	49.2	10.6	4.2	14.8	1.8
	33	県内の大学等で、地域の活性化につながる教育・研究・社会貢献活動が行われている。	2.96	1.4	10.8	40.7	9.6	3.4	32.3	1.7
	34	県民の多様な生涯学習の機会や芸術文化に触れる機会が提供されている。	2.99	1.8	14.3	49.1	10.1	4.1	19.0	1.7

2 第2章 県政の重要課題について (P58~62)

今後の県政を推進していく上で、「重要課題として県に力を入れて欲しいこと」を50の選択肢の中から5つまでを選ぶ形式で調査した。

重要課題として県に力を入れて欲しいこと（上位10項目）



3 第3章 県の特定課題について (P63~86)

県の特定課題として、次の13課題について調査した。

- (1) 県の広報活動について
- (2) 家庭での防災活動について
- (3) 読書活動について
- (4) 男女共同参画について
- (5) 社会活動・地域活動について
- (6) 地域社会の住みやすさについて
- (7) 子育て環境づくりについて
- (8) 高齢者の社会参加について
- (9) がん対策について
- (10) 環境保全活動について
- (11) 地球温暖化対策について
- (12) 海岸漂着ごみ対策について
- (13) 循環型社会の形成について

4 第4章 県政への自由意見について (P87~99)

県に力を入れて欲しいことや、取り組むべきだと思うことについて、722人から1,017件の意見が寄せられた。

項番	項 目	件数
A	少子化対策・子育て支援・結婚支援に関すること	103
B	移住・定住に関すること	37
C	女性・若者の活躍支援に関すること	25
D	地域社会の維持・活性化に関すること	45
E	商工業・雇用・労働に関すること	176
F	農林水産業に関すること	39
G	観光に関すること	36
H	文化・スポーツに関すること	20
I	道路・交通ネットワークに関すること	82
J	健康・医療・福祉に関すること	83
K	教育に関すること	35
L	県土の保全・防災に関すること	4
M	身近な生活・環境に関すること	50
N	県政全般に対する意見・その他	282
	合 計	1,017

第Ⅲ部 調査結果の詳細

第1章 「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」について

1 各戦略の施策に関連する事柄についての満足度（問1）

プランの各施策に関連する事柄について、満足度を5「十分」～1「不十分」の5段階で質問した。

(1) 戦略1 秋田の未来につながるふるさと定着回帰戦略について

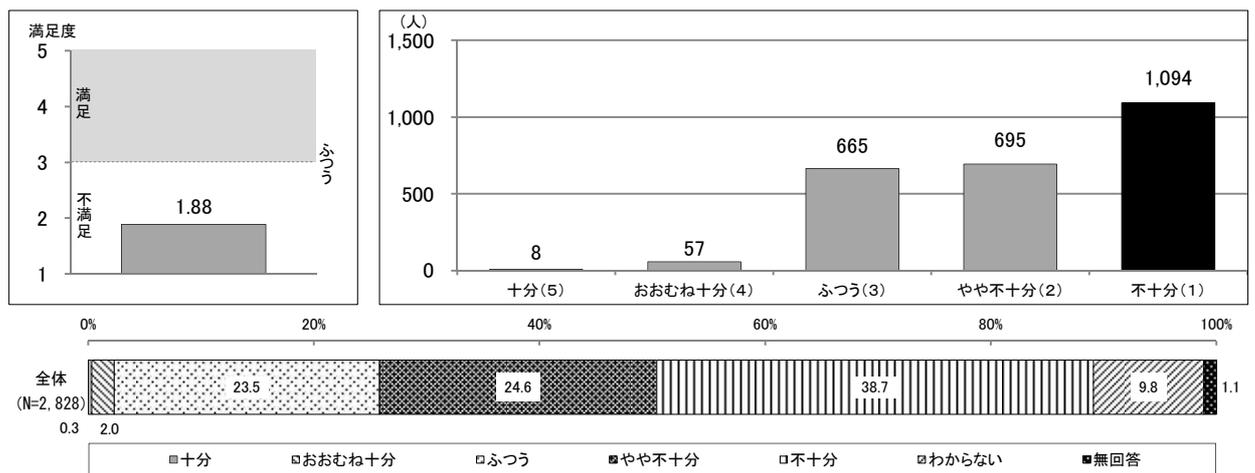
ア 社会減の抑制に向けた雇用の場の創出、人材育成・確保

問1-1 若者にとって魅力的な働く場が確保されている。

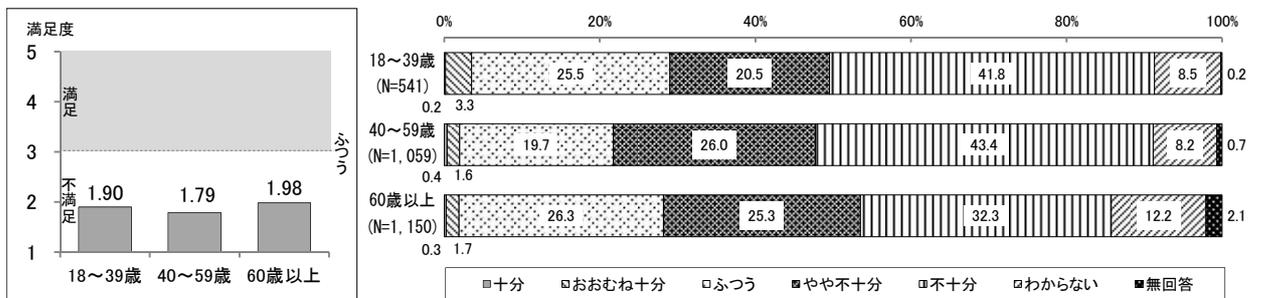
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は1.88で、「ふつう」の3より1.12低かった。回答では「不十分」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は2.3%、「ふつう」は23.5%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は63.3%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は25.8%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度が最も高く1.98であり、不満を感じていない人の割合は28.3%であった。一方、「40～59歳」の満足度は1.79であり、不満を感じていない人の割合は21.7%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した 1,789 人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、717 人 (40.1%) から回答があった。

回答の一部

- 働く場が少なく、賃金も他県に比べて低いように思う。(女性/40 歳代/北秋田地域)
- 大卒の就職先として県外が多い。高卒は県内就職が増えているが、地元志向の結果であり、魅力的企業が多いからではないと考える。(男性/30 歳代/秋田地域)
- 若者が希望する職場、職種が足りていないのはもちろんだが、旧態依然の職場環境(低賃金を含む。)が若者の離職を促進してるのではないかと思う。県には、今以上に I T 企業や大手企業等の誘致に努力していただきたい。(男性/50 歳代/秋田地域)

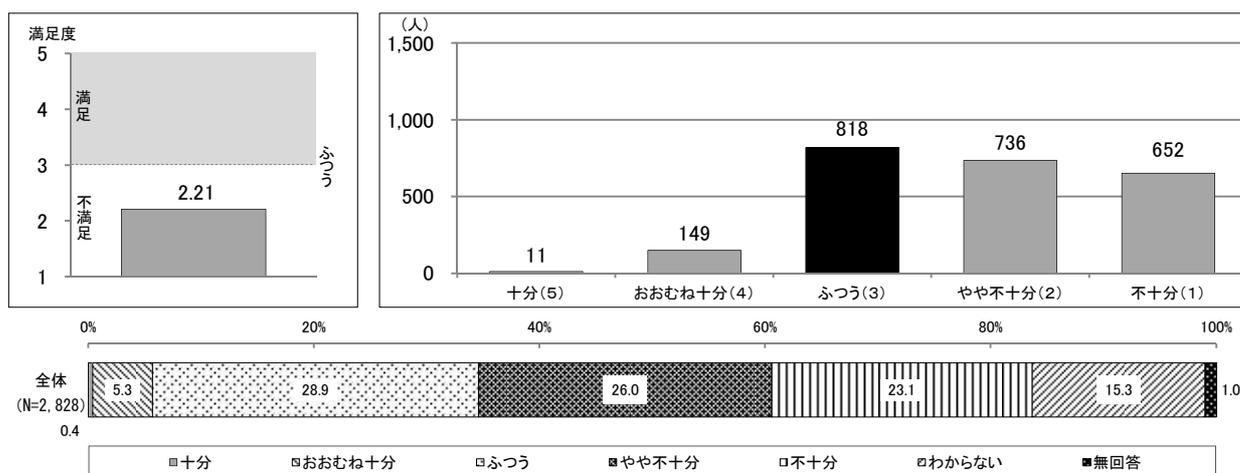
イ 若者の県内定着・回帰と移住の促進による秋田への人の流れづくり

問 1-2 高校生や大学生の県内就職が進んでいる。

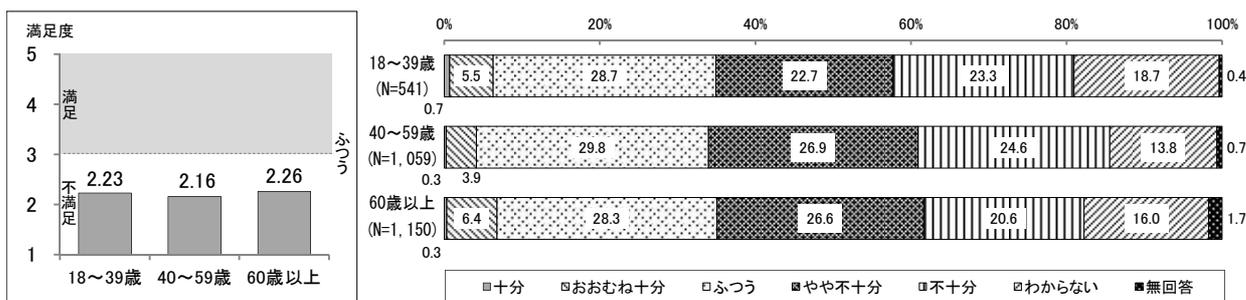
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.21で、「ふつう」の3より0.79低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は5.7%、「ふつう」は28.9%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は49.1%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は34.6%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度が最も高く2.26であり、不満を感じていない人の割合は35.0%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.16であり、不満を感じていない人の割合は34.0%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,388人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、408人(29.4%)から回答があった。

回答の一部

- 県外の就職先の方が様々な分野があり魅力的なものも多く、県内就職はあまり進んでいるとは思えない。(女性/20歳代/仙北地域)
- 将来性、安定性において県外企業に劣る。転職先が少ない。(男性/40歳代/秋田地域)
- 県内大学で就職の指導をしているが、地元出身の学生も就職時には県外に出たがる。大企業が少ないこともあるが、このまま一生を秋田県内で過ごすことをもったいないと感じている学生も多い。(男性/40歳代/秋田地域)

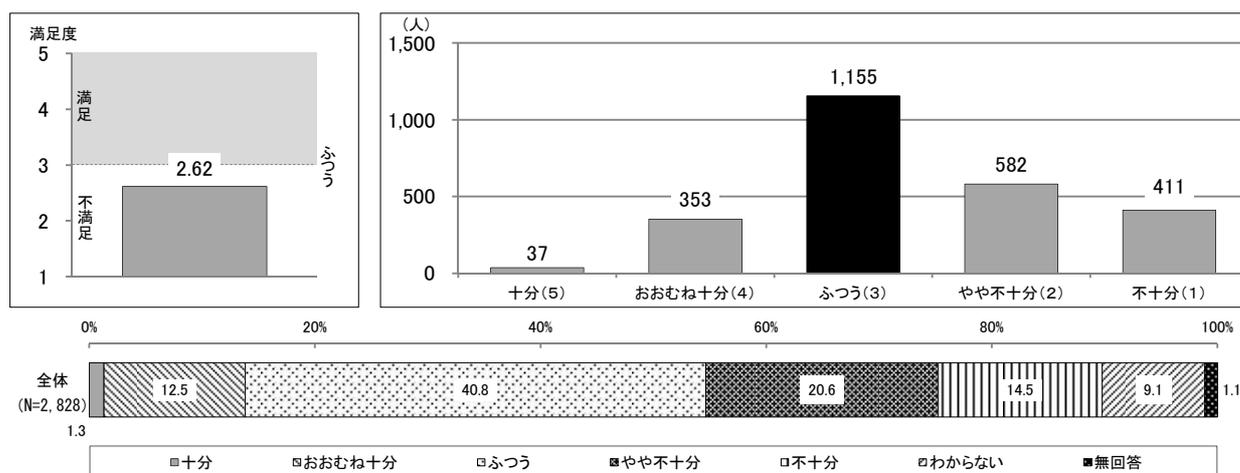
ウ 結婚や出産、子育ての希望をかなえる全国トップレベルのサポート

問 1-3 安心して子育てができる社会になっている。

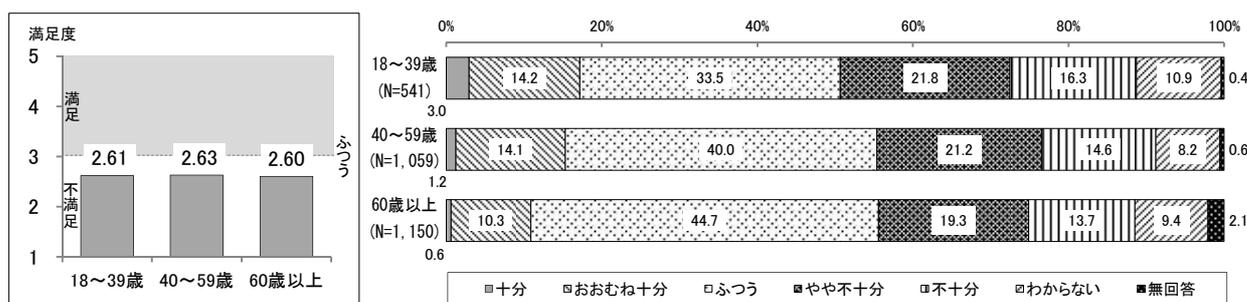
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.62で、「ふつう」の3より0.38低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は13.8%、「ふつう」は40.8%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は35.1%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は54.6%であった。



年代別では、「40～59歳」の満足度が最も高く2.63であり、不満を感じていない人の割合は55.3%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.60であり、不満を感じていない人の割合は55.6%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した993人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、278人(28.0%)から回答があった。

回答の一部

- 子どもを生んで働けというわりに子育てに理解がある会社がまだまだ少ない。(女性/30歳代/仙北地域)
- 仕事内容によっては休日にも仕事の方もいる。特に地方では子どもを預ける場所が少ない。(女性/40歳代/北秋田地域)
- 「子育て」は、義務教育終了段階までを指して使う言葉ではないと思う。子どもが一人前に自立していくまでの過程を支える支援は不足している。(女性/50歳代/由利地域)

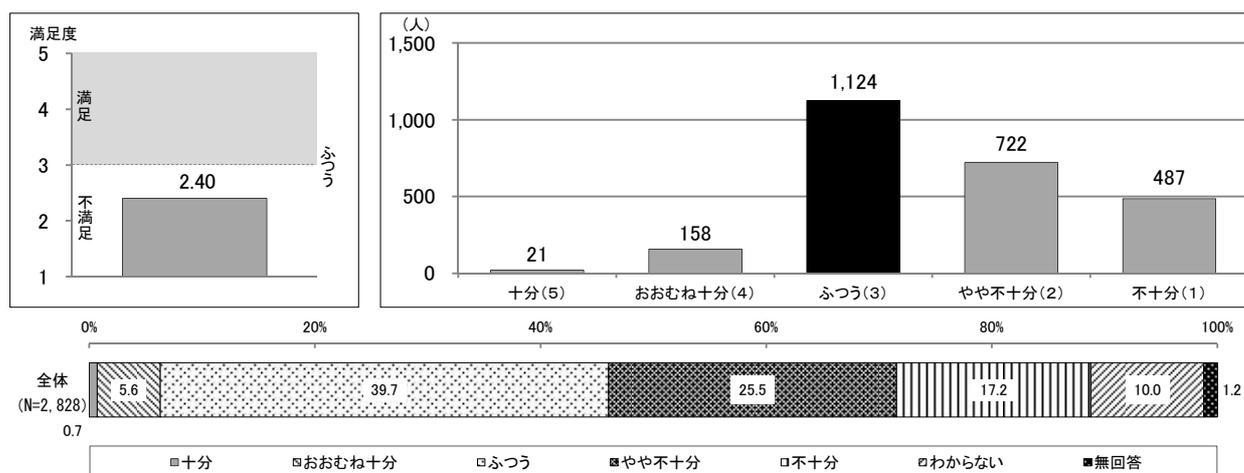
エ 女性や若者の活躍推進とワーク・ライフ・バランスの実現

問1-4 女性や若者が職場や地域で生き生きと活躍できる社会になっている。

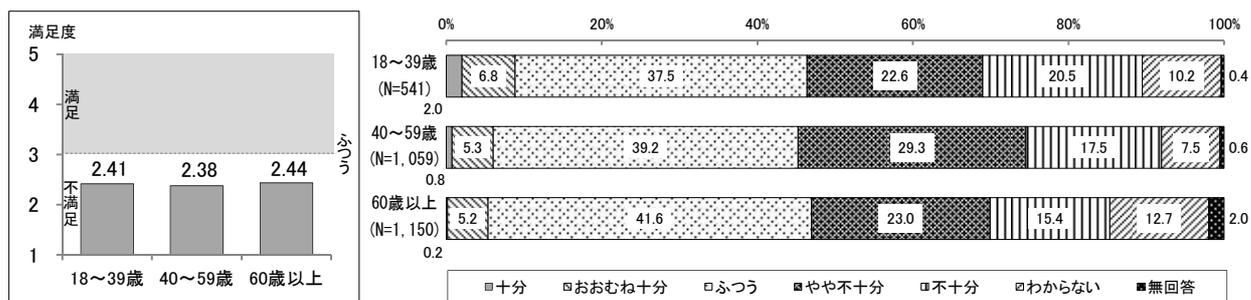
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.40で、「ふつう」の3より0.60低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は6.3%、「ふつう」は39.7%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は42.7%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は46.0%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度が最も高く2.44であり、不満を感じていない人の割合は47.0%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.38であり、不満を感じていない人の割合は45.3%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,209人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、280人(23.2%)から回答があった。

回答の一部

- 「女性の活躍＝昇進、管理職」というような風潮があるが、私は少し違うと思う。どうしても男女で体力や性質は違うのだから、良い意味での“女性らしさ”が発揮されるような働く場や働き方がもっと広まればよいと思う。(女性/30歳代/秋田地域)
- 子育ては女性に負担が多いので、職場の理解や夫の協力がまだまだ不十分を感じる。(女性/40歳代/北秋田地域)
- 転勤してきた同僚から見ると村社会的な空気感が非常に強いらしい。それでは若者は定着していかないと思う。女性や若者が活躍できる場を提供することに力を入れている企業を厚く支援し、変わることへのインセンティブを与えるべき。(男性/30歳代/仙北地域)

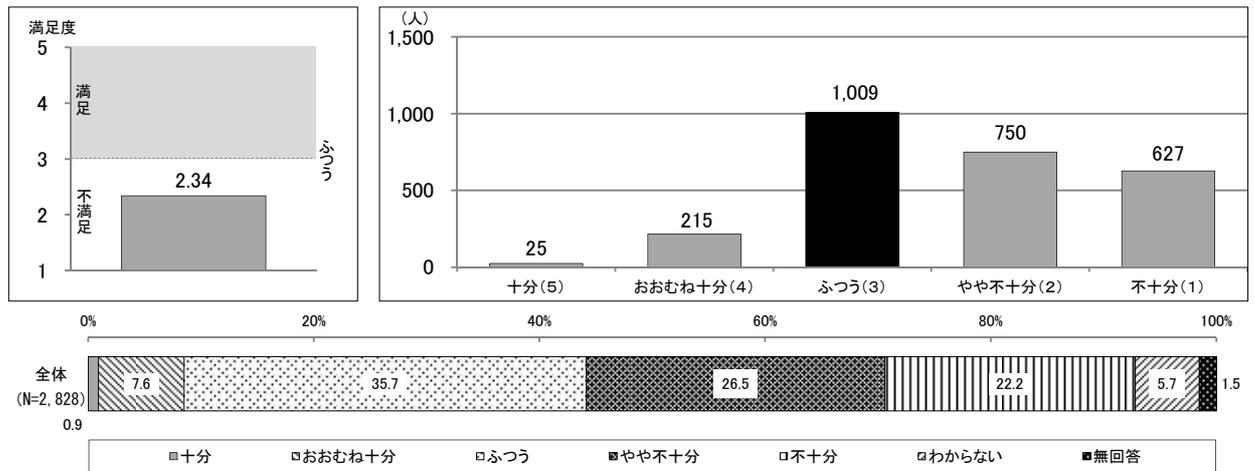
オ 活力にあふれ、安心して暮らすことができる地域社会づくり

問 1-5 地域交通や買い物サービスなどの日常生活に必要な機能が維持され、安心して生き生きと生活できる地域社会になっている。

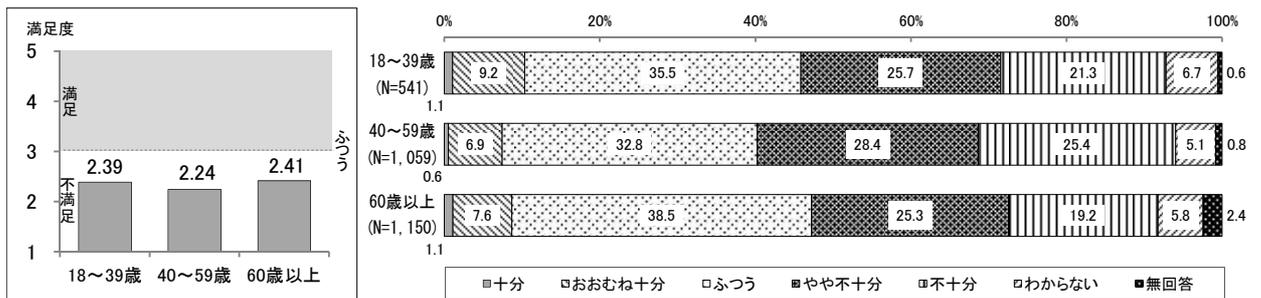
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.34で、「ふつう」の3より0.66低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は8.5%、「ふつう」は35.7%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は48.7%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は44.2%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度が最も高く2.41であり、不満を感じていない人の割合は47.2%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.24であり、不満を感じていない人の割合は40.3%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,377人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、472人(34.3%)から回答があった。

回答の一部

- 買い物難民が加速しているように思える。店(食料品店、金融機関、ガソリンスタンド)が近くなって遠くまで行かなければならない。(男性/60歳代/北秋田地域)
- マイカー以外の交通手段が不便なため必然的に買い物も不便になる。これでは自動車免許の返納もできない。(男性/60歳代/平鹿地域)
- 全員が自らの足で買い物をする場所まで出向くということはもう限界のような気がする。必要最低限のネット利用のための高齢者向け教室を開催するなどしてネット通販の利用を促進したり、移動販売を行う企業への支援などを行っていくべき。(男性/30歳代/山北地域)

(2) 戦略2 社会の変革へ果敢に挑む産業振興戦略について

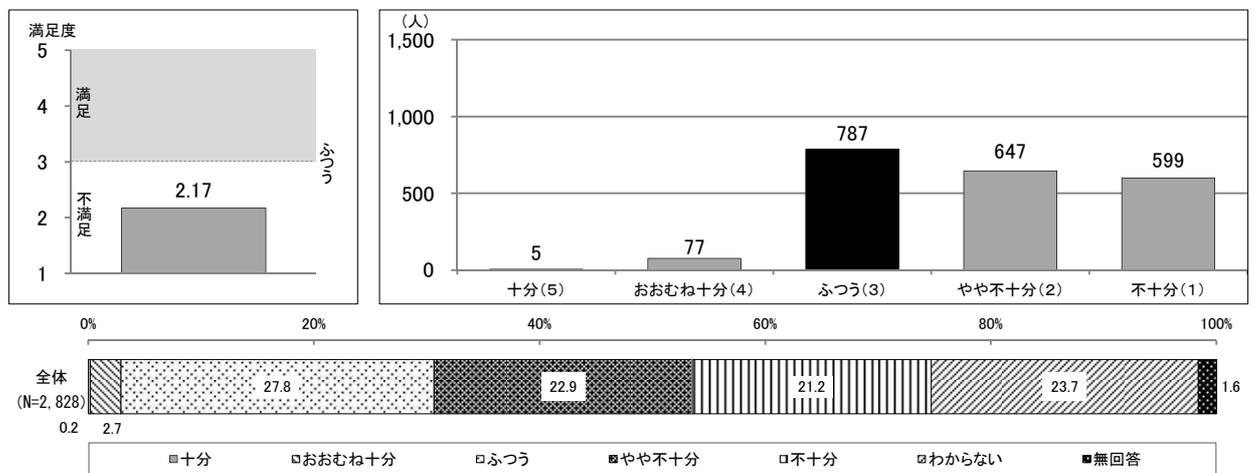
ア 成長分野の競争力強化と中核企業の創出・育成

問1-6 地域経済を牽引することができる競争力を持った企業が増えている。

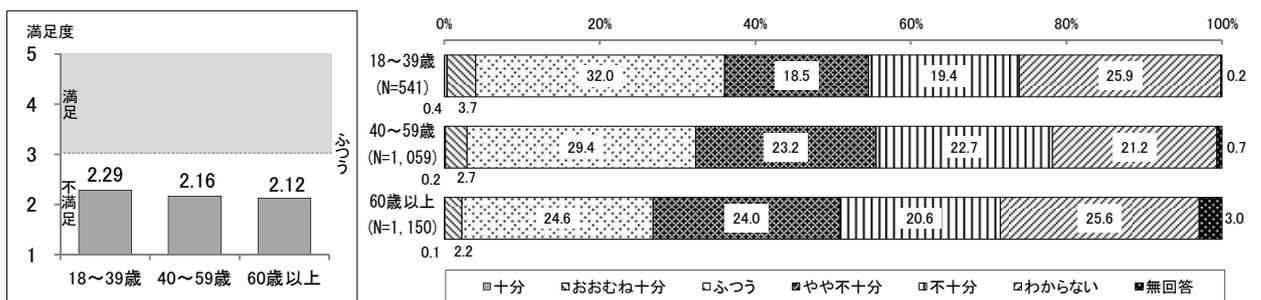
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.17で、「ふつう」の3より0.83低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は2.9%、「ふつう」は27.8%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は44.1%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は30.7%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.29であり、不満を感じていない人の割合は36.1%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.12であり、不満を感じていない人の割合は26.9%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,246人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、267人(21.4%)から回答があった。

回答の一部

- 地場というよりも誘致された企業が地域の経済を支えている。地場企業がもっと上場できたり、中央と戦えれば面白いと思う。(男性/30歳代/北秋田地域)
- 面白い独自の取組をしている企業は何か所か出てきているが、地域経済を牽引するほどの規模のものは少ないと感じる。(男性/30歳代/秋田地域)
- 若者の県外流出を食い止めるほどの競争力がある企業はまだ少ない。(女性/60歳代/秋田地域)

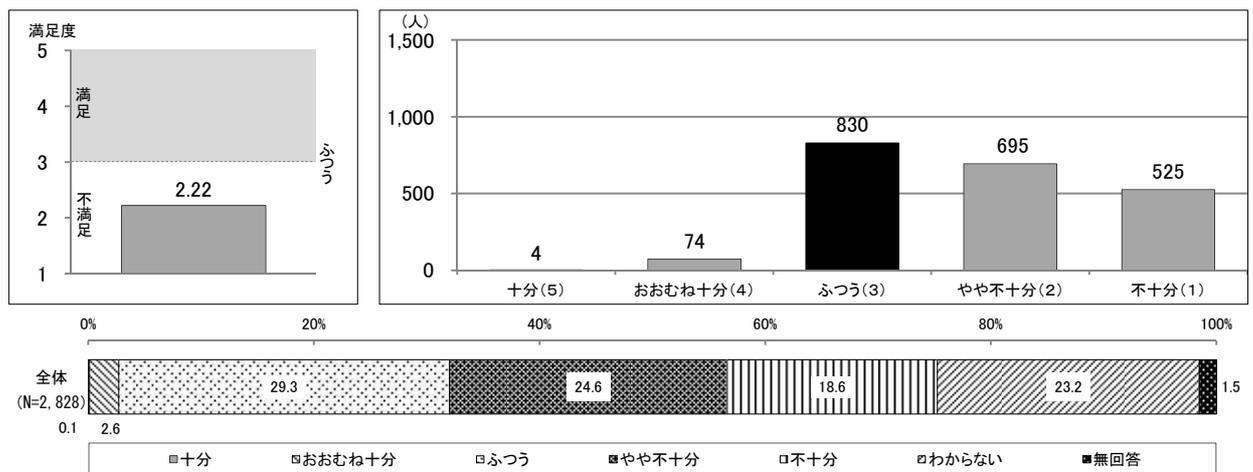
イ 中小企業・小規模企業者の活性化と生産性向上

問1-7 中小企業の安定した経営が確保されている。

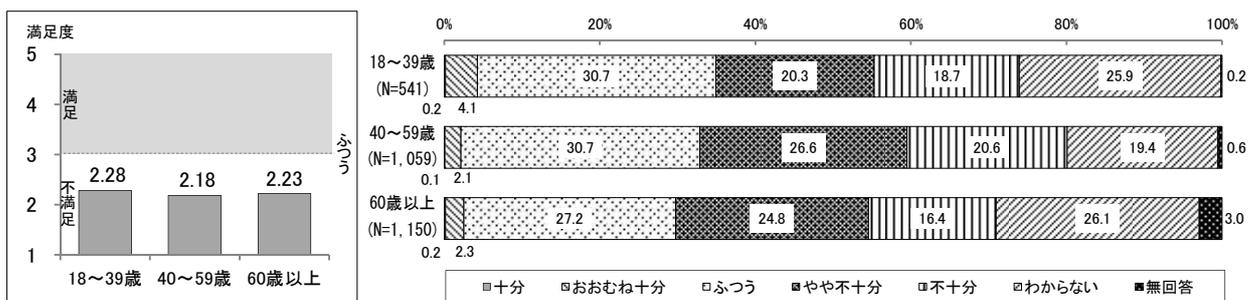
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.22で、「ふつう」の3より0.78低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は2.7%、「ふつう」は29.3%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は43.2%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は32.0%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.28であり、不満を感じていない人の割合は35.0%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.18であり、不満を感じていない人の割合は32.9%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,220人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、200人(16.4%)から回答があった。

回答の一部

- 地域経済が縮小していく中で、中小企業はパイの奪い合いになっている。(男性/40歳代/北秋田地域)
- 後継者不在や人手不足により、安定した経営が確保されているとは言いがたい。(男性/30歳代/仙北地域)
- 目先の状況に甘んじず、中小企業のコンプライアンス、経営方針(内容)等、体質改善が望まれる。(男性/40歳代/由利地域)

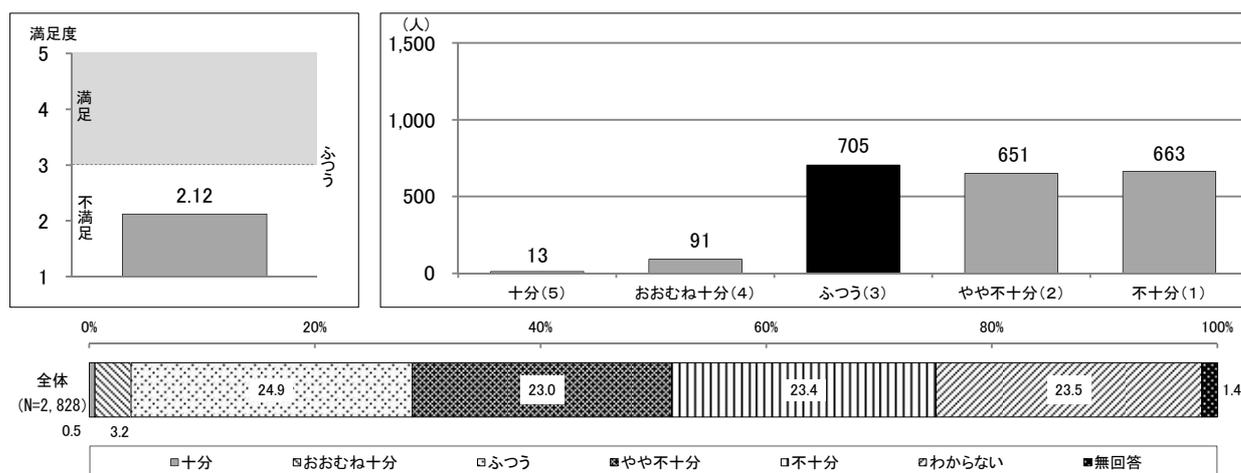
ウ 国内外の成長市場の取り込みと投資の促進

問 1-8 企業誘致が進んでいる。

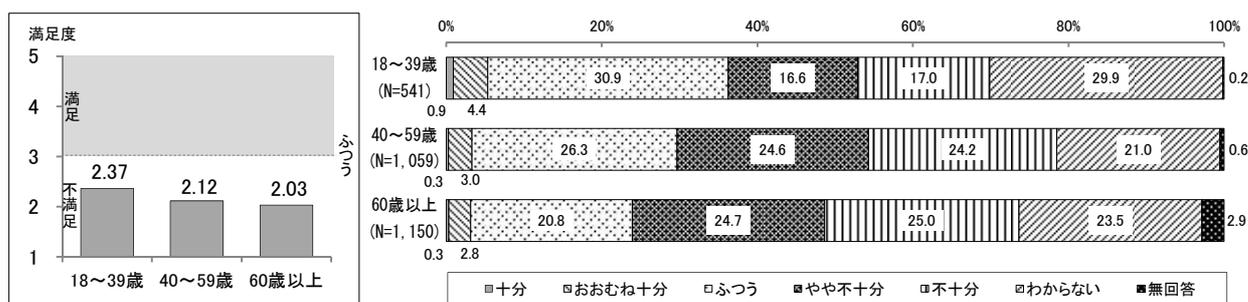
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.12で、「ふつう」の3より0.88低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は3.7%、「ふつう」は24.9%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は46.4%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は28.6%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.37であり、不満を感じていない人の割合は36.2%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.03であり、不満を感じていない人の割合は23.9%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,314人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、224人(17.0%)から回答があった。

回答の一部

- 大手企業の工場、支店誘致の話を受けない。(男性/30歳代/秋田地域)
- 雇用の拡大につながる企業誘致を望む。県内の大学に進学した学生が働いてみたいと思う企業、希望する職場の調査が必要。(女性/70歳代/秋田地域)
- 企業誘致は、秋田市など県の中心部では多いだろうが、他の地域などはなかなか増えているように思えない。(女性/30歳代/北秋田地域)

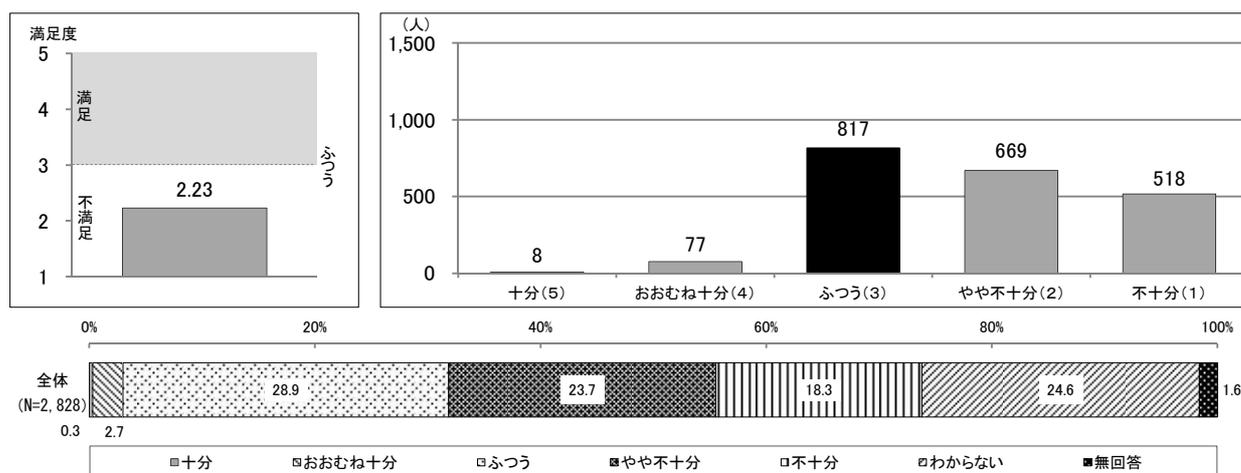
エ 産業人材の確保・育成と働きやすい環境の整備

問1-9 産業人材の確保・育成が進んでいる。

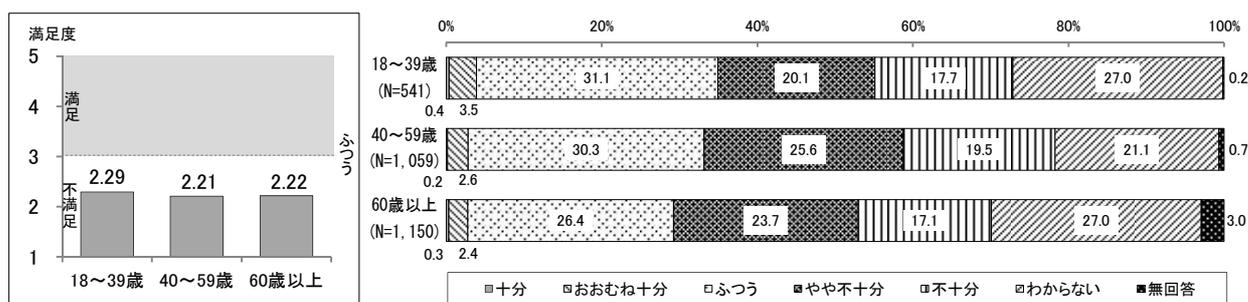
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.23で、「ふつう」の3より0.77低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は3.0%、「ふつう」は28.9%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は42.0%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は31.9%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.29であり、不満を感じていない人の割合は35.0%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.21であり、不満を感じていない人の割合は33.1%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,187人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、183人(15.4%)から回答があった。

回答の一部

- 人材の確保、育成には力を入れているが、求人をして来ないのが現状。(男性/50歳代/鹿角地域)
- 若者が県外に流出しているため人材の確保ができておらず、育成も進んでいない。(男性/50歳代/秋田地域)
- 県内に残る若者が少なくなり、また人手が不足する中、新人が大切にされ、仕事に対する意識が低くなって仕事の質が下がっているのではないかとと思う。(女性/30歳代/秋田地域)

(3) 戦略3 新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略について

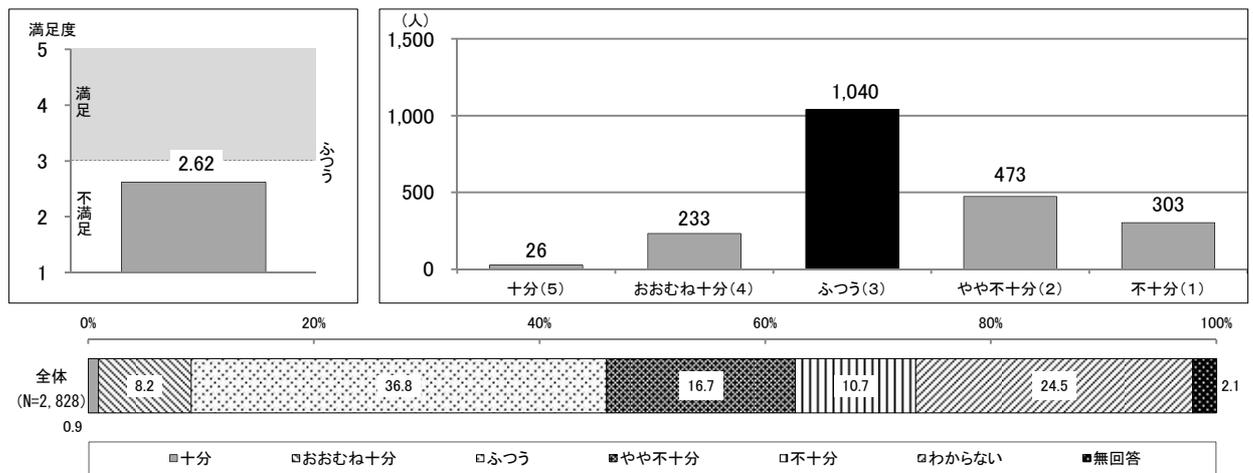
ア 秋田の農林水産業を牽引する多様な人材の育成

問1-10 農林水産業で働く人が、地域で元気に活躍している。

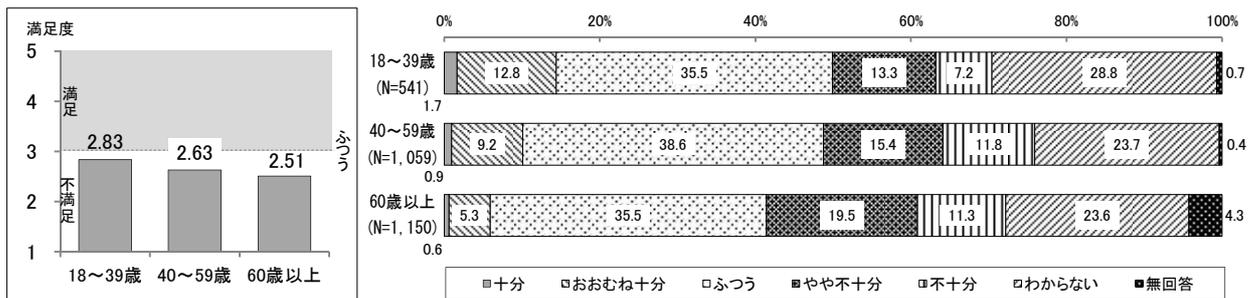
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.62で、「ふつう」の3より0.38低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は9.1%、「ふつう」は36.8%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は27.4%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は45.9%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.83であり、不満を感じていない人の割合は50.0%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.51であり、不満を感じていない人の割合は41.4%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した776人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、204人(26.3%)から回答があった。

回答の一部

- 若者が農林水産業で働きにくい環境になっている。また、高齢化が進んでいるため今後は衰退していく気がする。若者が働きやすい環境づくりが必要だと思う。(男性/20歳代/仙北地域)
- 耕作放棄地が増え、働く人の高齢化、後継者不足で維持が難しくなっている。(女性/30歳代/由利地域)
- 一次産業の就業人口が減少している。特に中山間地域については限界集落が増加して、いずれ無居住地域になるのではないかと。外国人労働者の導入で解決するものでもない。もっと根本的な対策を検討すべき。(男性/70歳以上/秋田地域)

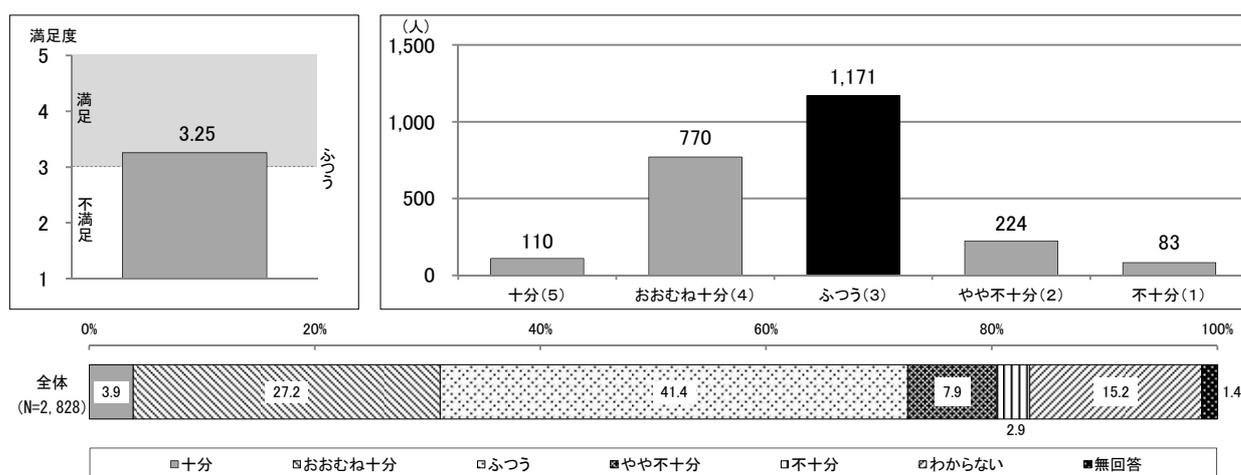
イ 複合型生産構造への転換の加速化

問1-11 えだまめ、ねぎ、しいたけ、キク、秋田牛などの生産が盛んに行われている。

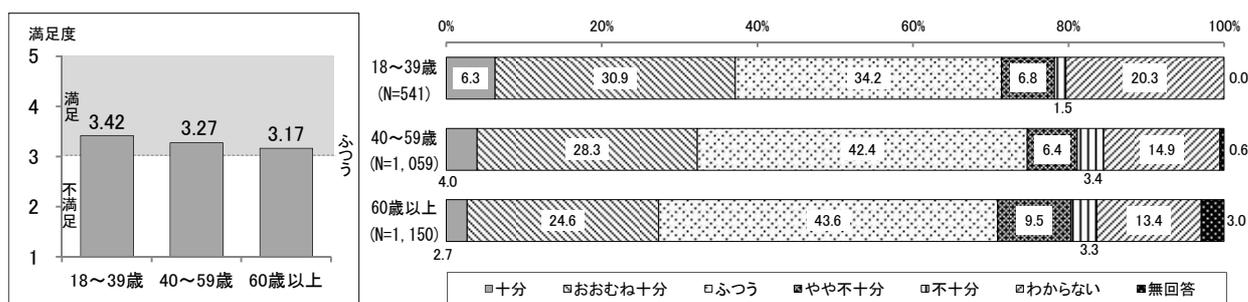
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.25で、「ふつう」の3より0.25高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は31.1%、「ふつう」は41.4%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は10.8%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は72.5%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.42であり、不満を感じていない人の割合は71.4%であった。一方、「60歳以上」の満足度は3.17であり、不満を感じていない人の割合は70.9%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した307人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、57人(18.6%)から回答があった。

回答の一部

- 差別化されたものが秋田牛以外にない。また、加工品で付加価値をつける取組がない。(男性/60歳代/秋田地域)
- 農家の人頑張っているが、県外の人には売り込み不足のため知名度が少ないと思う。もっとアピールしてはどうかと思う。(男性/50歳代/秋田地域)
- 県内で購入する人へのアピールが足りないように思う。スーパー等なるべく秋田県産のものを購入したいと思うが、県外産が多い。(女性/60歳代/仙北地域)

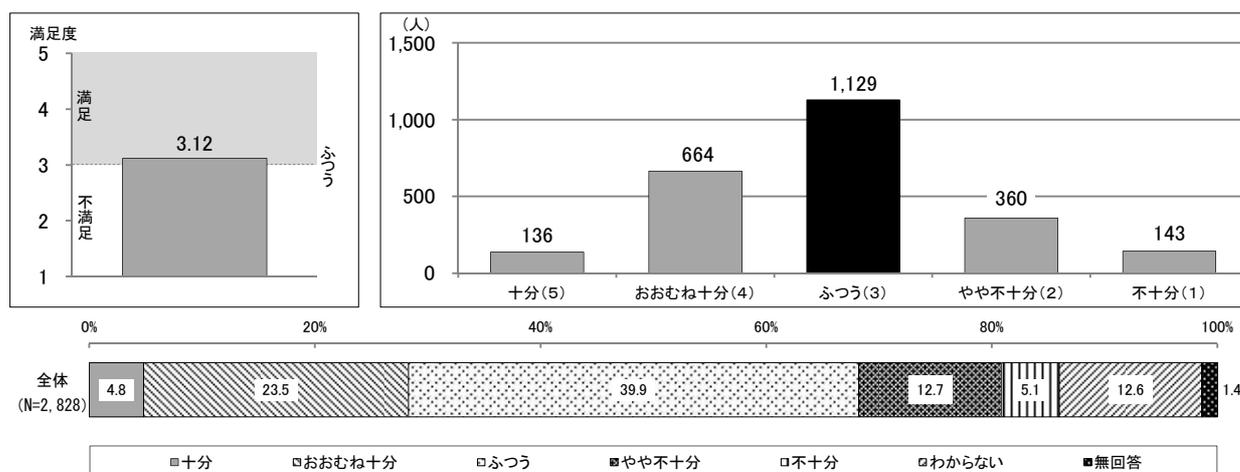
ウ 秋田米の戦略的な生産・販売と水田フル活用

問 1-12 あきたこまちをはじめ、全国の産地間競争に打ち勝つ米づくりが盛んに行われている。

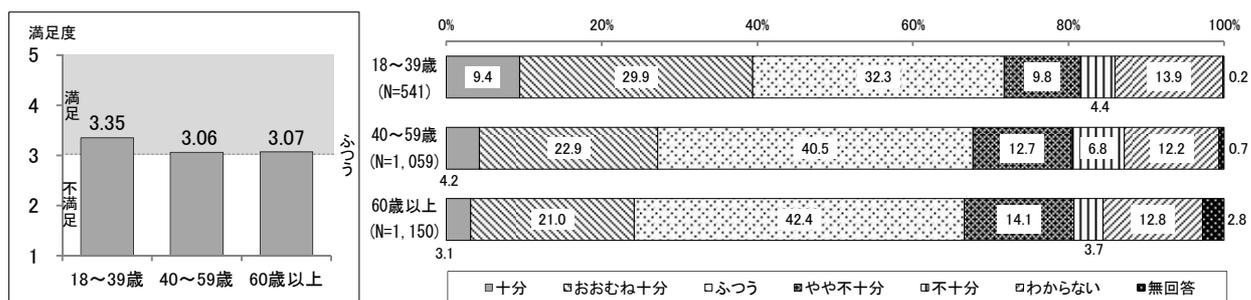
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.12で、「ふつう」の3より0.12高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は28.3%、「ふつう」は39.9%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は17.8%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は68.2%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.35であり、不満を感じていない人の割合は71.6%であった。一方、「40～59歳」の満足度は3.06であり、不満を感じていない人の割合は67.6%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した503人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、157人(31.2%)から回答があった。

回答の一部

- 全国的に新しい品種がどんどん出てきている。あきたこまちは美味しいがインパクトは少なくなってきたと感じる。(男性/40歳代/鹿角地域)
- 「あきたこまち」というネームバリューはあるが、プラスアルファの価値を提供できていない。他県のブランド米とどう違うのかが伝わっていない。(男性/30歳代/秋田地域)
- アピールの仕方、宣伝の仕方、購買意欲をかきたてる取組が不足している。(女性/60歳代/秋田地域)

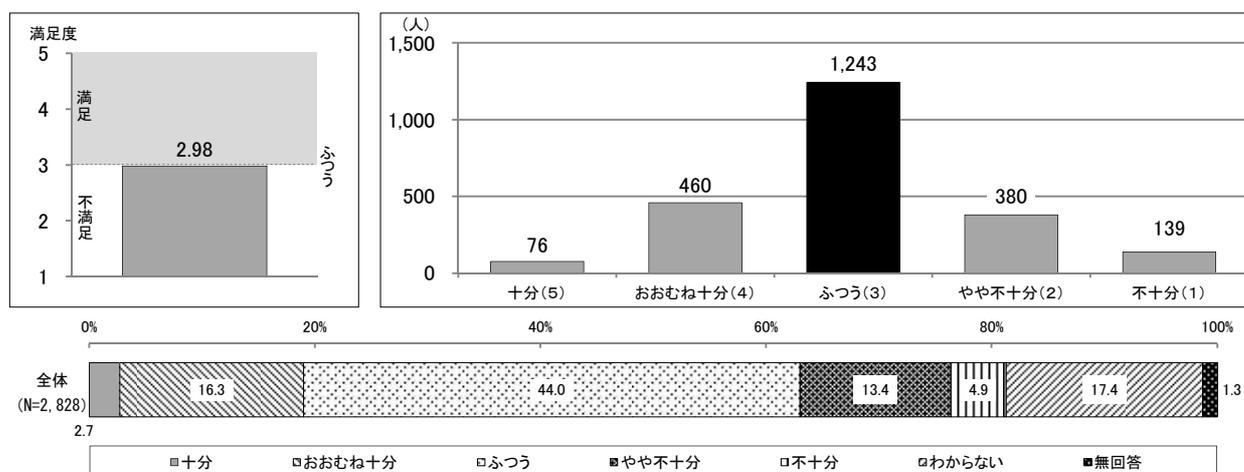
エ 農林水産物の高付加価値化と国内外への展開強化

問 1-13 飲料や発酵食品など、県産の農林水産物を生かした加工品づくりや販売が盛んに行われている。

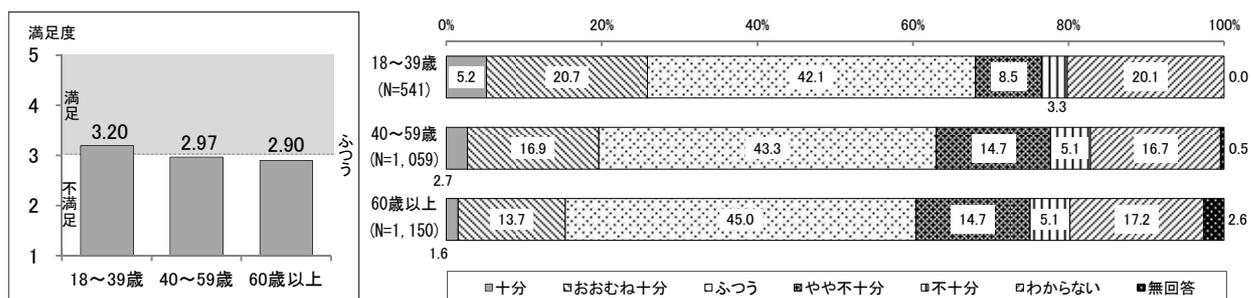
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.98で、「ふつう」の3より0.02低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は19.0%、「ふつう」は44.0%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は18.3%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は63.0%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.20であり、不満を感じていない人の割合は68.0%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.90であり、不満を感じていない人の割合は60.3%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した519人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、100人(19.3%)から回答があった。

回答の一部

- 販売するためのPRや知名度が不足である。インターネットで売るなど、時代に合った方法を取り入れるようにしてほしい。(女性/50歳代/山本地域)
- 日本酒、いぶりがっこなどは秋田の代表的な商品で知名度は上がっているようであるが、他は規模感も小さく、全国に流通している商品は少ないと感じている。(男性/60歳代/仙北地域)
- 加工品の県外出荷を増やすため、輸送費の補助が必要。(男性/70歳以上/秋田地域)

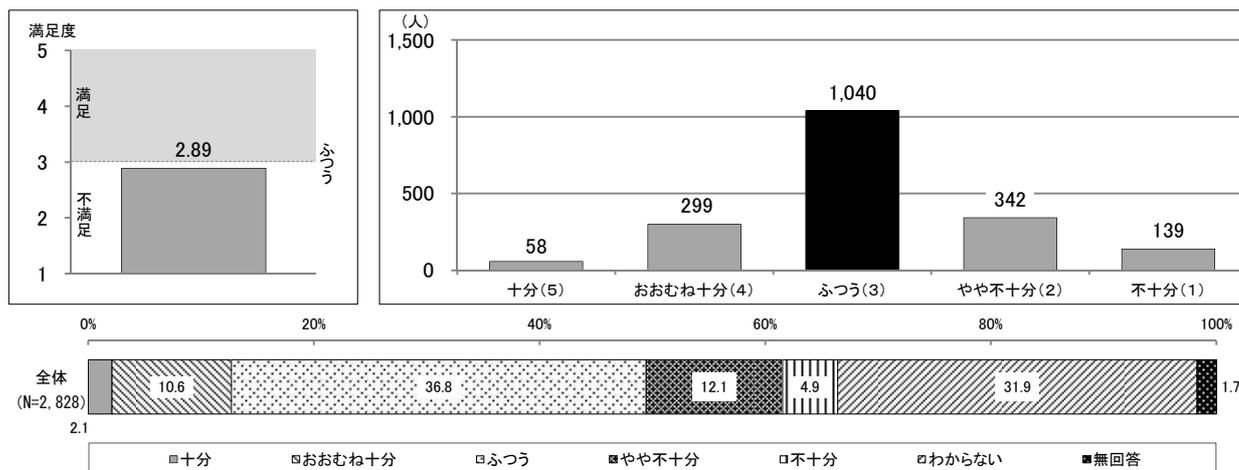
オ 「ウッドファーストあきた」による林業・木材産業の成長産業化

問 1-14 秋田スギ丸太の生産量が増大し、県産材の利用が進んでいる。

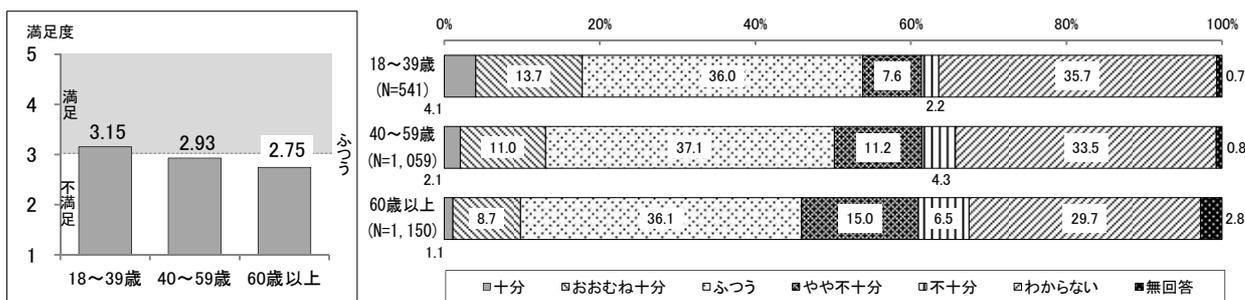
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.89で、「ふつう」の3より0.11低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は12.7%、「ふつう」は36.8%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は17.0%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は49.5%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.15であり、不満を感じていない人の割合は53.8%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.75であり、不満を感じていない人の割合は45.9%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した481人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、84人(17.5%)から回答があった。

回答の一部

- 山を持つ人には木を売っても全然お金が残らない。(男性/70歳以上/由利地域)
- 生産量については目に見えて増大しているように感じるが、利活用については進んでいるように感じられない。(男性/30歳代/仙北地域)
- 自宅に使うには高価すぎるので、良さをアピールして県外に売るべき。(男性/40歳代/鹿角地域)

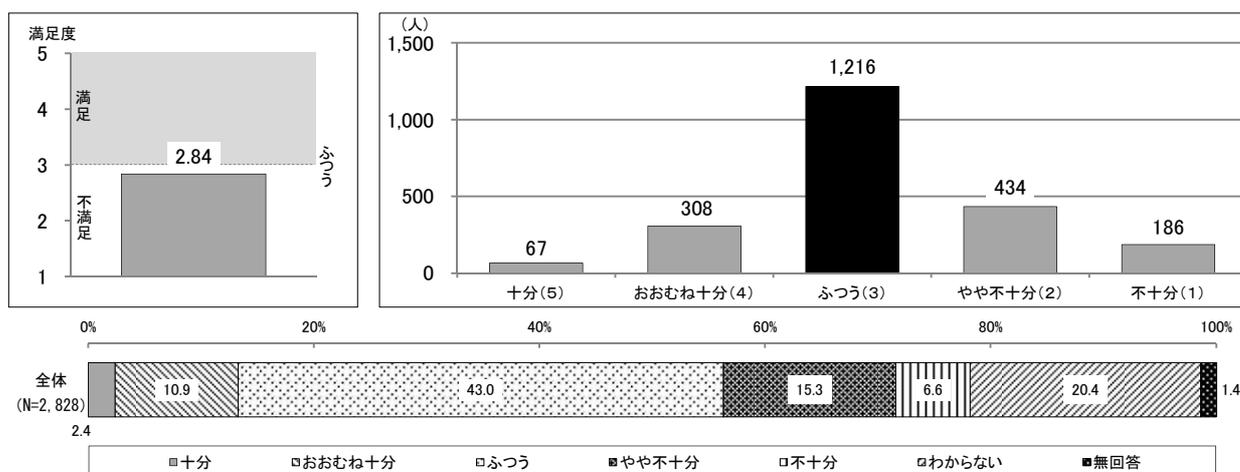
カ つくり育てる漁業と広域浜プランの推進による水産業の振興

問1-15 ハタハタ、マダイ、ヒラメ、サケなど、県内で獲れた多様な魚が流通・販売されている。

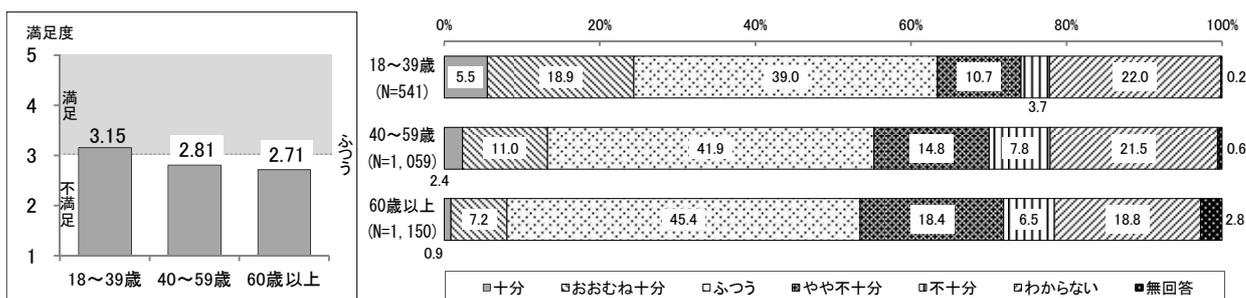
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.84で、「ふつう」の3より0.16低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は13.3%、「ふつう」は43.0%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は21.9%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は56.3%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.15であり、不満を感じていない人の割合は63.4%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.71であり、不満を感じていない人の割合は53.5%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した620人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、143人(23.1%)から回答があった。

回答の一部

- ハタハタは秋田県の魚として有名だがマダイ、ヒラメ、サケなどは県民でさえ認知度が低い。(男性/50歳代/由利地域)
- 獲れた魚(獲れる魚)が口に入っている感じがあまりしない。スーパーを見ても圧倒的に県外産だ。(女性/40歳代/秋田地域)
- 秋田県産のアピールが足りない。県内で安くおいしく食べられる店がなさすぎる。観光価格の高いイメージが定着している。(男性/50歳代/秋田地域)

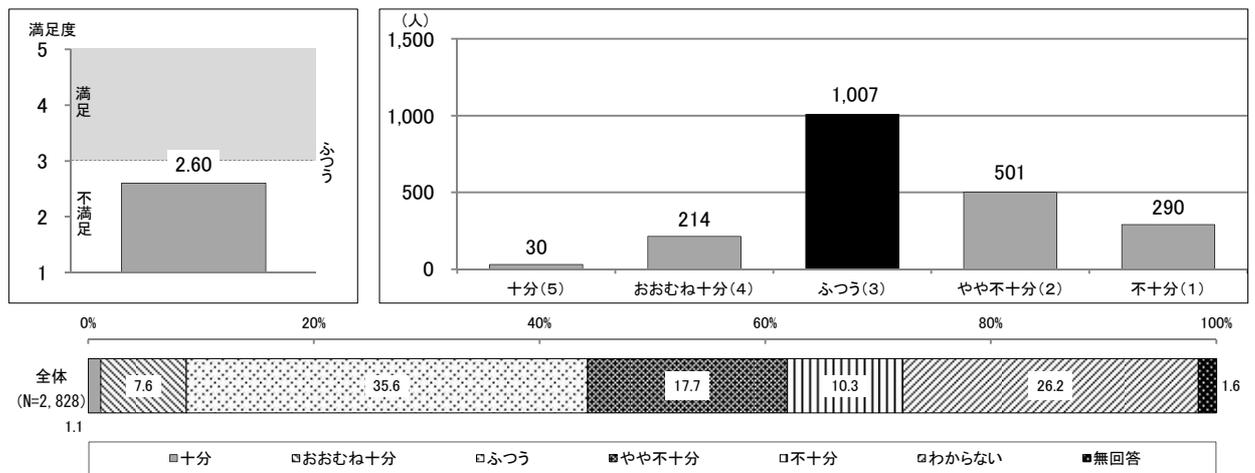
キ 地域資源を生かした活気ある農山漁村づくり

問 1-16 豊かな農山漁村で生き生きとした暮らしが営まれ、農地・森林を守る活動などが行われている。

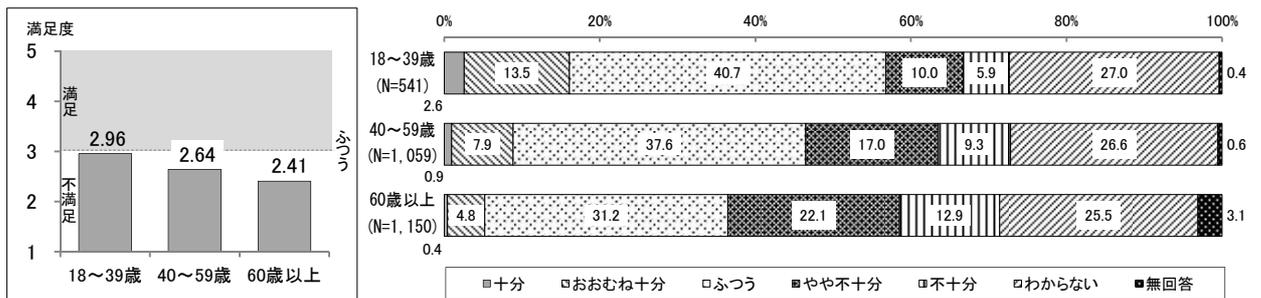
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.60で、「ふつう」の3より0.40低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は8.7%、「ふつう」は35.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は28.0%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は44.3%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.96であり、不満を感じていない人の割合は56.8%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.41であり、不満を感じていない人の割合は36.4%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した791人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、169人(21.4%)から回答があった。

回答の一部

- 農地や森林などを管理できない人が多く、荒れているところが多く目立つ。(男性/50歳代/北秋田地域)
- 高齢化が進み後継者が不足している。(男性/50歳代/仙北地域)
- 普段生活していて、森林を守る活動をしているという情報は入ってこない。もっと宣伝して、ボランティアでなく、協力した人へのメリットがあればよいと思う。(女性/30歳代/秋田地域)

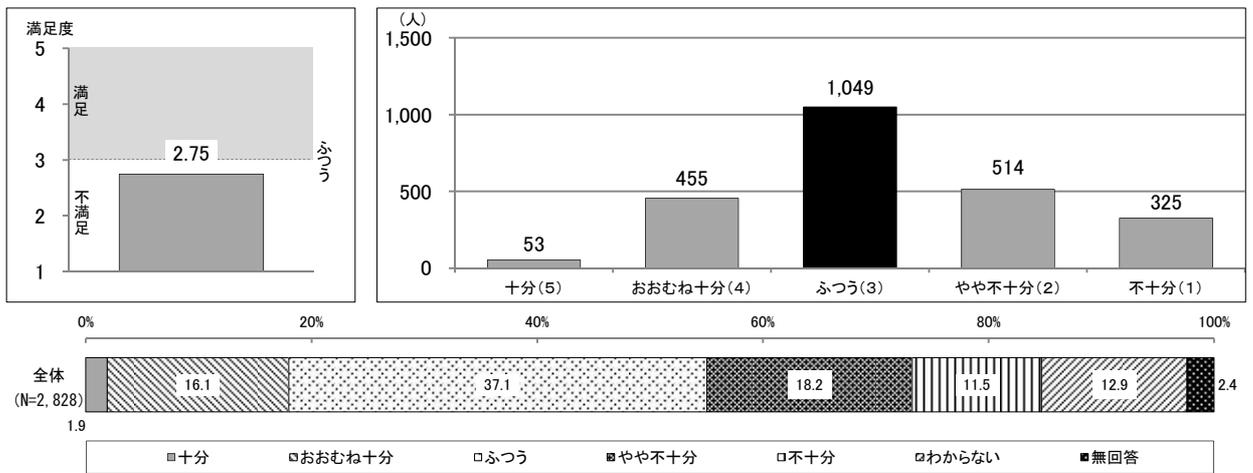
(4) 戦略4 秋田の魅力が際立つ人・もの交流拡大戦略について
 ア 地域の力を結集した「総合的な誘客力」の強化

問1-17 国内外から観光誘客が進んでいる。

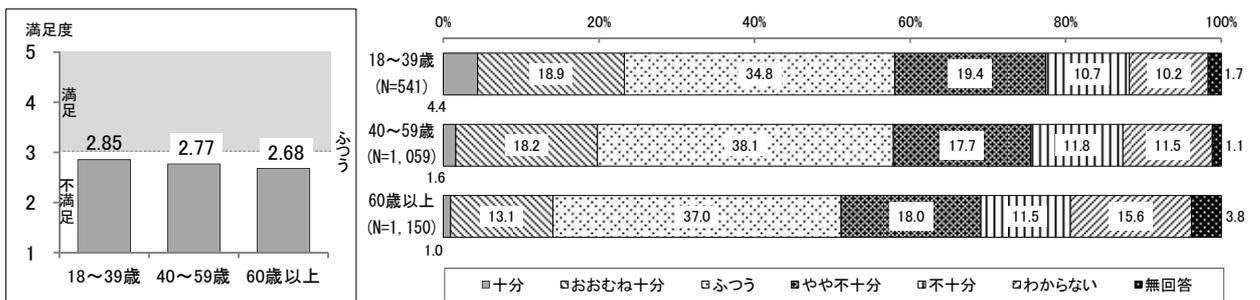
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.75で、「ふつう」の3より0.25低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は18.0%、「ふつう」は37.1%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は29.7%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は55.1%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.85であり、不満を感じていない人の割合は58.1%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.68であり、不満を感じていない人の割合は51.1%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した839人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、209人(24.9%)から回答があった。

回答の一部

- 素晴らしい遺産や自然がありながら、ただ存在するだけの状態のものが多い。周りの環境を美化、整備することと観光客を迎えるための飲食、宿泊を充実させる必要があると思う。(女性/30歳代/秋田地域)
- 観光客を増やすには既存の良いもののアピール、地元の人しか分からない良いものの掘り起こし、新しい魅力的なコンテンツ作りが必要。秋田の広告やアピールはターゲットを絞りきれていない。(男性/30歳代/秋田地域)
- 一過性のアピールをしても不十分と感じる。県外、国外に向けて継続して秋田の魅力を発信する工夫が必要。(男性/50歳代/秋田地域)

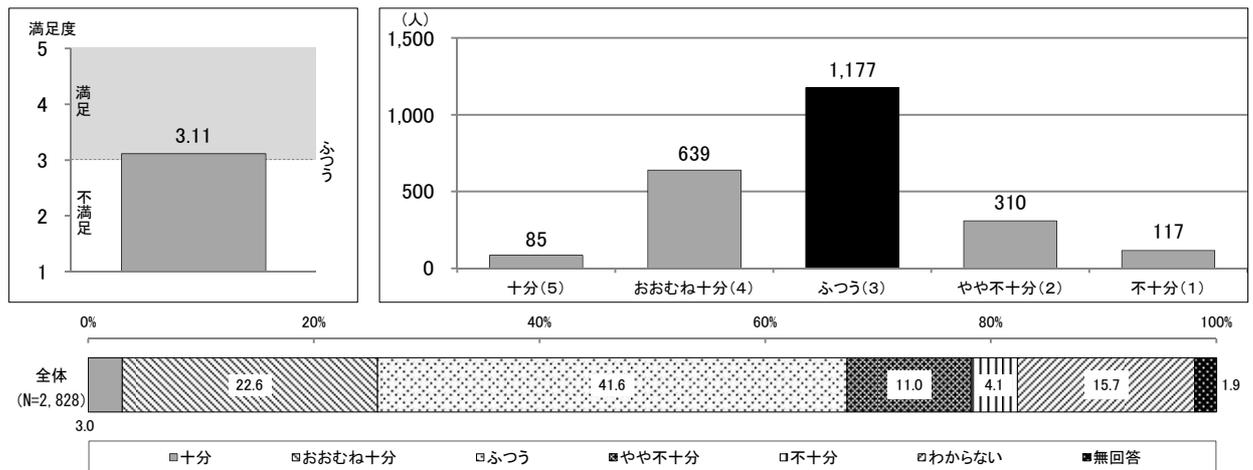
イ 「食」がリードする秋田の活性化と誘客の推進

問 1-18 日本酒や発酵食品など、秋田の食品が国内外の市場で盛んに流通している。

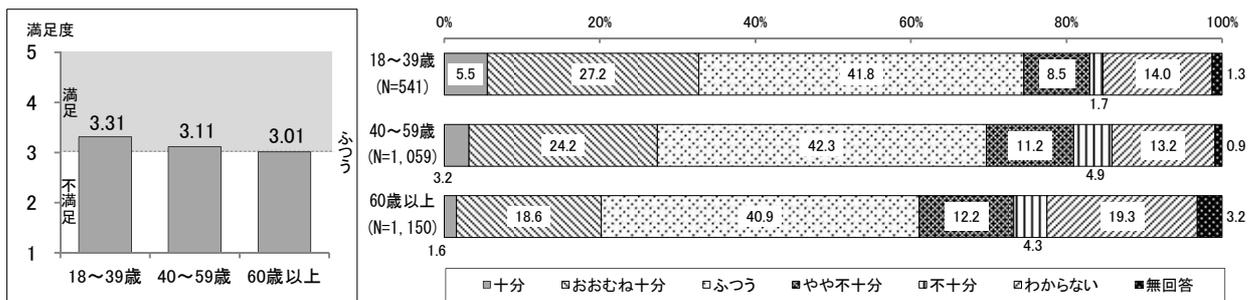
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.11で、「ふつう」の3より0.11高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は25.6%、「ふつう」は41.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は15.1%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は67.2%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.31であり、不満を感じていない人の割合は74.5%であった。一方、「60歳以上」の満足度は3.01であり、不満を感じていない人の割合は61.1%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した427人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、77人(18.0%)から回答があった。

回答の一部

- 秋田の日本酒はおいしいのに、関東より西にいくとほとんど見ないように思う。新潟のお酒はよく見る。(女性/50歳代/秋田地域)
- テレビで酒を取り上げられてから売り上げが伸びたとか…。マスコミ等で取り上げられなければ良い物も知られない。他県に負けている。(女性/50歳代/秋田地域)
- PR不足なのか、“秋田”というイメージが付く食品は少ないと感じている。ジュンサイやトンプリなどは珍品のイメージが先行し、流通量が多いとはいえないのでないか。(男性/60歳代/仙北地域)

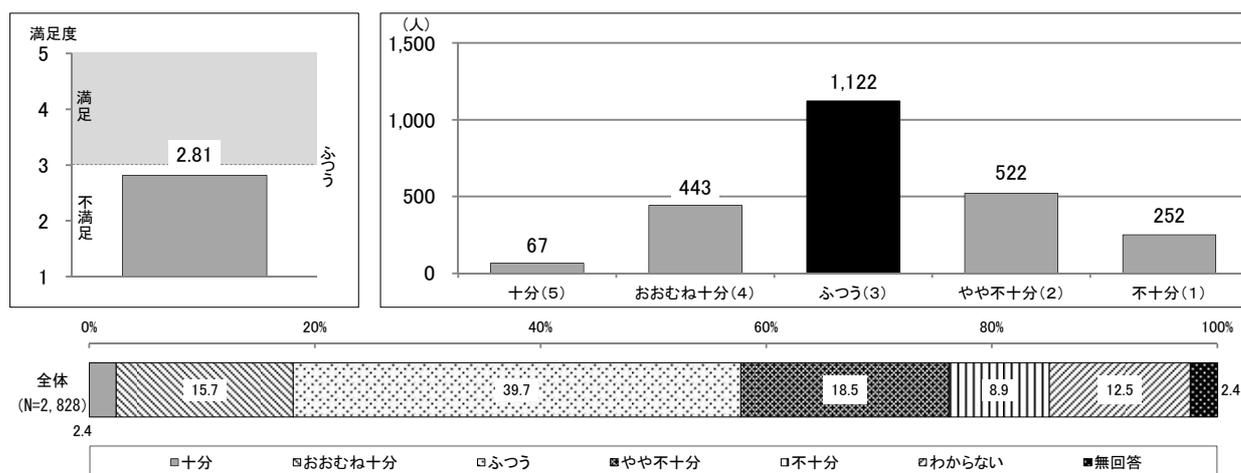
ウ 文化の発信力強化と文化による地域の元気創出

問 1-19 国内外に秋田ならではの文化の魅力が伝えられている。

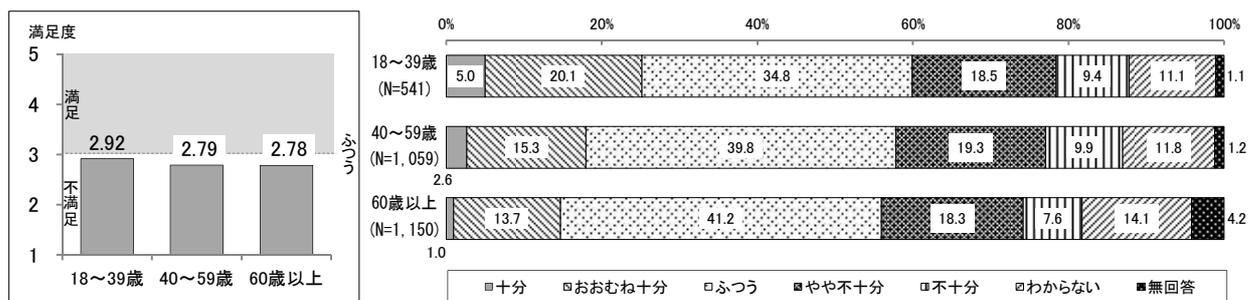
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.81で、「ふつう」の3より0.19低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は18.1%、「ふつう」は39.7%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は27.4%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は57.8%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.92であり、不満を感じていない人の割合は59.9%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.78であり、不満を感じていない人の割合は55.9%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した774人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、134人(17.3%)から回答があった。

回答の一部

- とにかくPRをがんばっていただきたい。自慢したい文化・食文化が多々あるので、他県に負けぬようインパクトのあるPRを…。(女性/60歳代/鹿角地域)
- Facebook等のSNSの発信内容が薄い気がする。もう少しキレイな写真を使用したり、地域ごとにセットにして、初めてでも想像しやすい発信をするべきだと思う(例:秋田市なら秋田市のおまつり→グルメ→おススメスポット等)。また、外国語版観光HP(あきたファン・ドット・コム)の情報が古すぎる。更新してほしい。(女性/20歳代/秋田地域)
- 秋田県民自身にも魅力を多く発信すれば、県外への人口流出の防止に少しでも歯止めがかかるのではないかと。(女性/10歳代/平鹿地域)

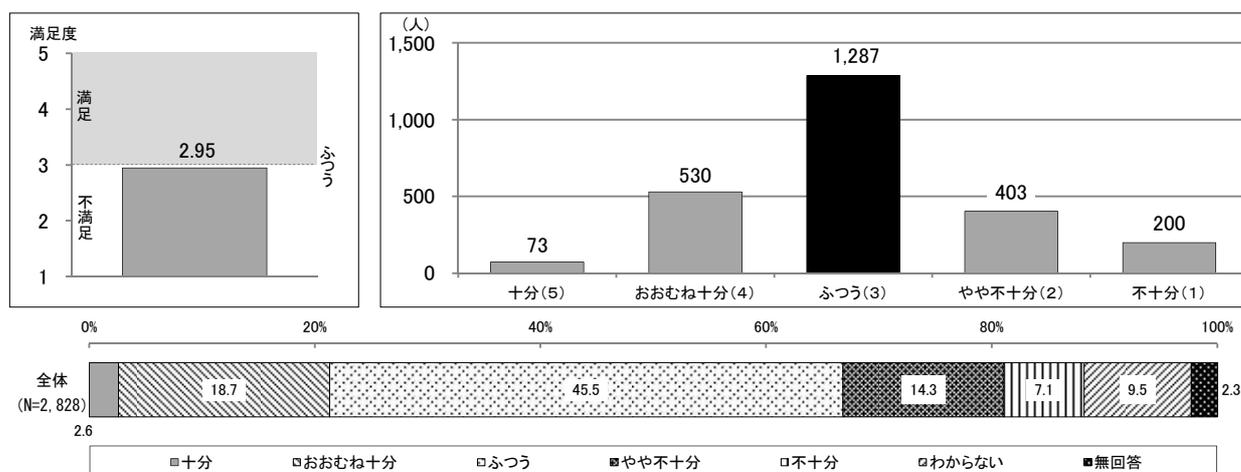
エ 「スポーツ立県あきた」の推進とスポーツによる交流人口の拡大

問 1-20 スポーツに関連する様々な活動が盛んに行われ、地域に活気がもたらされている。

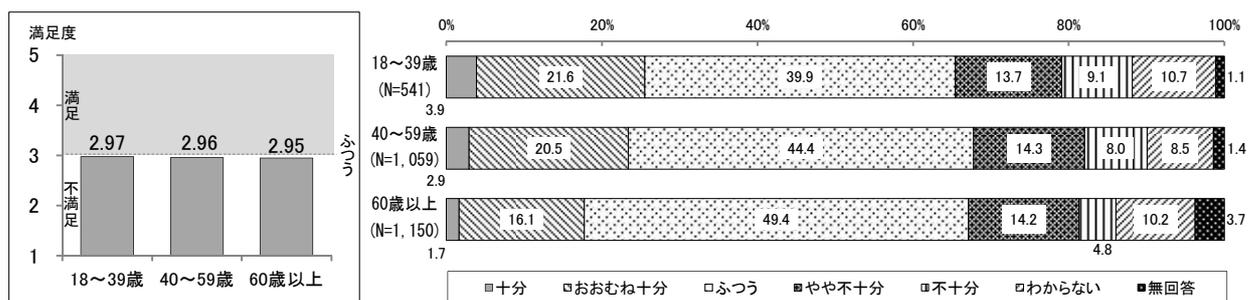
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.95で、「ふつう」の3より0.05低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は21.3%、「ふつう」は45.5%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は21.4%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は66.8%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.97であり、不満を感じていない人の割合は65.4%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.95であり、不満を感じていない人の割合は67.2%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した603人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、120人(19.9%)から回答があった。

回答の一部

- 少子化で子どもたちに好きなスポーツを継続させてあげるのが難しい。(女性/60歳代/仙北地域)
- 中高生の部活動を除いては、ジョギング、ランニング以外、スポーツに関する活動がそれほど見られない。(男性/40歳代/平鹿地域)
- 競技スポーツの振興も必要だが、「健康寿命日本一」を目指す取組など健康運動に接する機会を増やすことが必要。(男性/60歳代/仙北地域)

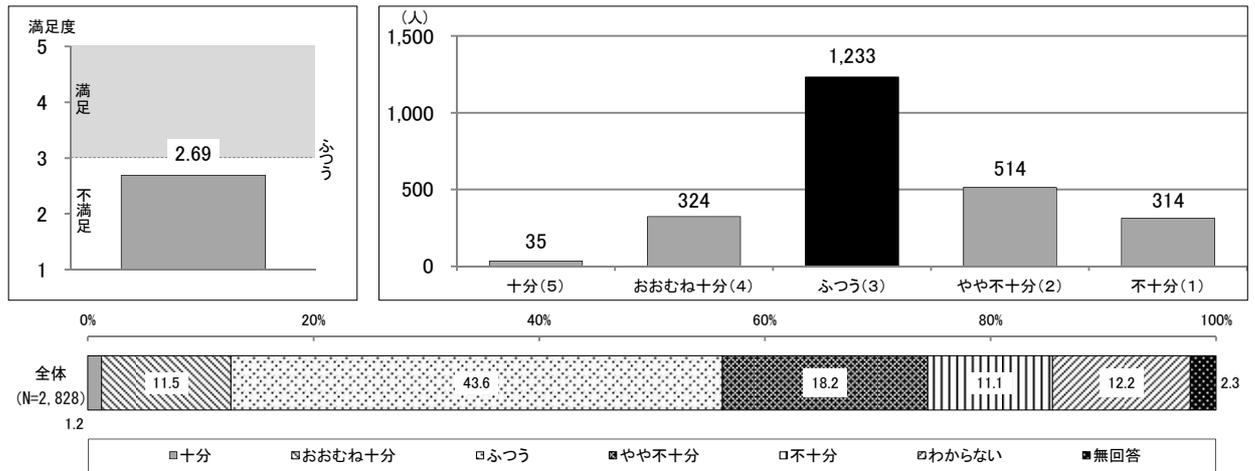
オ 県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備

問 1-21 地域間の交流や生活を支える県内の道路ネットワークが整備されている。

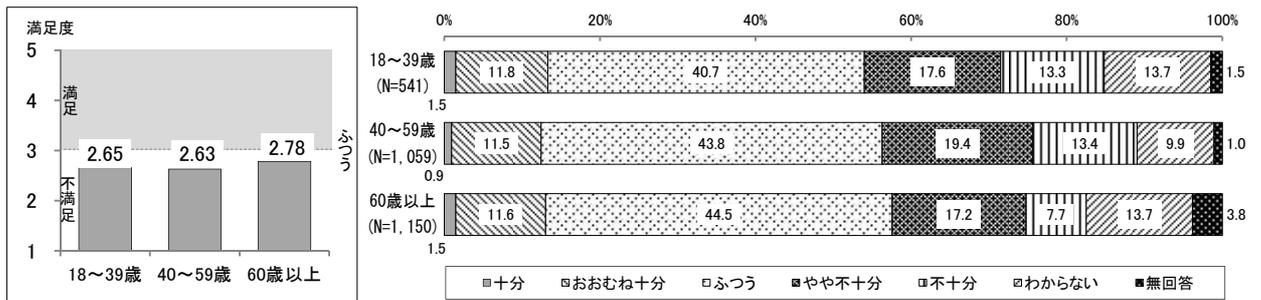
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.69で、「ふつう」の3より0.31低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は12.7%、「ふつう」は43.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は29.3%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は56.3%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度が最も高く2.78であり、不満を感じていない人の割合は57.6%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.63であり、不満を感じていない人の割合は56.2%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した828人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、143人(17.3%)から回答があった。

回答の一部

- 秋道の道路整備は遅い。山形は通るたびに4車線化や高速ができています。(男性/50歳代/秋田地域)
- 道路ネットワークは整備されているが、前からある道路の整備がおろそかになっている気がする。(男性/50歳代/北秋田地域)
- 道路の舗装状態が他県と比べて悪いと感じる。(男性/60歳代/平鹿地域)

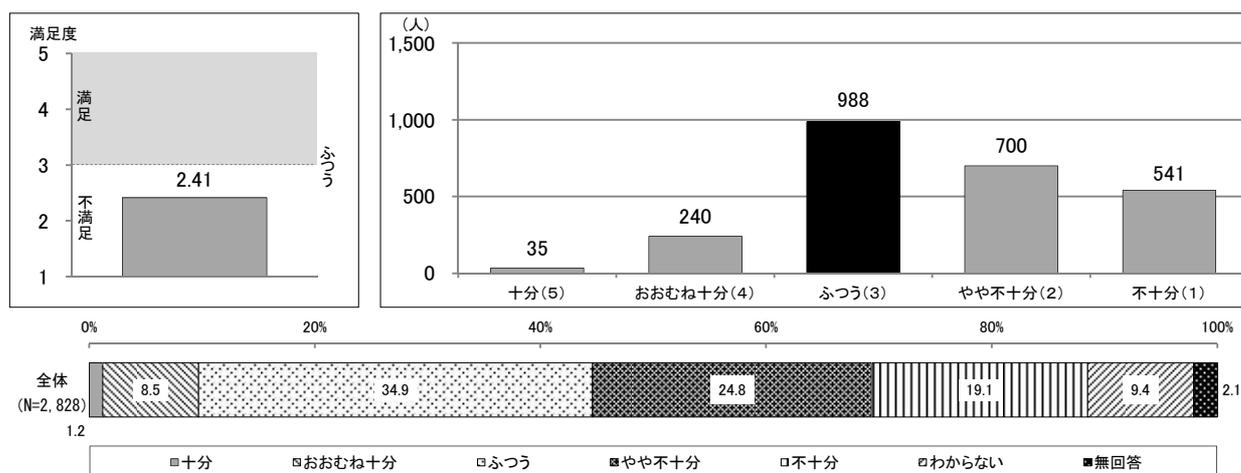
カ 交流の持続的拡大を支える交通ネットワークの構築

問 1-22 鉄道や航空、地域交通など利便性の高い交通ネットワークが整備されている。

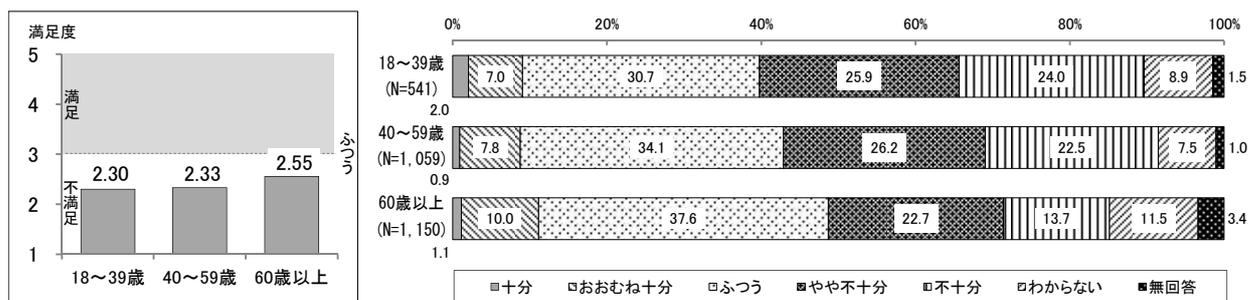
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.41で、「ふつう」の3より0.59低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は9.7%、「ふつう」は34.9%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は43.9%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は44.6%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度が最も高く2.55であり、不満を感じていない人の割合は48.7%であった。一方、「18～39歳」の満足度は2.30であり、不満を感じていない人の割合は39.7%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,241人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、298人(24.0%)から回答があった。

回答の一部

- 秋田、東京間の新幹線の所要時間を短縮してもらいたい。地域によっては21時台には終電、終バスもなくなり、駅前にも人気なくなる。(女性/40歳代/雄勝地域)
- 大館能代空港は近いが便数が少ないため、利用する機会に限られる。(女性/20歳代/北秋田地域)
- 公共交通機関とはいえ民間企業なので、不採算路線や本数を減らして赤字を回避するのは分かるが、鉄道やバスの本数が少ない。利便性が悪いと利用者の増加にはつながらない。(男性/30歳代/秋田地域)

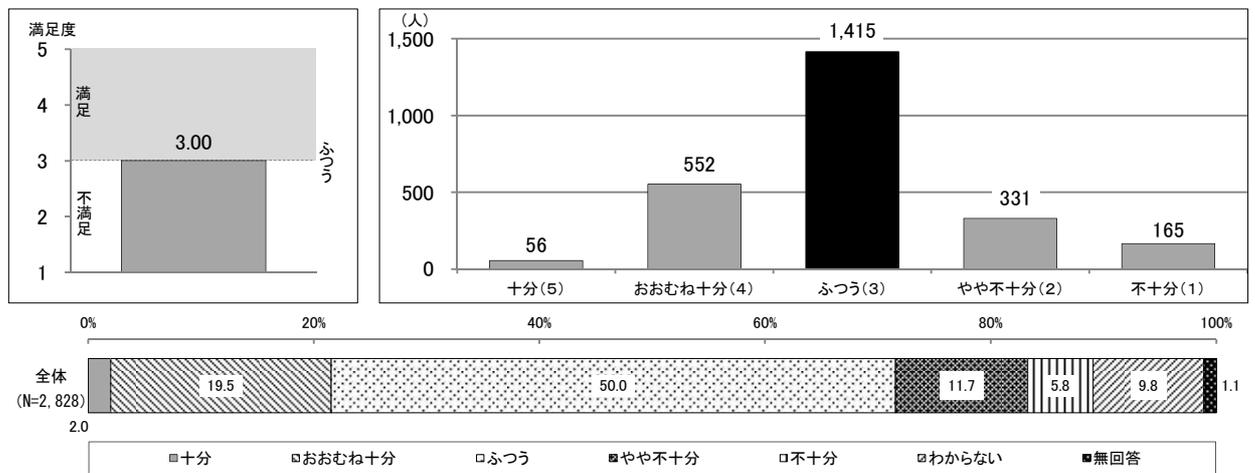
(5) 戦略5 誰もが元気で活躍できる健康長寿・地域共生社会戦略について
 ア 健康寿命日本一への挑戦

問1-23 食事やたばこなど、これまでの生活習慣を見直し、健康づくりに取り組む県民の意識が高まってきている。

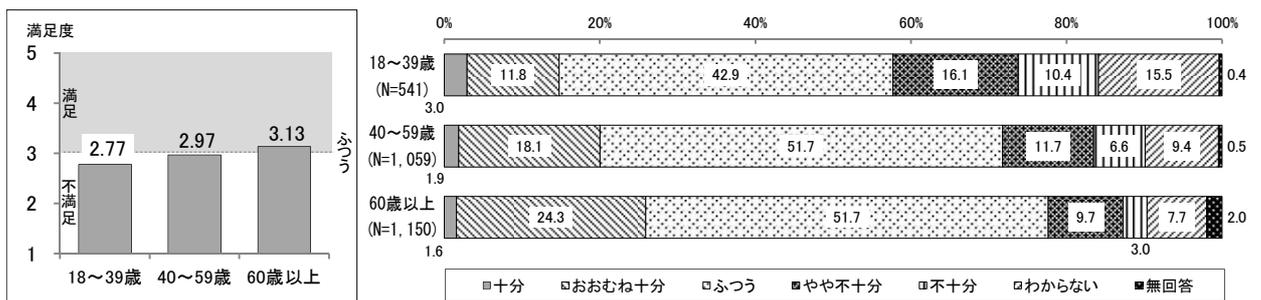
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.00で、「ふつう」の3となった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は21.5%、「ふつう」は50.0%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は17.5%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は71.5%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度が最も高く3.13であり、不満を感じていない人の割合は77.6%であった。一方、「18～39歳」の満足度は2.77であり、不満を感じていない人の割合は57.7%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した496人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、105人(21.2%)から回答があった。

回答の一部

- 個人のマナーによるところも大きいですが、受動喫煙を受けることが多い。喫煙所の数や質(密閉度が低い)を上げてほしい。(女性/30歳代/秋田地域)
- 自分の健康に関心、知識がない人がまだまだ多い。(女性/30歳代/仙北地域)
- 食事(塩分)とタバコの2点を改善できれば「健康寿命日本一」の達成に近づく。タバコは規制されているが塩分は野放しの感が否めない。食事を提供する業者への指導や規制が必要。(男性/70歳以上/秋田地域)

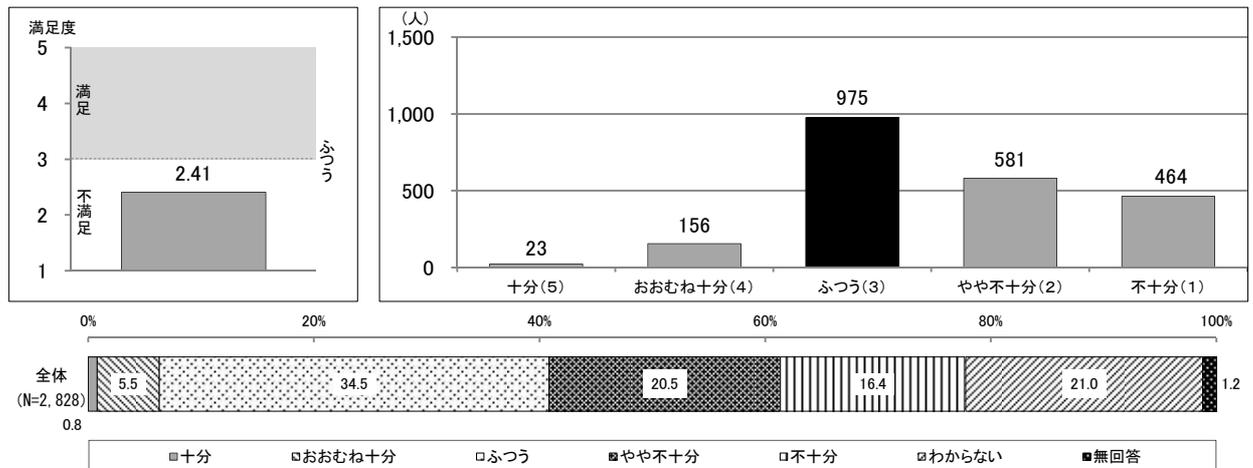
イ 心の健康づくりと自殺予防対策

問1-24 誰も自殺に追い込まれることのないよう、悩みを抱えた方が相談しやすい環境が整っている。

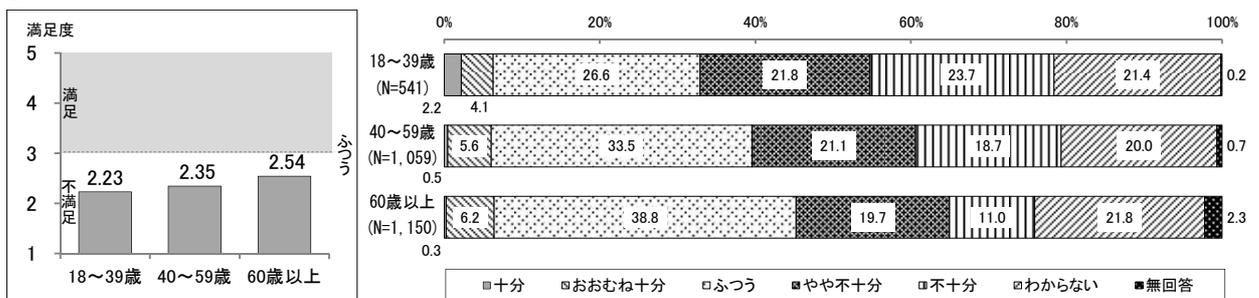
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.41で、「ふつう」の3より0.59低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は6.3%、「ふつう」は34.5%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は36.9%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は40.8%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度が最も高く2.54であり、不満を感じていない人の割合は45.3%であった。一方、「18～39歳」の満足度は2.23であり、不満を感じていない人の割合は32.9%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,045人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、239人(22.9%)から回答があった。

回答の一部

- どこに・どういった手段で相談すればいいのかがあまり知られていないように思う。自殺を考えるほどの悩みを抱えた人には早急な対応が求められるので、早急に対策を考えてほしい。(女性/30歳代/秋田地域)
- 県民性として「誰かに知られたら恥」と思って悩んでしまう人が多いと思う。家族間トラブルが多い。どこに相談すればいいのかわからない。(女性/40歳代/仙北地域)
- もっと気楽に相談できる方法があればよい。(男性/70歳以上/秋田地域)

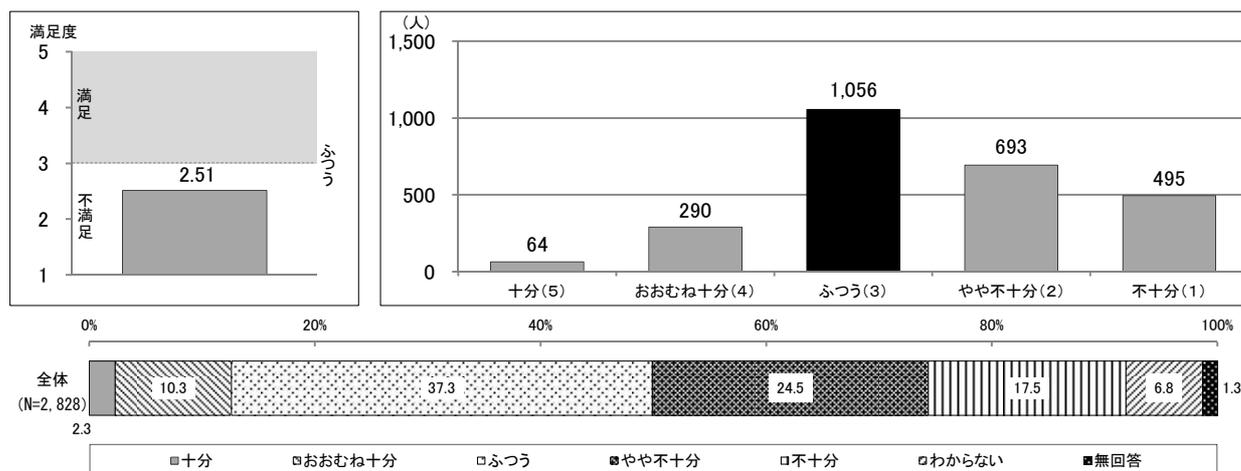
ウ 医療ニーズに対応した医療提供体制の整備

問1-25 どこに住んでいても、安心して医療を受けられる体制が整っている。

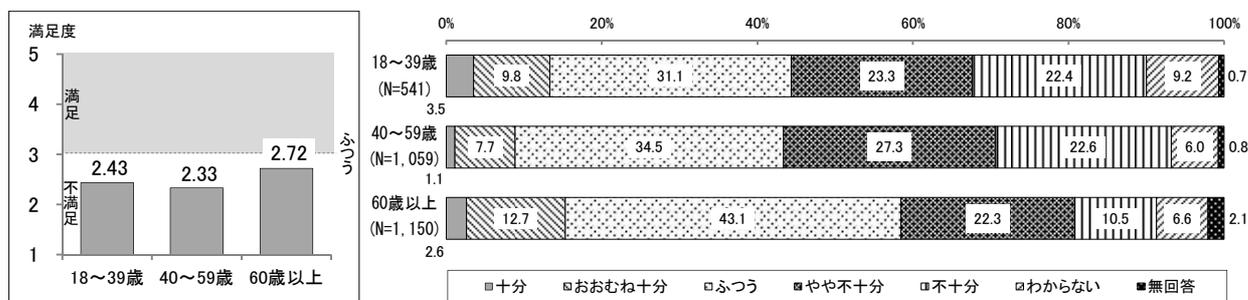
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.51で、「ふつう」の3より0.49低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は12.6%、「ふつう」は37.3%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は42.0%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は49.9%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度が最も高く2.72であり、不満を感じていない人の割合は58.4%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.33であり、不満を感じていない人の割合は43.3%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,188人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、300人(25.3%)から回答があった。

回答の一部

- 近くの医療機関まで1時間以上というのも普通で、緊急手術が可能な病院は更に限られている。(男性/30歳代/仙北地域)
- 医療技術が地域で偏り過ぎている気がする。各地域で同等レベルの医療を提供できるようにしてほしい。(女性/30歳代/秋田地域)
- 高度医療を受けられる病院が少なく、医師が不足していると思う。(女性/40歳代/北秋田地域)

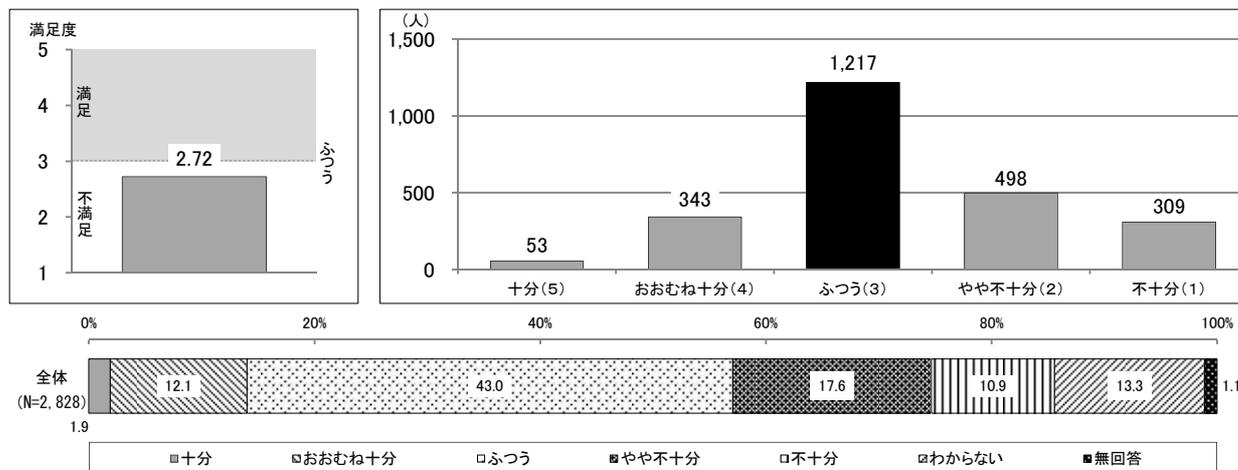
エ 高齢者や障害者等が安全・安心に暮らせる福祉の充実

問 1-26 高齢者や障害がある方などが、住み慣れた地域でニーズに合った介護・福祉サービスを受けることができる。

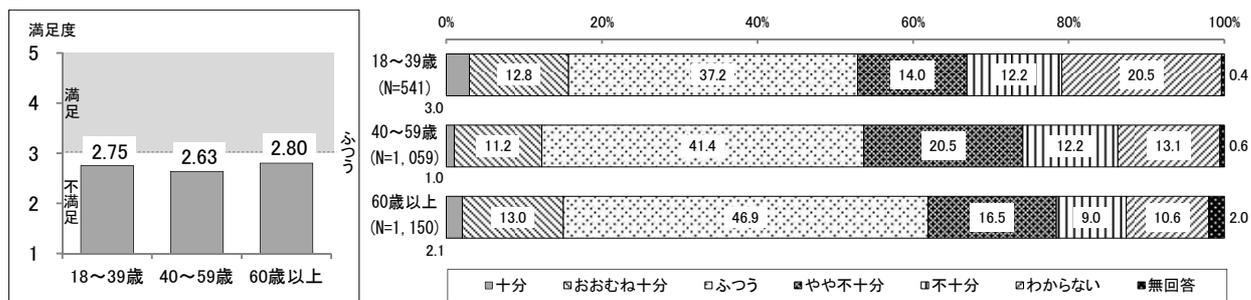
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.72で、「ふつう」の3より0.28低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は14.0%、「ふつう」は43.0%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は28.5%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は57.0%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度が最も高く2.80であり、不満を感じていない人の割合は62.0%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.63であり、不満を感じていない人の割合は53.6%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した807人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、146人(18.1%)から回答があった。

回答の一部

- 高齢者が多いが、介護施設に入居できなくて順番待ちをしている人が周りにたくさんいる。(女性/40歳代/鹿角地域)
- 介護施設、人員も不足している中でニーズに合ったサービスの提供は難しいものがある。まずは介護を提供する側の環境を整えていく必要がある。(女性/50歳代/由利地域)
- 福祉施設の体制にばらつきが大きく、ニーズに合ったサービスにつながない。(女性/30歳代/仙北地域)

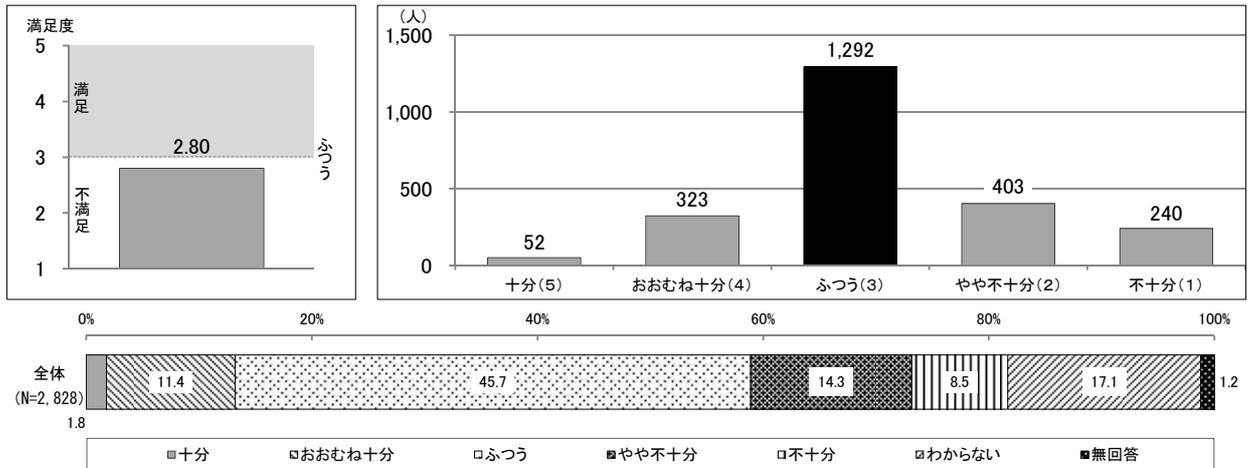
オ 次代を担う子どもの育成

問 1-27 全ての子どもが生まれ育った環境にかかわらず、健やかに育まれる支援体制が整っている。

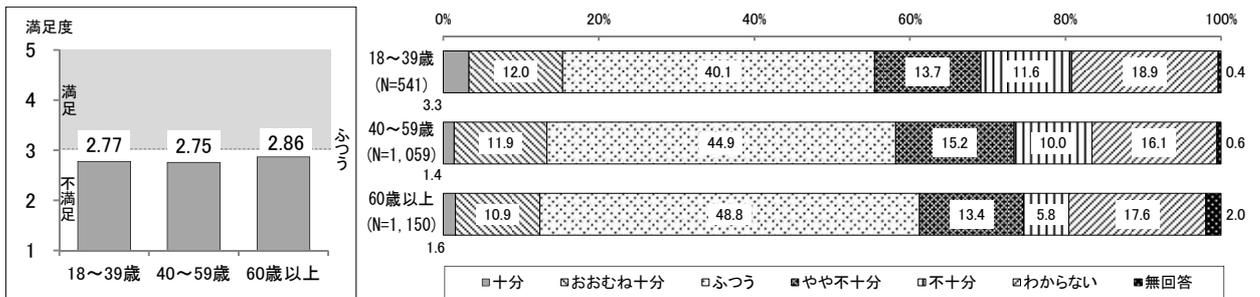
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.80で、「ふつう」の3より0.20低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は13.2%、「ふつう」は45.7%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は22.8%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は58.9%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度が最も高く2.86であり、不満を感じていない人の割合は61.3%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.75であり、不満を感じていない人の割合は58.2%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した643人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、79人(12.3%)から回答があった。

回答の一部

- 親がお金を稼げれば子どもも幸せだと思う。(女性/20歳代/由利地域)
- 預け場所がなく、一時保育も常にいっぱい。親もストレスがたまる。(女性/30歳代/北秋田地域)
- 生活困窮者等への支援において、ある程度の物的支援は確保されていると思われるが、県民意識を始め、それを包摂する社会環境が整っていない。(男性/50歳代/平鹿地域)

(6) 戦略6 ふるさとの未来を拓く人づくり戦略について

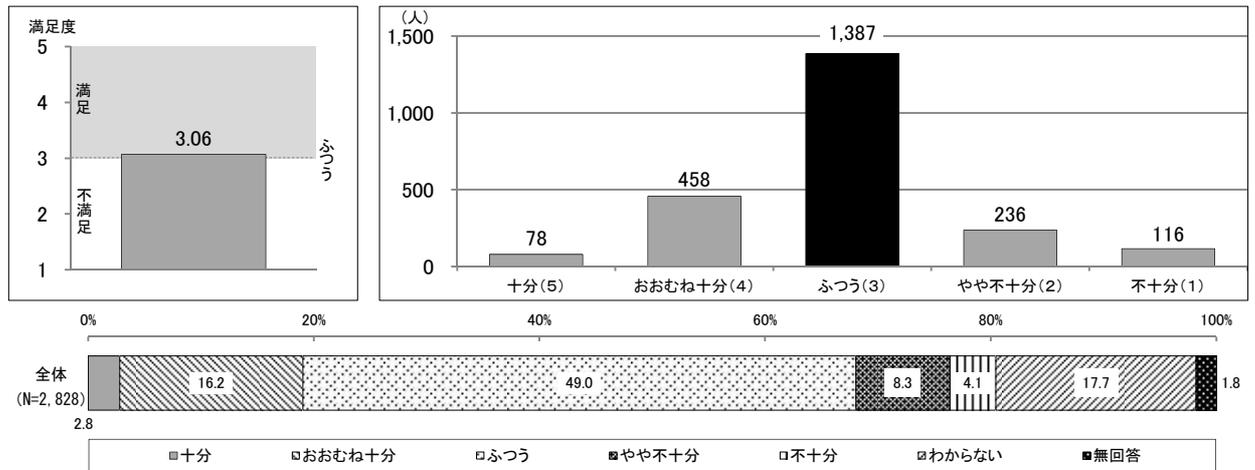
ア 自らの未来を主体的に切り拓き、秋田を支える気概に満ちた人材の育成

問1-28 学校教育を通じて、ふるさと秋田を愛し支える心が育まれている。

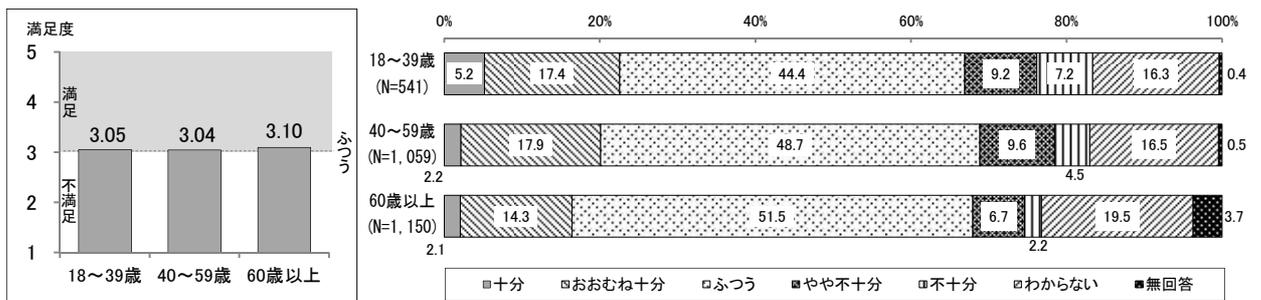
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.06で、「ふつう」の3より0.06高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は19.0%、「ふつう」は49.0%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は12.4%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は68.0%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度が最も高く3.10であり、不満を感じていない人の割合は67.9%であった。一方、「40～59歳」の満足度は3.04であり、不満を感じていない人の割合は68.8%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した352人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、53人(15.1%)から回答があった。

回答の一部

- 学校教育だけで、ふるさと秋田を愛し支える心を育てていくのは難しい現状にある。(女性/50歳代/由利地域)
- 県内に住み続けている若者も、ふるさと秋田が良いからというよりは、家族と一緒に良いからという理由で秋田に暮らす人が多いと思う。(女性/30歳代/秋田地域)
- 秋田を愛していても県内の大学に学びたい学科がなければ県外へ進学し、そのまま秋田へ戻ってくることはない。(女性/40歳代/仙北地域)

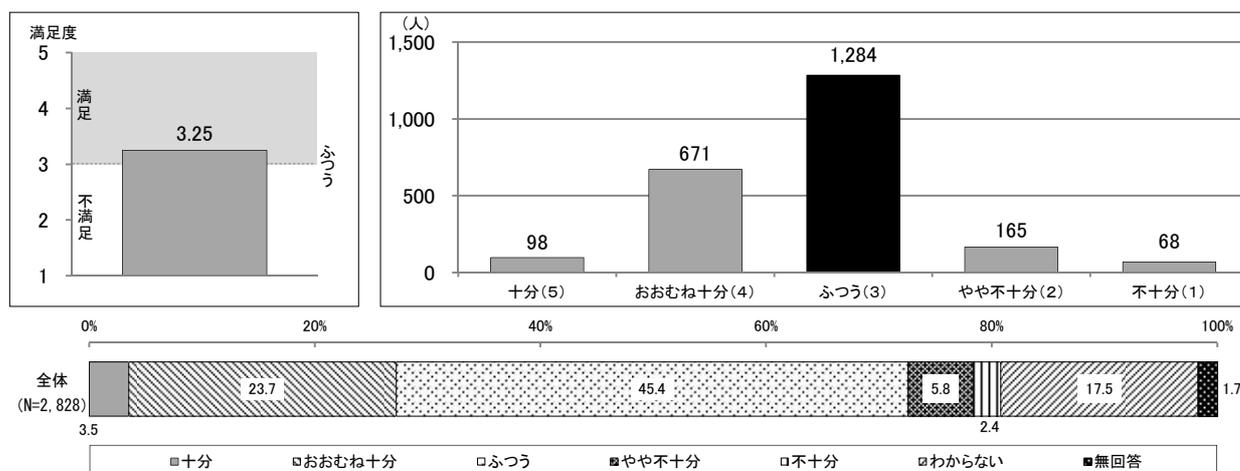
イ 子ども一人一人に応じた教育の充実と確かな学力の定着

問1-29 学校教育を通じて、意欲的に学ぼうとする態度や、自ら考え、判断し、表現する力が育まれている。

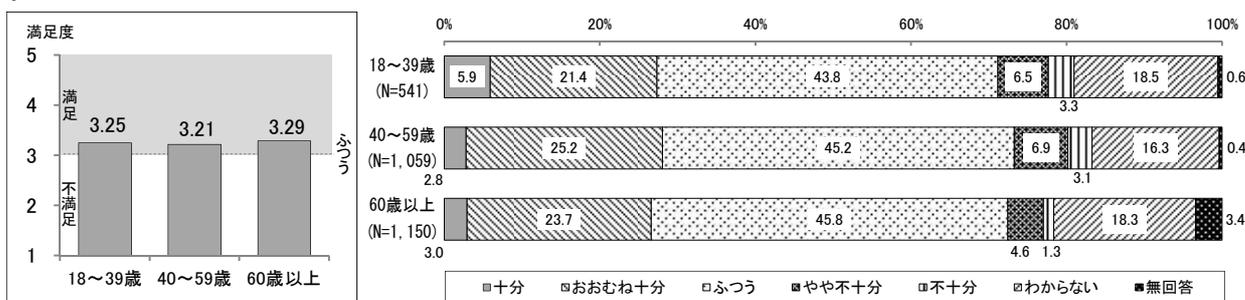
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.25で、「ふつう」の3より0.25高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は27.2%、「ふつう」は45.4%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は8.2%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は72.6%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度が最も高く3.29であり、不満を感じていない人の割合は72.5%であった。一方、「40～59歳」の満足度は3.21であり、不満を感じていない人の割合は73.2%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した233人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、38人（16.3%）から回答があった。

回答の一部

- 暗記すればよだけのテストが多い気がする。答えが合っても計算式が違うという理由で×を付けたりすると想像力は低くなりそう。(女性/20歳代/鹿角地域)
- 多量の宿題などを「やらされる」ことが多く、自発的な活動が行われるとは言えないと感じる。(男性/40歳代/秋田地域)
- 年齢に関係なく、指示待ち、与えられ待ちの子が多く、こうしたらどうなるか、自分が楽しければよく、周囲の迷惑を考えないなど想像力に欠ける子が多いと思う。(女性/30歳代/北秋田地域)

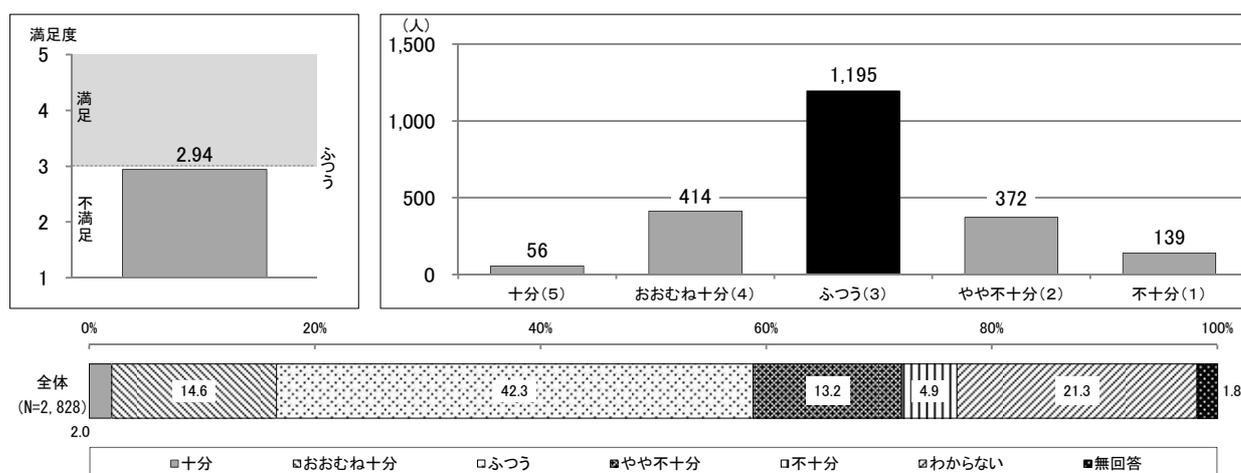
ウ 世界で活躍できるグローバル人材の育成

問 1-30 学校教育を通じて、外国文化を理解しようとする態度や、英語でコミュニケーションをとる能力が育まれている。

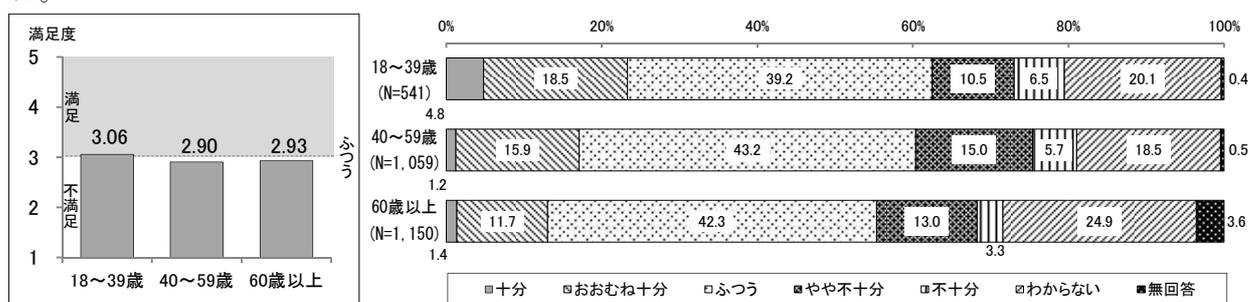
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.94で、「ふつう」の3より0.06低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は16.6%、「ふつう」は42.3%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は18.1%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は58.9%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.06であり、不満を感じていない人の割合は62.5%であった。一方、「40歳～59歳」の満足度は2.90であり、不満を感じていない人の割合は60.3%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した511人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、75人(14.7%)から回答があった。

回答の一部

- もっと外国人と交流する機会を増やした方がよいと思う。(女性/30歳代/仙北地域)
- まだ、学校教育だけを受けて積極的に外国人の人と話そうという気持ちになっていない子どもを見ている。(女性/30歳代/秋田地域)
- 英語教育だけでは英語コミュニケーション能力は育まれないと思う。文化に対する知識や理解が不十分であると思う。(女性/60歳代/北秋田地域)

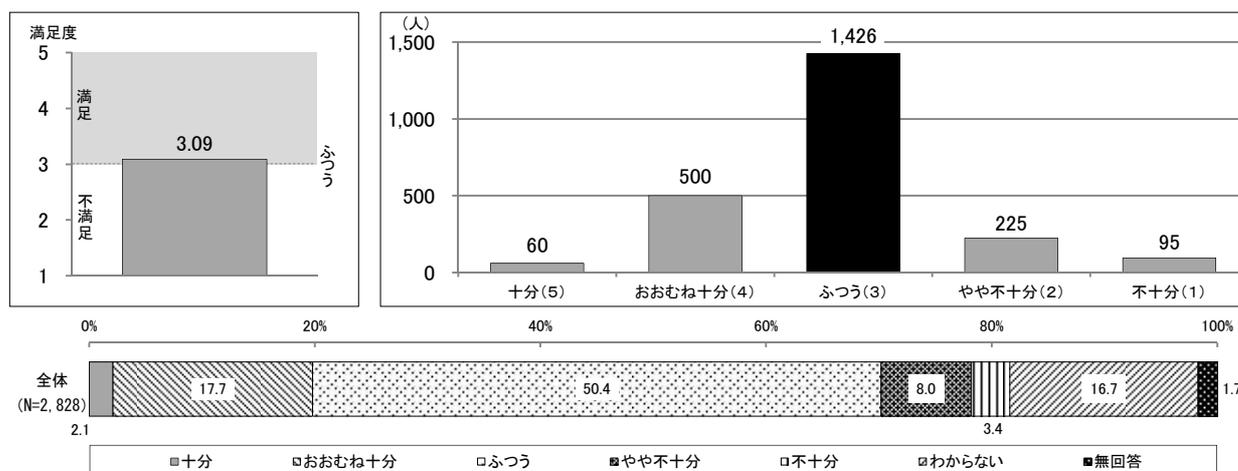
エ 豊かな人間性と健やかな体の育成

問 1-31 学校教育を通じて、他人への思いやりなどの豊かな人間性と健やかな体が育まれている。

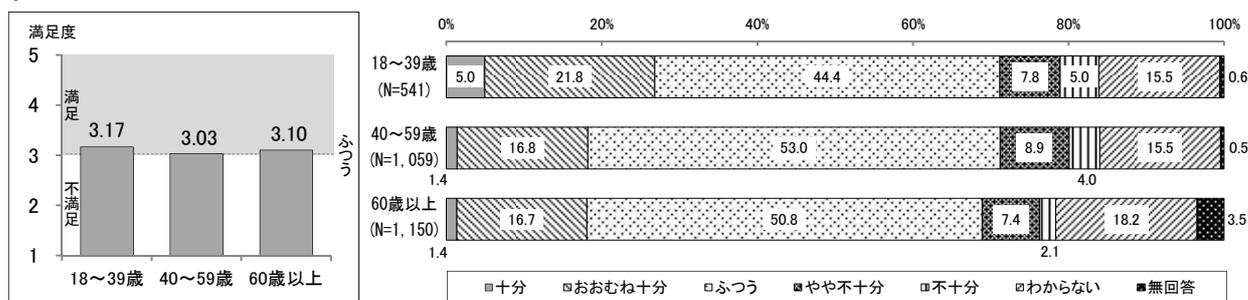
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.09で、「ふつう」の3より0.09高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は19.8%、「ふつう」は50.4%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は11.4%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は70.2%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.17であり、不満を感じていない人の割合は71.2%であった。一方、「40～59歳」の満足度は3.03であり、不満を感じていない人の割合は71.2%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した320人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、57人(17.8%)から回答があった。

回答の一部

- 学校教育に全てを一任するのではなく、家庭での関わり方も大きく関わってくるのではないかと。(女性/20歳代/仙北地域)
- すばらしい子どもは本当にすばらしい人間性をもっているが、両極端に育まれている。(男性/30歳代/秋田地域)
- 他県よりははじめの件数は少なく感じるが、人数当たりの割合で考えたら同じようなものかもしれない。学校という閉鎖的な環境で他人への思いやりや豊かな人間性を育むことは難しい。学校外の世界を体験させる方が意味があるのではと感じる。(男性/30歳代/秋田地域)

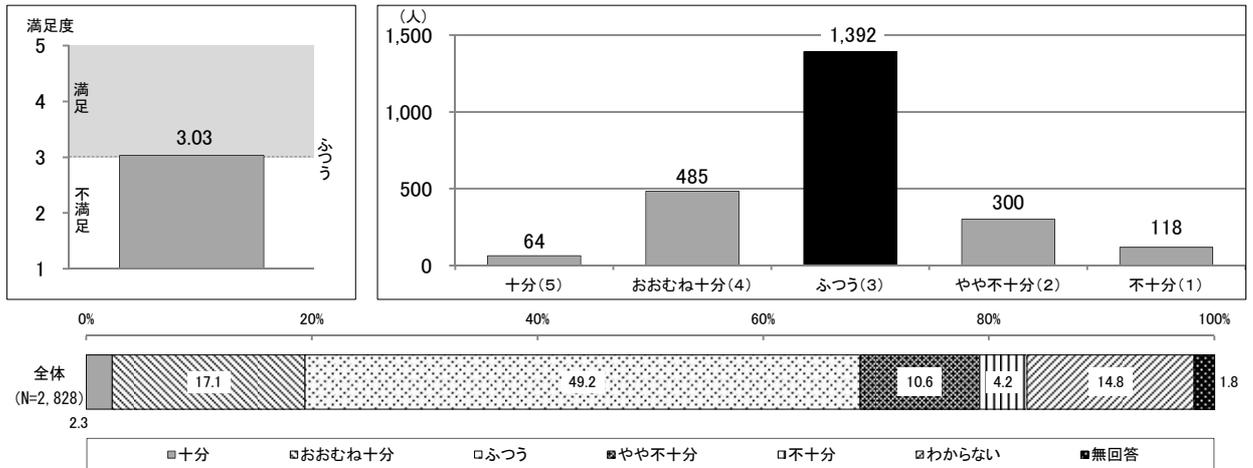
オ 子どもの成長を支える魅力的で良質な学びの場づくり

問1-32 学校・家庭・地域が連携し、社会全体で子どもたちの成長を支えていく体制が整備されている。

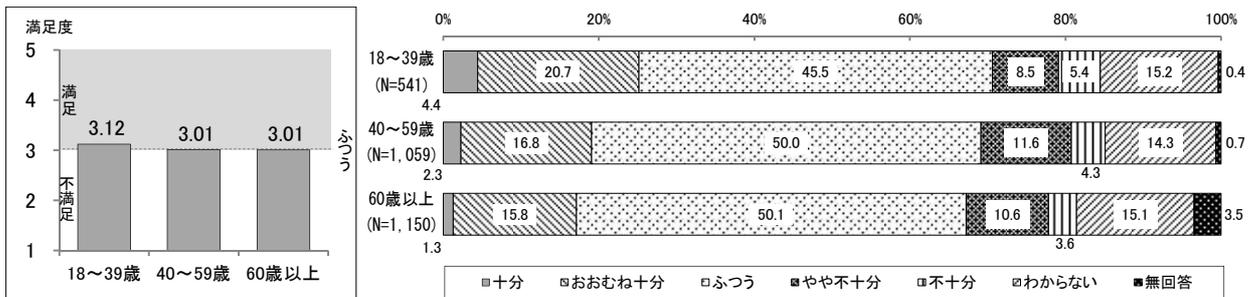
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.03で、「ふつう」の3より0.03高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は19.4%、「ふつう」は49.2%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は14.8%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は68.6%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.12であり、不満を感じていない人の割合は70.6%であった。一方、「40歳～59歳」及び「60歳以上」の満足度は3.01であり、不満を感じていない人の割合は、それぞれ69.1%、67.2%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した418人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、59人(14.1%)から回答があった。

回答の一部

- 家庭・地域とも共稼ぎの世帯・核家族が多く、社会として子どもを支えることは難しい。(女性/50歳代/秋田地域)
- 地域、家庭の力が衰退しているので、子どもの成長に関わる大人が少なくなっている。全て学校側に頼りすぎで、学校の機能が低下していると思う。(男性/50歳代/北秋田地域)
- 悪いことをした子を叱ると親が飛んでくる世知辛い世の中になっているため、地域や先生の子どもの成長を支える力に制約がかかっていると思う。(男性/30歳代/秋田地域)

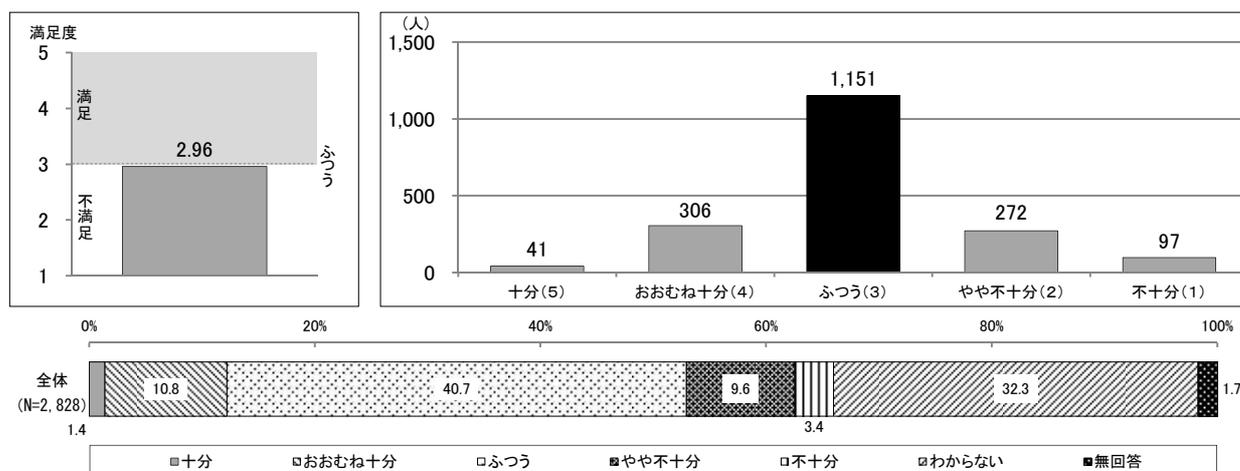
カ 地域社会と産業の活性化に資する高等教育機関の振興

問 1-33 県内の大学等で、地域の活性化につながる教育・研究・社会貢献活動が行われている。

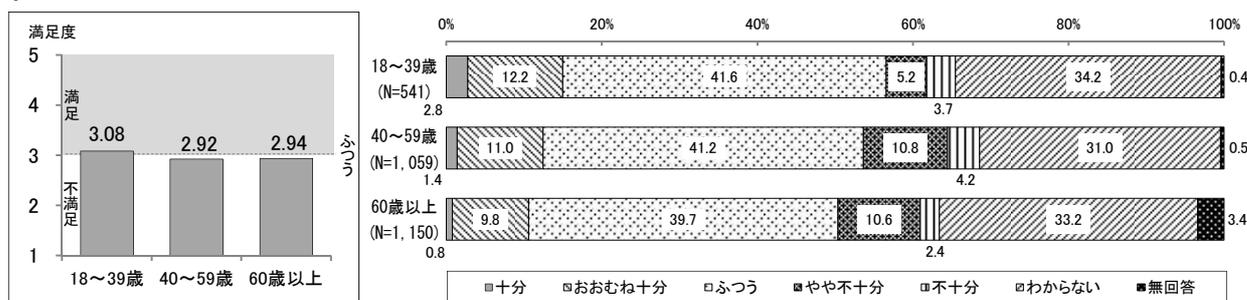
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.96で、「ふつう」の3より0.04低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は12.2%、「ふつう」は40.7%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は13.0%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は52.9%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.08であり、不満を感じていない人の割合は56.6%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.92であり、不満を感じていない人の割合は53.6%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した369人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、43人(11.7%)から回答があった。

回答の一部

- 県内大学の活動内容を企業等にアピールできれば、今後の県内就職等にも役立つのではないかと。少しでも若者の県外流出を減らせると思う。(女性/60歳代/秋田地域)
- 産学官の連携については実績が見えづらく、また、恩恵が限定的であると感じる。(男性/30歳代/仙北地域)
- ニュースによると、低カリウム野菜の栽培技術など広く世の中に浸透しつつあるものも存在するが、地域の活性化につながっているとは残念ながら言えないと思う。高齢化、人口減、インフラ維持など秋田の問題にマッチした研究が少ないように思う。(男性/30歳代/秋田地域)

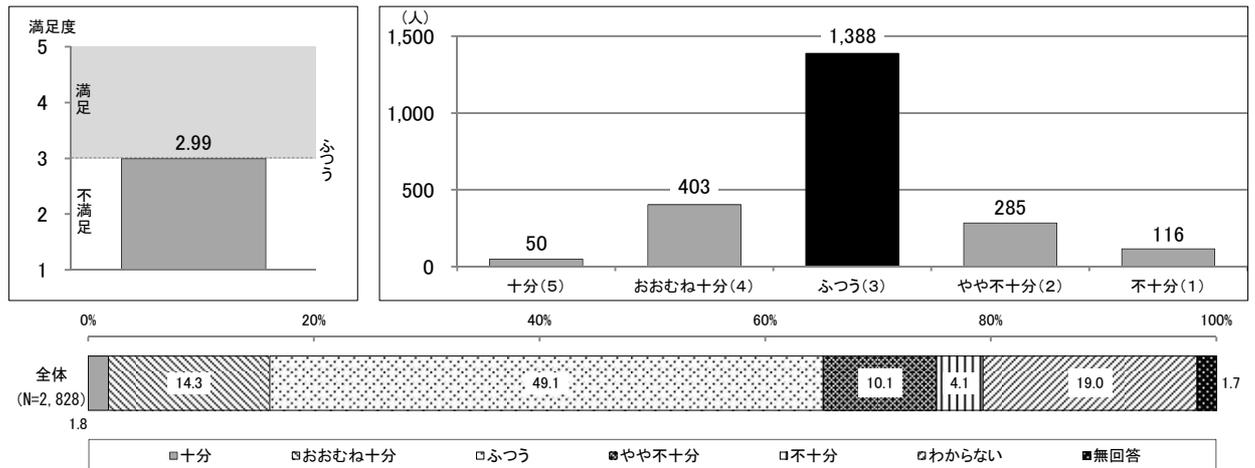
キ 地域を元気にする住民参加の学びの場と芸術・文化に親しむ機会の提供

問 1-34 県民の多様な生涯学習の機会や芸術文化に触れる機会が提供されている。

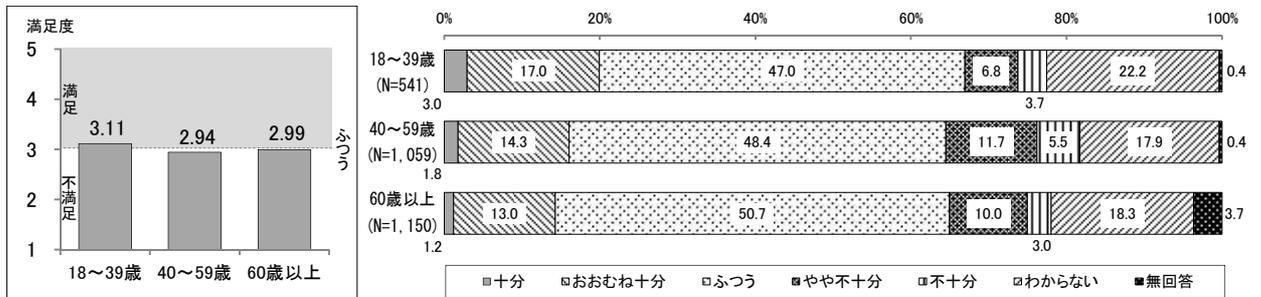
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.99で、「ふつう」の3より0.01低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は16.1%、「ふつう」は49.1%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は14.2%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は65.2%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.11であり、不満を感じていない人の割合は67.0%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.94であり、不満を感じていない人の割合は64.5%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した401人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、66人(16.5%)から回答があった。

回答の一部

- 都会と比べると子どもにとって色々な文化を見る機会が少ない。(男性/20歳代/仙北地域)
- 秋田市などでは芸術に触れる機会は大いにあるが、秋田市以外の地域ではなかなか触れる機会がない。(女性/40歳代/仙北地域)
- 生涯学習の催しへの若者の参加が少なすぎて、半ば退職者向けの趣味・娯楽にしかならない。もっと若者の利用を向上させるべき。また、講演会や講座の様子をライブ配信したり、動画サービスにアップロードして時間の取れない人も利用できるようにすべき。(男性/30歳代/秋田地域)

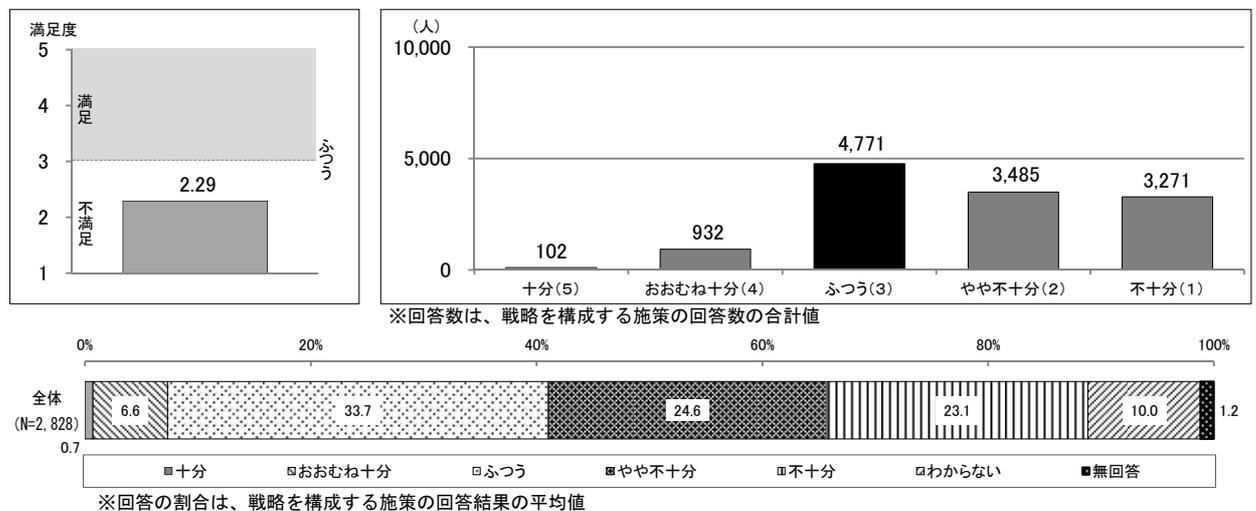
2 (参考) 各戦略の施策に関連する事柄についての満足度の平均値

「1 各戦略の施策に関連する事柄についての満足度」について、戦略ごとに平均値を計算した結果は次のとおりである。

戦略1 秋田の未来につながるふさと定着回帰戦略（問1-1～問1-5）

5段階評価の満足度の平均値は2.29で、「ふつう」の3より0.71低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

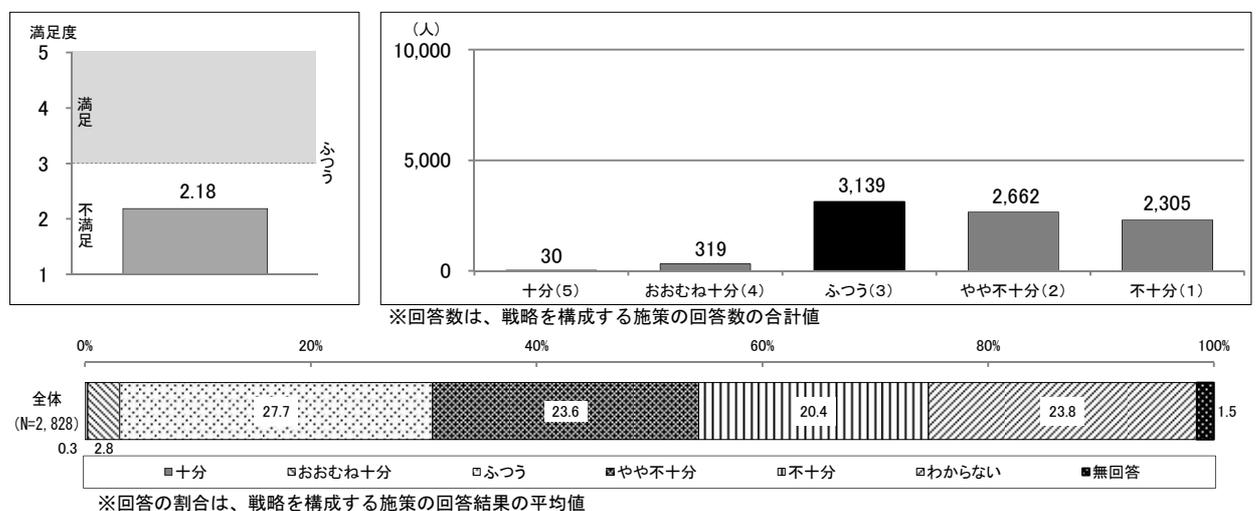
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は7.3%、「ふつう」は33.7%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は47.7%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は41.0%であった。



戦略2 社会の変革へ果敢に挑む産業振興戦略（問1-6～問1-9）

5段階評価の満足度の平均値は2.18で、「ふつう」の3より0.82低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

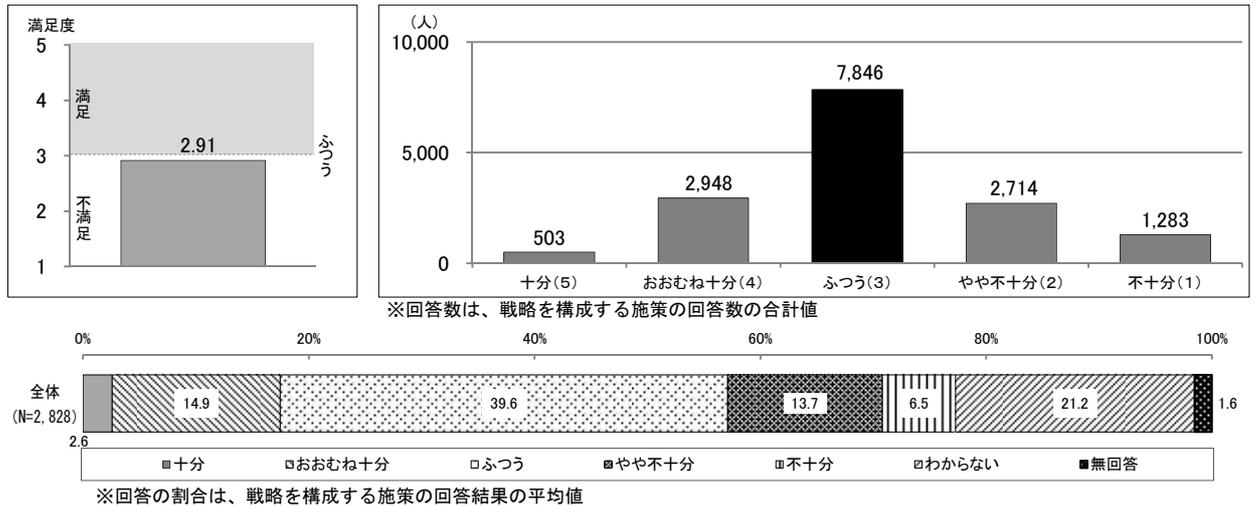
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は3.1%、「ふつう」は27.7%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は44.0%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は30.8%であった。



戦略3 新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略（問1-10～問1-16）

5段階評価の満足度の平均値は2.91で、「ふつう」の3より0.09低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

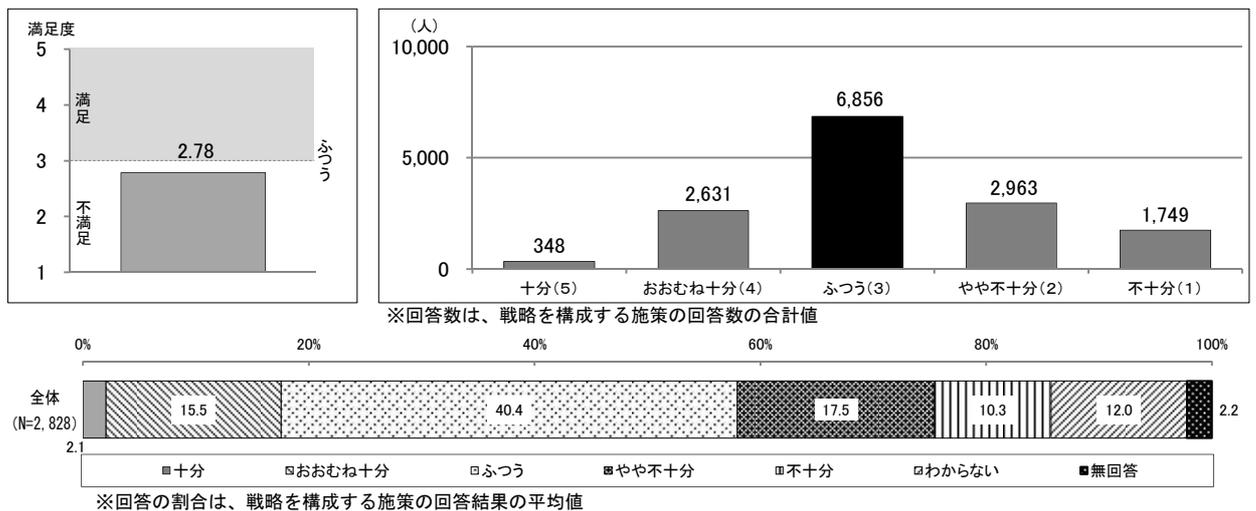
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は17.5%、「ふつう」は39.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は20.2%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は57.1%であった。



戦略4 秋田の魅力が際立つ 人・もの交流拡大戦略（問1-17～問1-22）

5段階評価の満足度の平均値は2.78で、「ふつう」の3より0.22低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

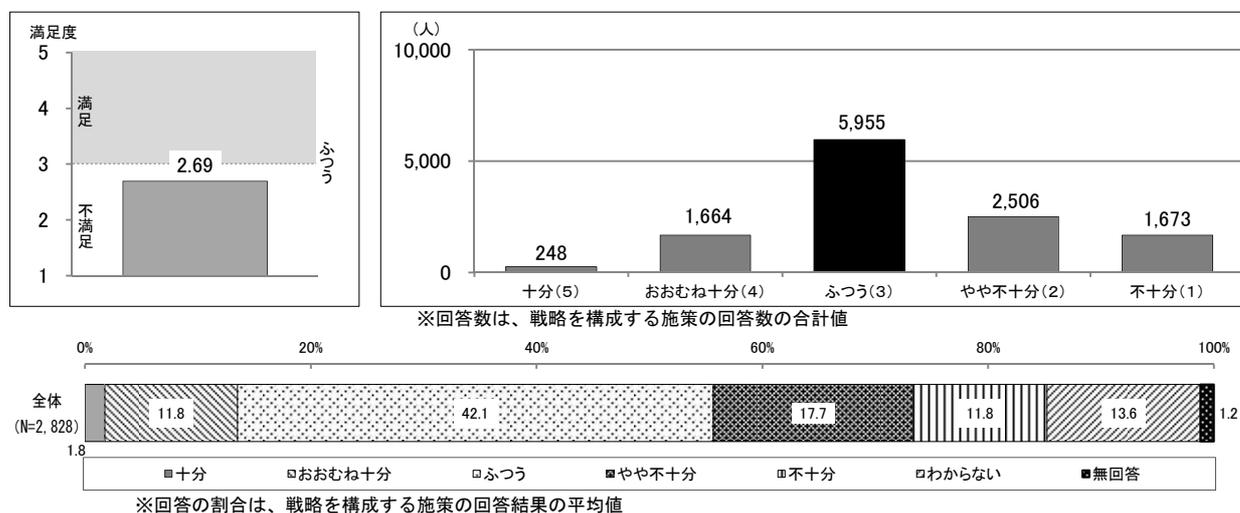
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は17.6%、「ふつう」は40.4%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は27.8%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は58.0%であった。



戦略5 誰もが元気で活躍できる健康長寿・地域共生社会戦略（問1-23～問1-27）

5段階評価の満足度の平均値は2.69で、「ふつう」の3より0.31低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

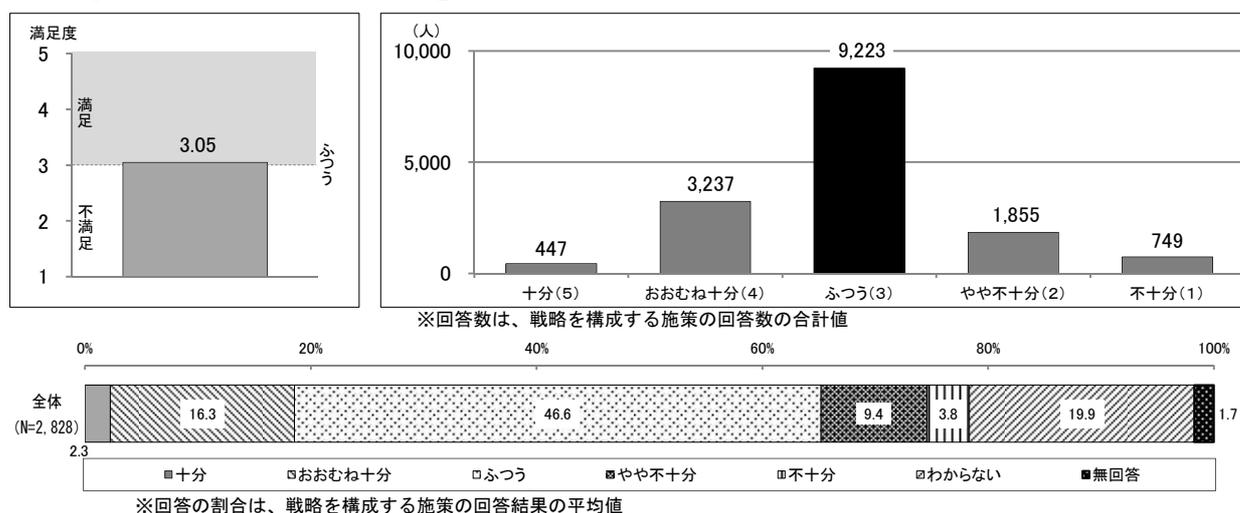
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は13.6%、「ふつう」は42.1%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は29.5%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は55.7%であった。



戦略6 ふるさとの未来を拓く人づくり戦略（問1-28～問1-34）

5段階評価の満足度の平均値は3.05で、「ふつう」の3より0.05高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

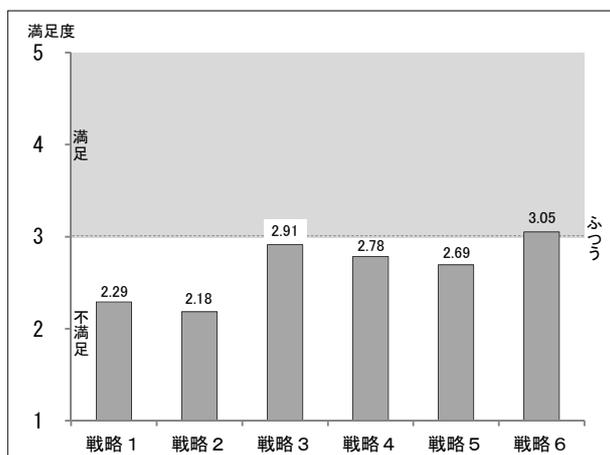
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は18.6%、「ふつう」は46.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は13.2%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は65.2%であった。



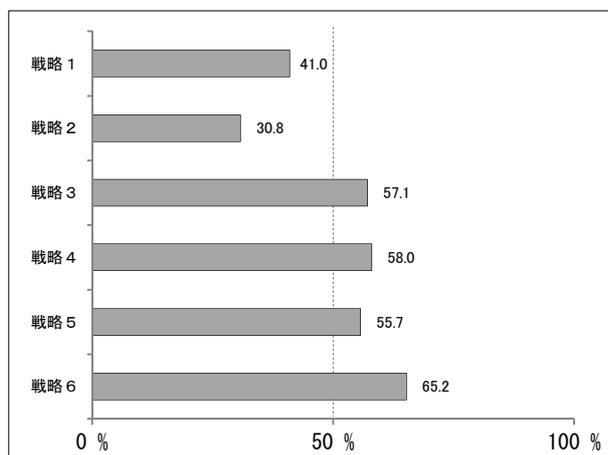
満足度の平均値が最も高かったのは「戦略6 ふるさとの未来を拓く人づくり戦略」の3.05で、不満を感じていない人の割合は65.2%であった。次いで、「戦略3 新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略」の2.91で、不満を感じていない人の割合は57.1%であった。

満足度の平均値が最も低かったのは、「戦略2 社会の変革へ果敢に挑む産業振興戦略」の2.18で、不満を感じていない人の割合は30.8%であった。

〔満足度の平均値〕



〔不満を感じていない人の割合の平均値〕



※「満足度の平均値」「不満を感じていない人の割合の平均値」とも、戦略を構成する施策の回答結果の平均値であり、各戦略そのものの満足度、割合ではない。

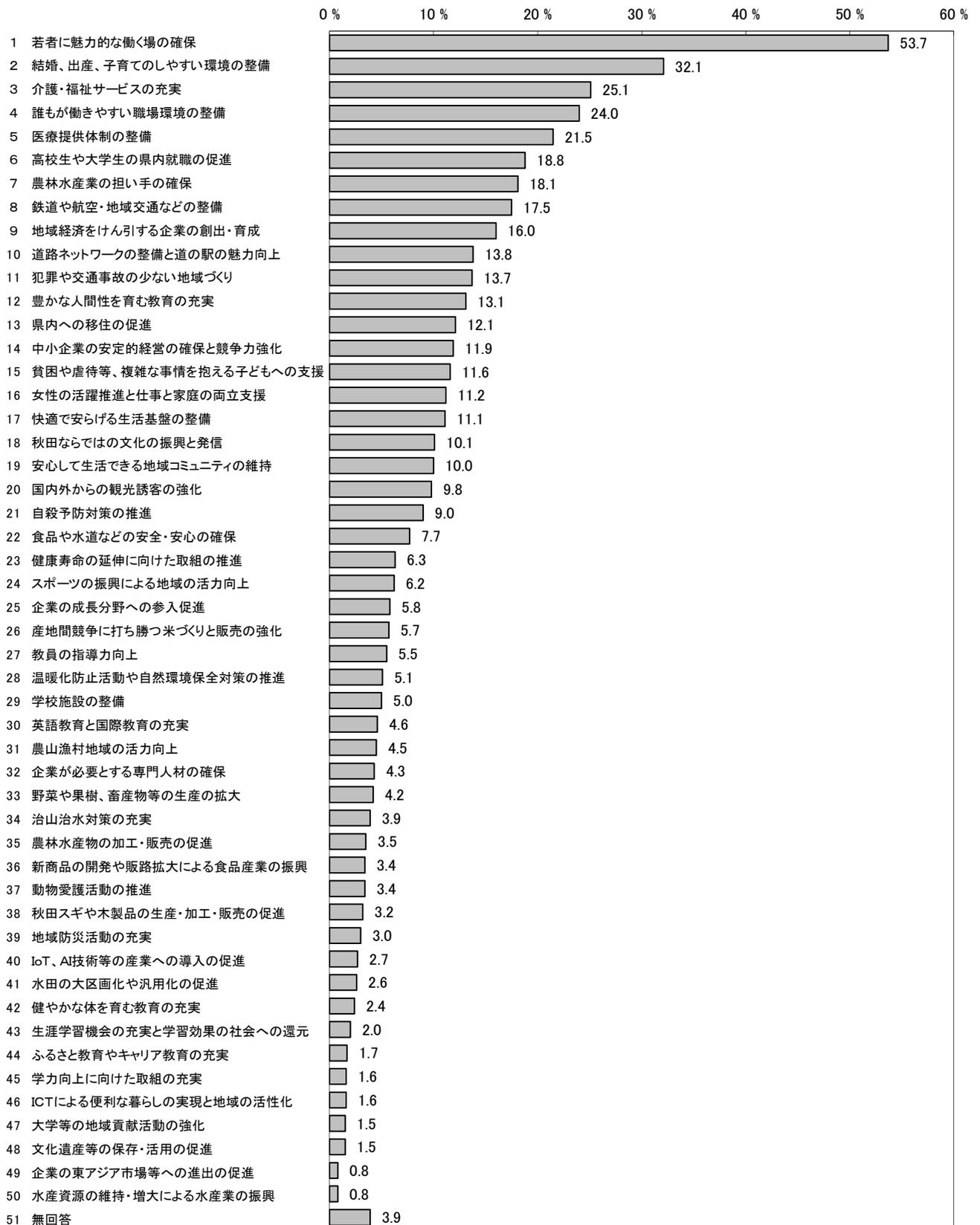
第2章 県政の重要課題について

重要課題として県に力を入れて欲しいこと（問2）

問1で満足度をお伺いした項目に関して、今後の県政を推進していく上で、あなたが重要課題として県に力を入れて欲しいことは何ですか。5つまで選択して番号を記入してください。

【全体】

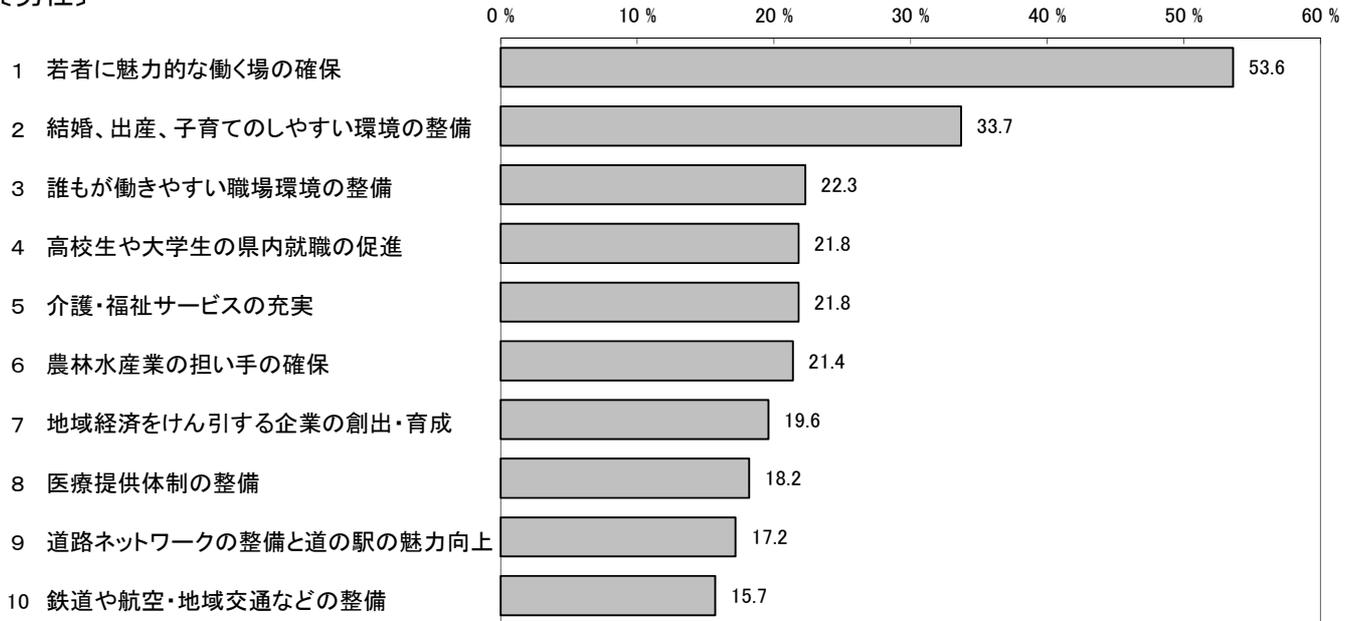
「若者に魅力的な働く場の確保」の割合が53.7%と最も高く、「結婚、出産、子育てのしやすい環境の整備」の32.1%、「介護・福祉サービスの充実」の25.1%、「誰もが働きやすい職場環境の整備」の24.0%と続いている。



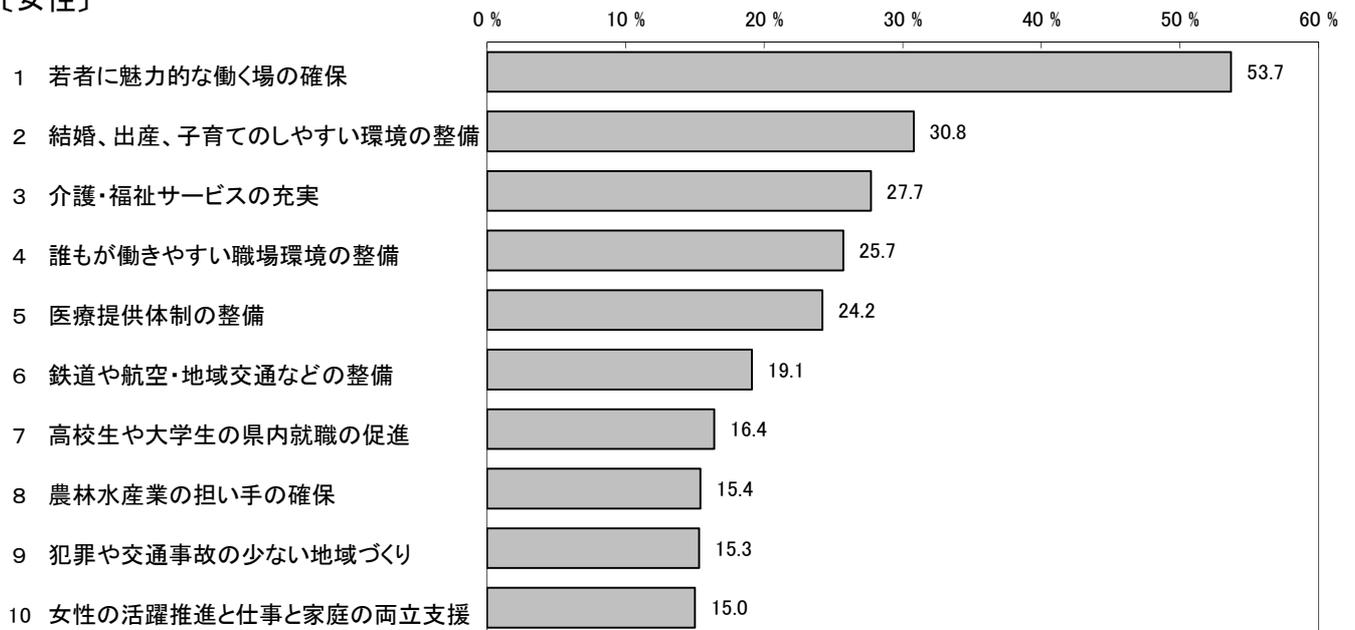
【性別】

上位10項目のうち8項目は男女で共通しているが、男女で違う項目として、男性の7位に「地域経済をけん引する企業の創出・育成」、同じく9位に「道路ネットワークの整備と道の駅の魅力向上」が入っている。また、女性の9位に「犯罪や交通事故の少ない地域づくり」、同じく10位に「女性の活躍推進と仕事と家庭の両立支援」が入っている。

〔男性〕



〔女性〕



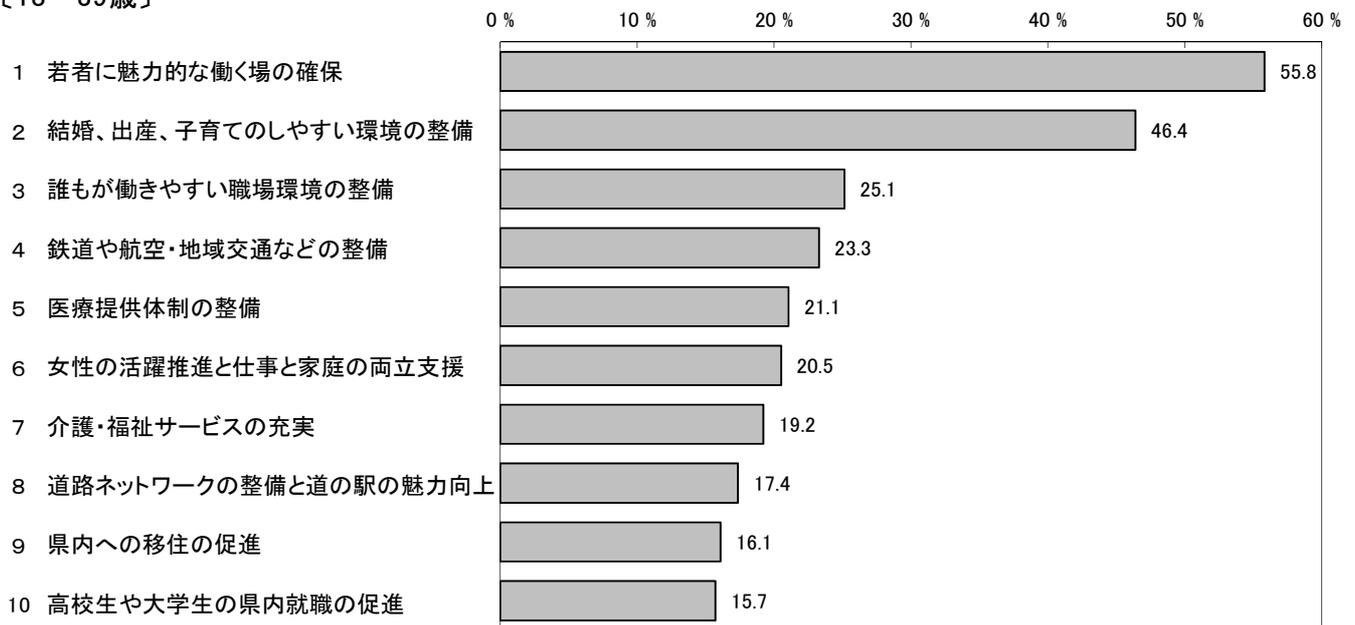
【年代別】

全年代共通で「若者に魅力的な働く場の確保」、「結婚、出産、子育てのしやすい環境の整備」、「誰もが働きやすい職場環境の整備」が上位に入っている。

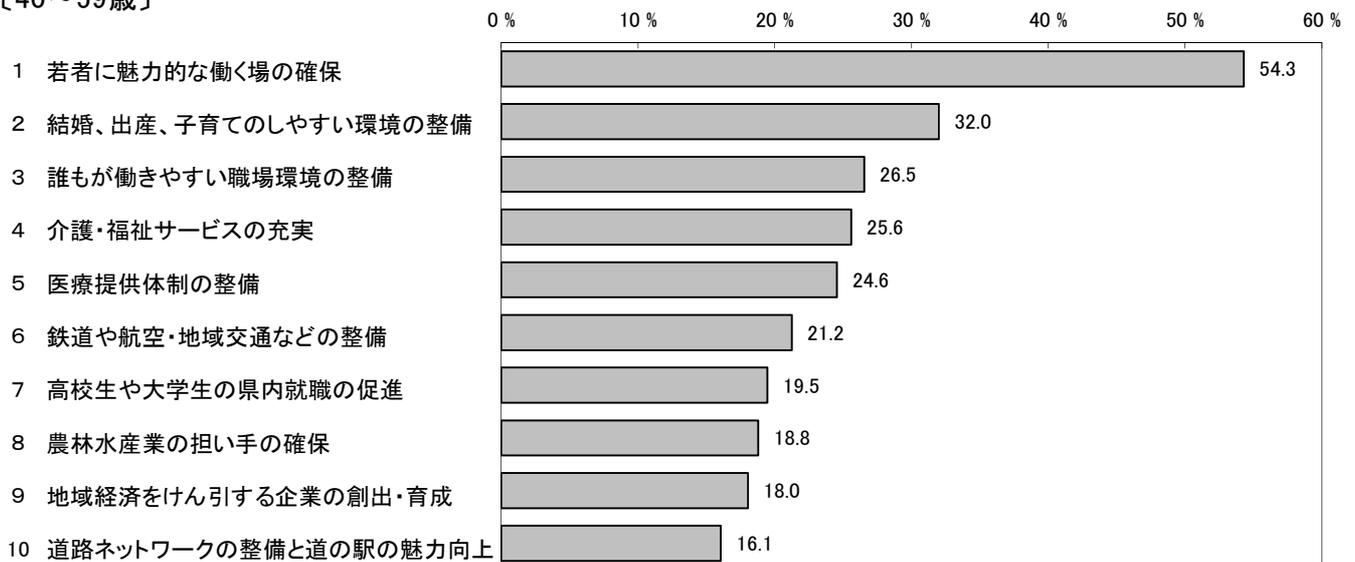
18～39歳と40～59歳では、「鉄道や航空・地域交通などの整備」、「道路ネットワークの整備と道の駅の魅力向上」が入っている。また、年代が上がるにつれて、「介護・福祉サービスの充実」の順位が上位になっている。

18～39歳では、他の年代にない「女性の活躍推進と仕事と家庭の両立支援」、「県内への移住の促進」が、60歳以上では、「豊かな人間性を育む教育の充実」、「犯罪や交通事故の少ない地域づくり」が入っている点が特徴である。

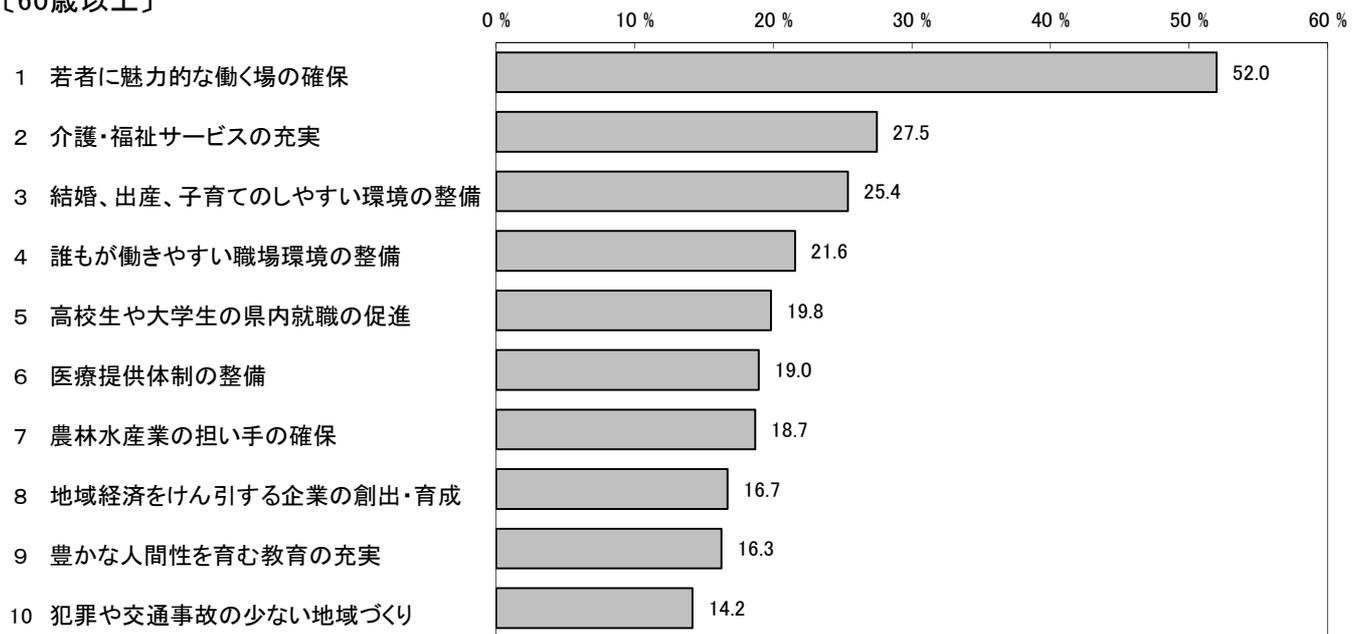
[18～39歳]



[40～59歳]



[60歳以上]



第3章 県の特定期間について

特定の課題に関する意識（問3）

1 県の広報活動について

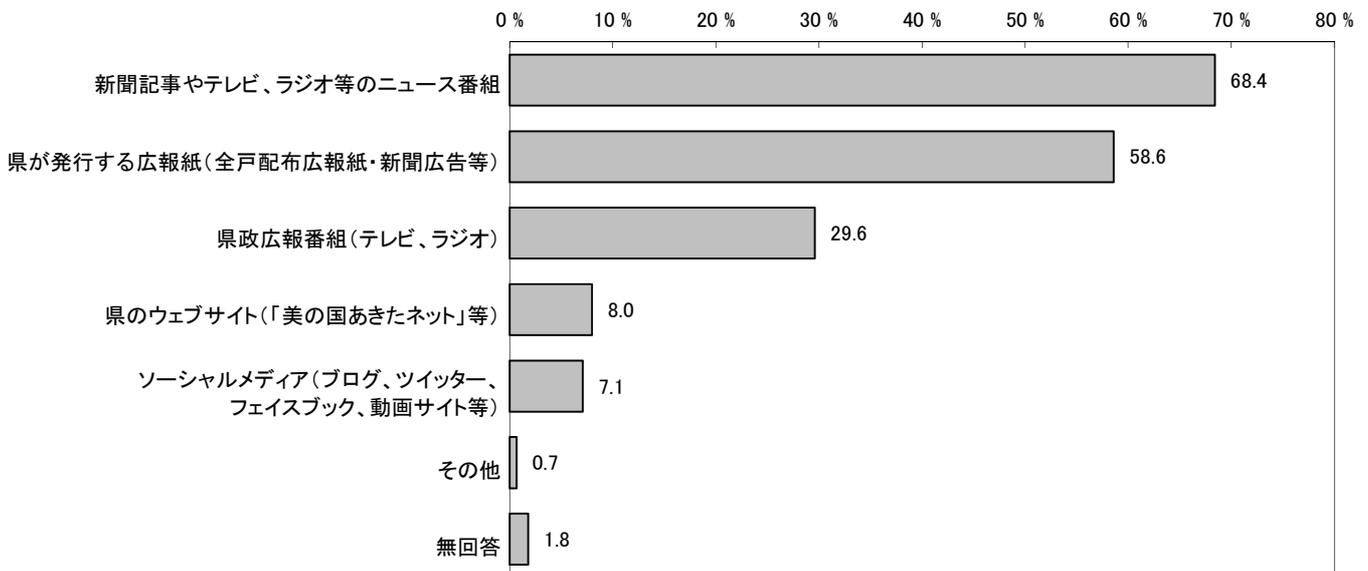
（1）県が発信する情報の取得方法

① あなたは、県の施策・事業等を何から知ることが多いですか（〇はいくつでも）。

全体では、「新聞記事やテレビ、ラジオ等のニュース番組」の割合が68.4%と最も高く、「県が発行する広報紙」の58.6%、「県政広報番組」の29.6%と続いている。「県のウェブサイト」は8.0%、「ソーシャルメディア」は7.1%である。

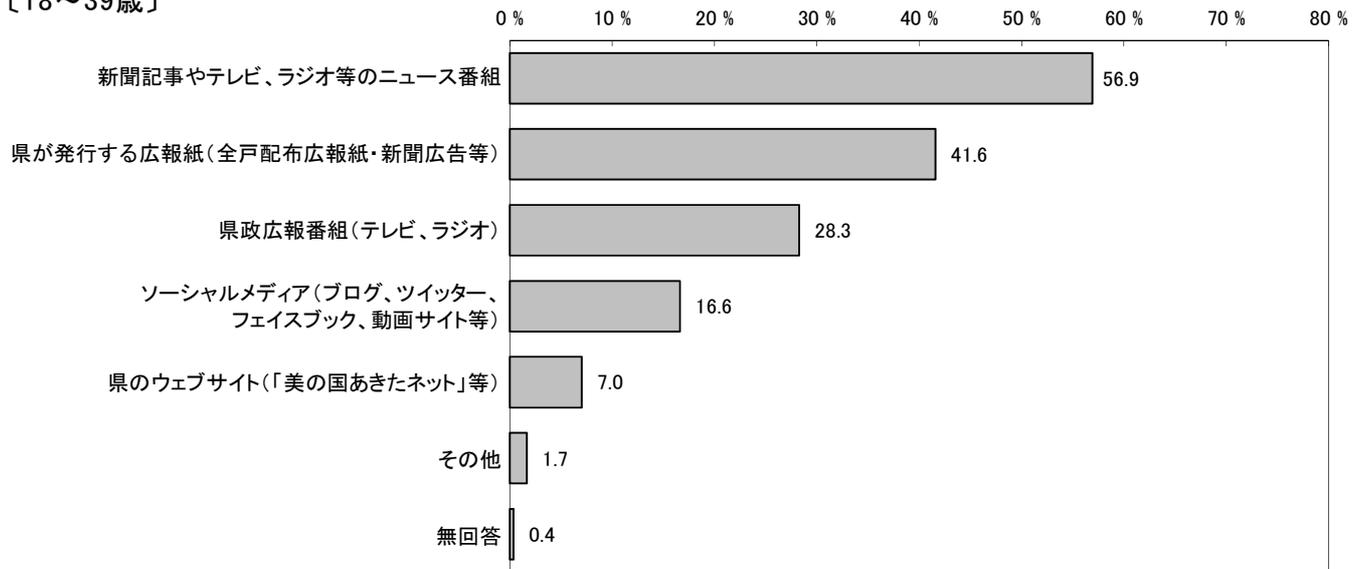
年代別では、全年代共通で「新聞記事やテレビ、ラジオ等のニュース番組」、「県が発行する広報紙」、「県政広報番組」が上位に入っている。「ソーシャルメディア」の割合は、18～39歳で16.6%であるのに対し、60歳以上では2.0%となっている。

【全体】

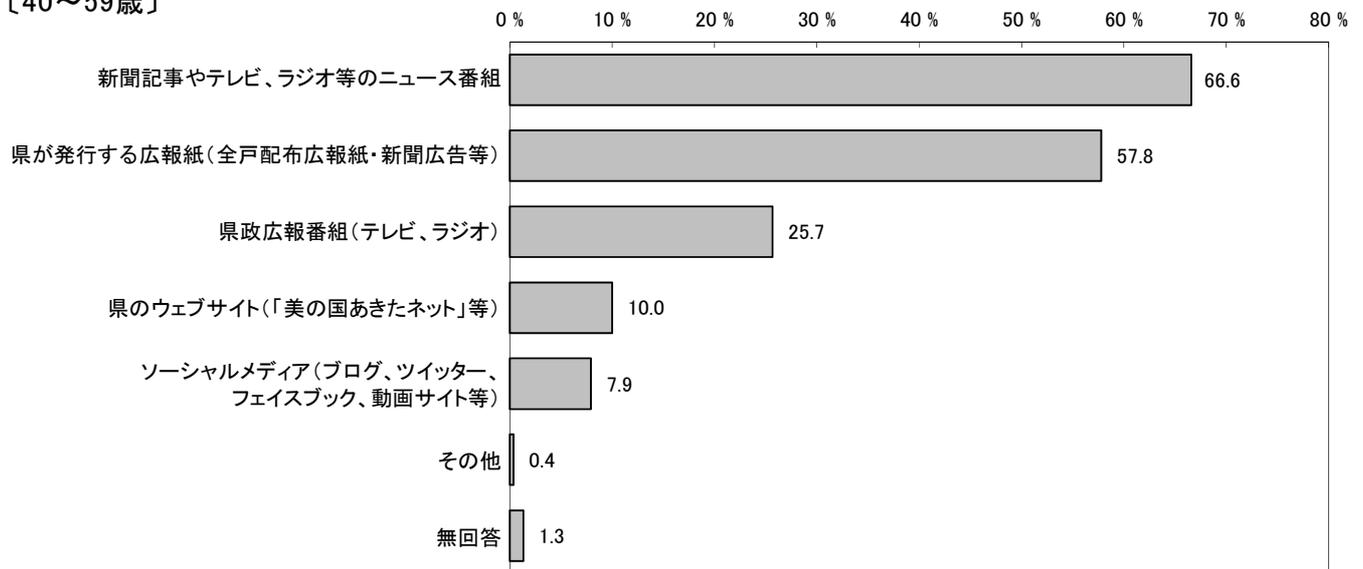


【年代別】

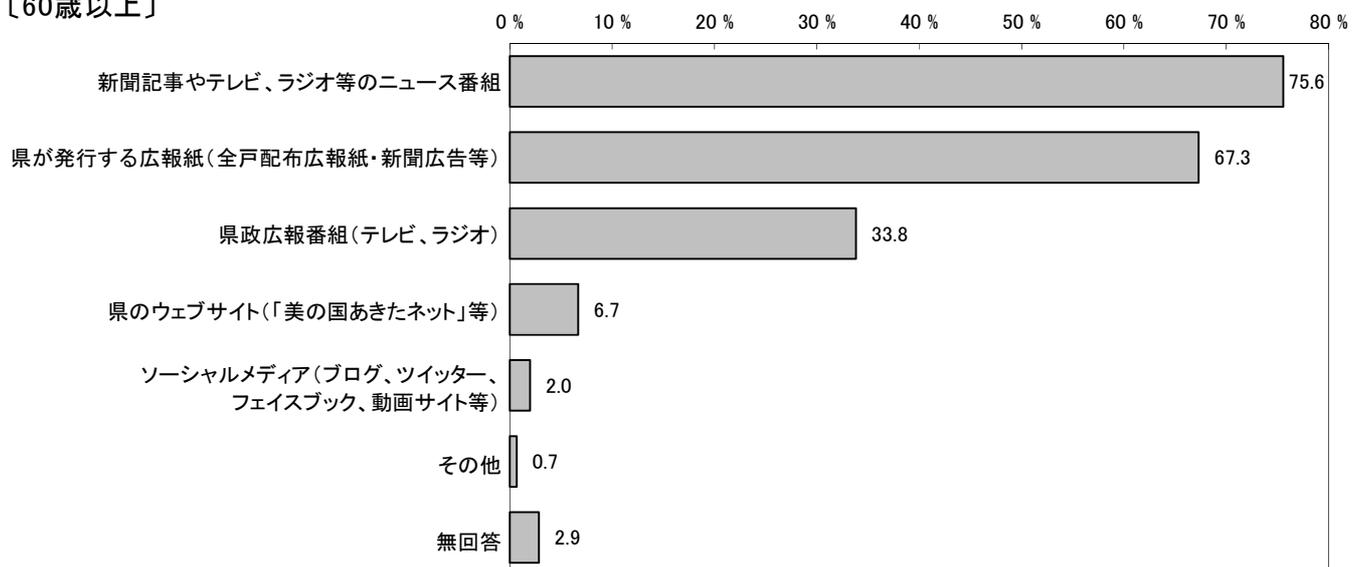
〔18～39歳〕



〔40～59歳〕



〔60歳以上〕



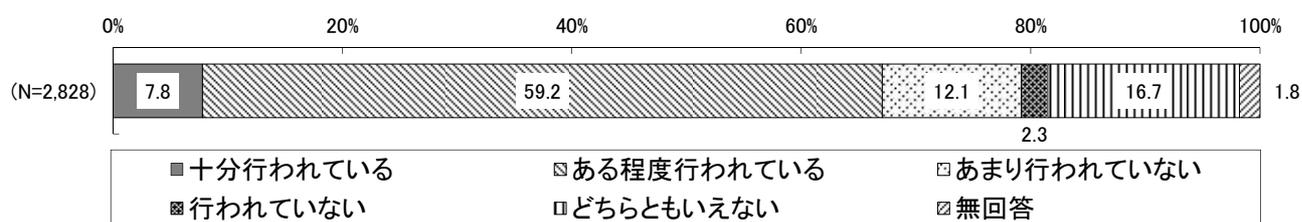
(2) 広報活動の現状評価

② あなたは、広報紙やウェブサイト、テレビ、ラジオ等による広報活動は十分に行われていると思いますか（○は1つ）。

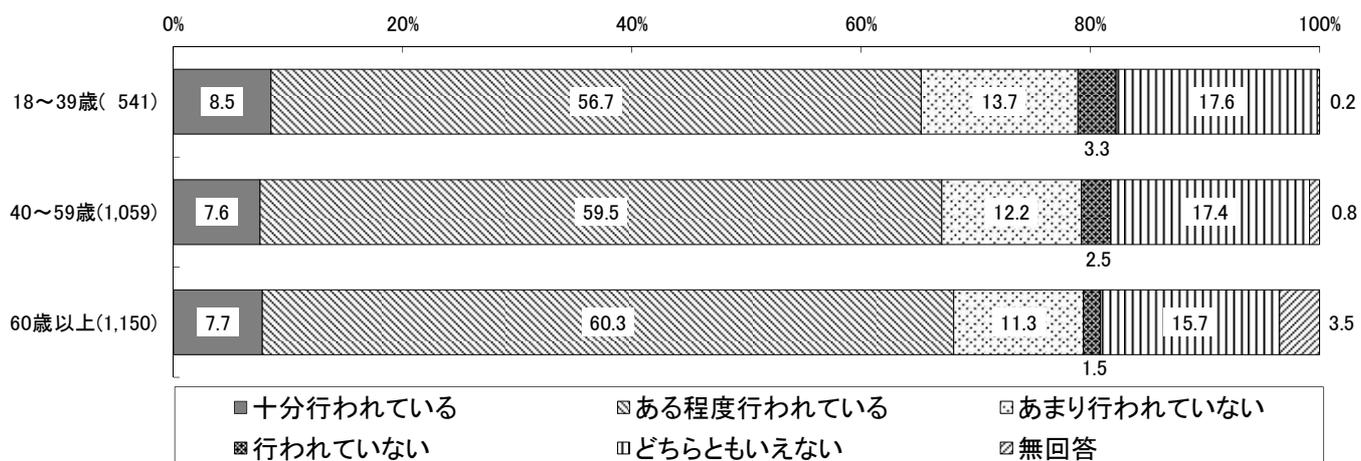
全体では、「十分行われている」と「ある程度行われている」を合わせた割合は67.0%となっている。

年代別では、「十分行われている」と「ある程度行われている」を合わせた割合は60歳以上が68.0%で最も高く、「あまり行われていない」と「行われていない」を合わせた割合は18～39歳が17.0%で最も高くなっている。

【全体】



【年代別】



2 家庭での防災活動について

(1) 家庭での災害時に備えた備蓄状況

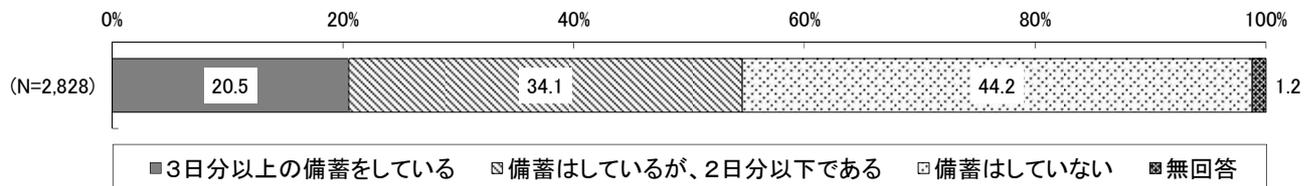
① あなたの家庭では、災害時の備えとして、水・食料等の備蓄（※）（家族人数×3日分）をしていますか（○は1つ）。

※備蓄には、普段から家庭で使うために購入・保管している冷蔵庫内の食料品等や、災害時にも活用できるペットボトル飲料水やカップラーメン、缶詰なども含まれます。

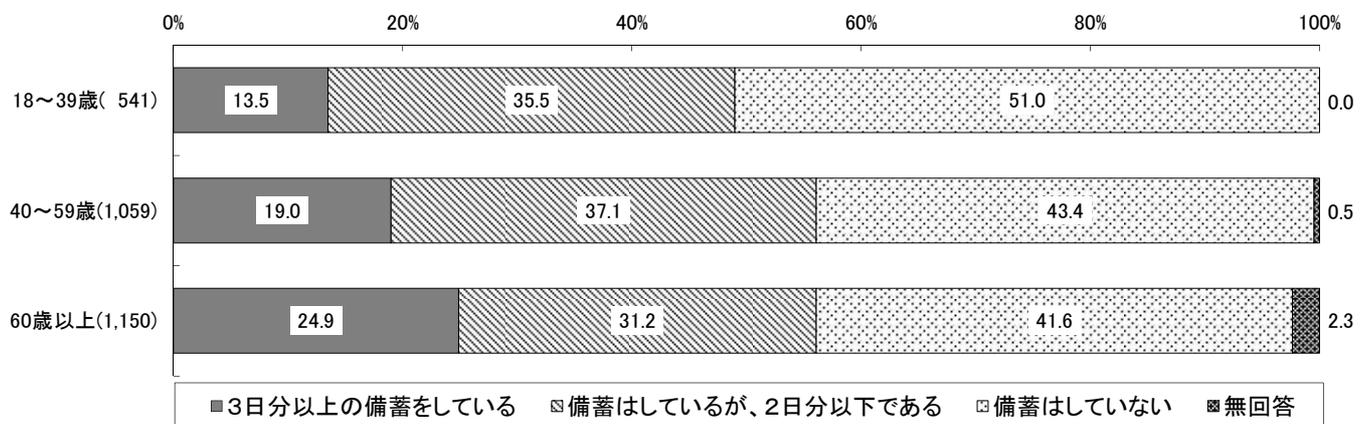
全体では、「3日分以上の備蓄をしている」の割合が20.5%、「備蓄はしているが、2日分以下である」の割合が34.1%で、それらの合計は54.6%と、「備蓄をしていない」の割合44.2%を上回る。

年代別では、「3日分以上の備蓄をしている」と「備蓄はしているが、2日分以下である」の合計は、40～59歳と60歳以上が同率で56.1%と最も高い。

【全体】



【年代別】



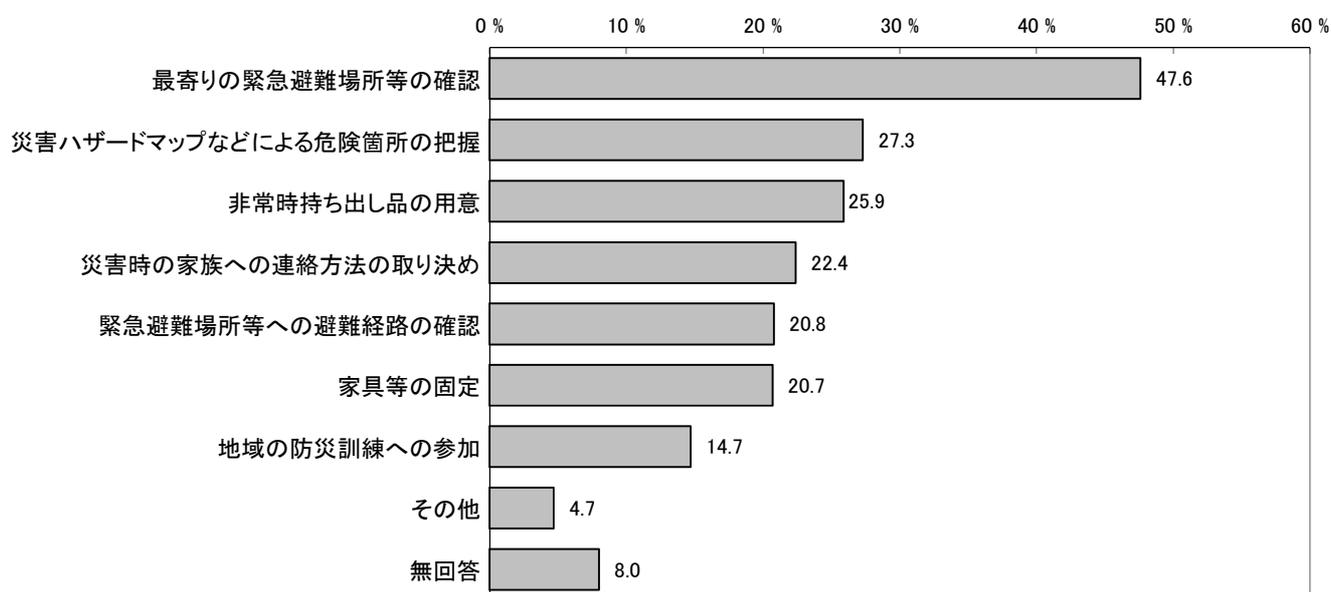
(2) 災害に備えた家庭での防災活動の状況

② あなたは、災害に備えて日頃どのような防災活動を行っていますか（〇はいくつでも）。

全体では、「最寄りの緊急避難場所等の確認」が 47.6%と最も高く、「災害ハザードマップなどによる危険箇所の把握」の 27.3%、「非常持ち出し品の用意」の 25.9%、「災害時の家族への連絡方法の取り決め」の 22.4%と続く。

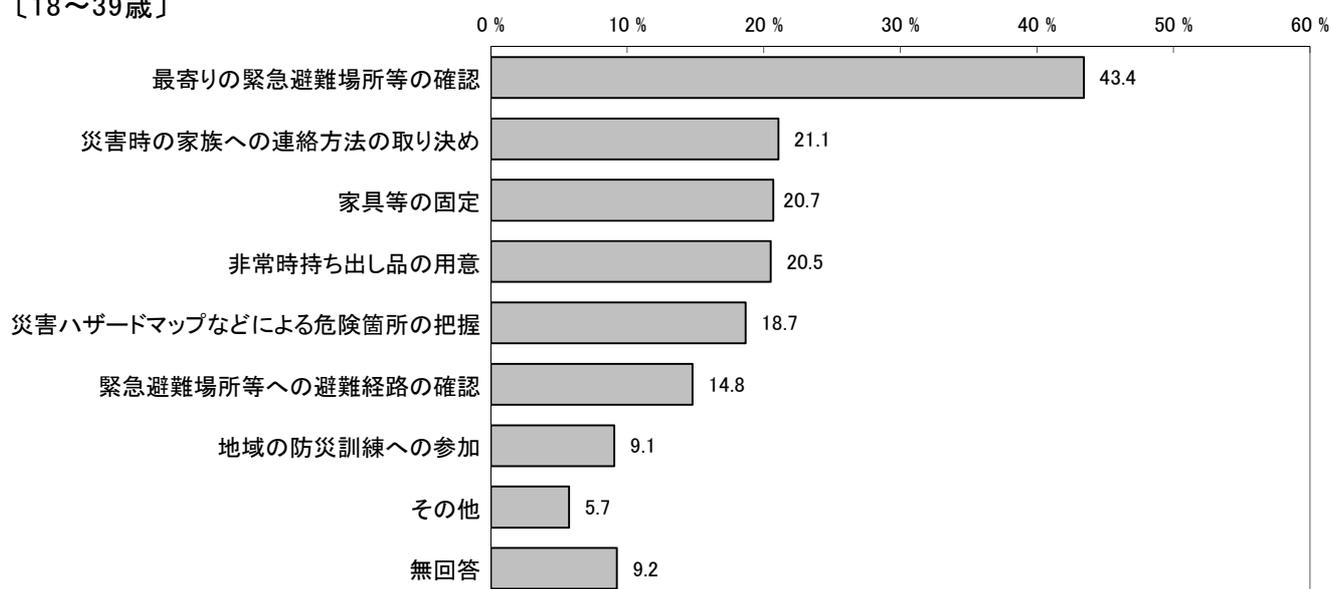
年代別では、「最寄りの緊急避難場所等の確認」は、60歳以上で 49.1%と最も高く、年代が下がるほど低くなる傾向にある。また、「災害ハザードマップなどによる危険箇所の把握」は、60歳以上で 30.9%と最も高くなっているのに対し、18～39歳では 18.7%と最も低くなっている。

【全体】

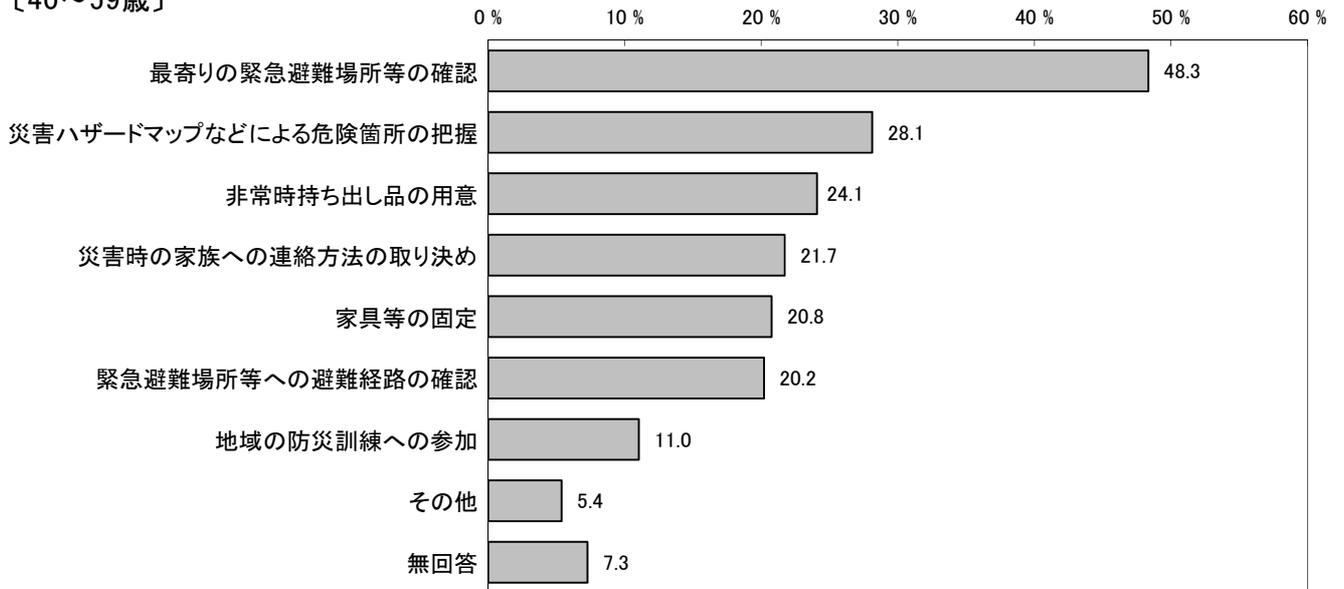


【年代別】

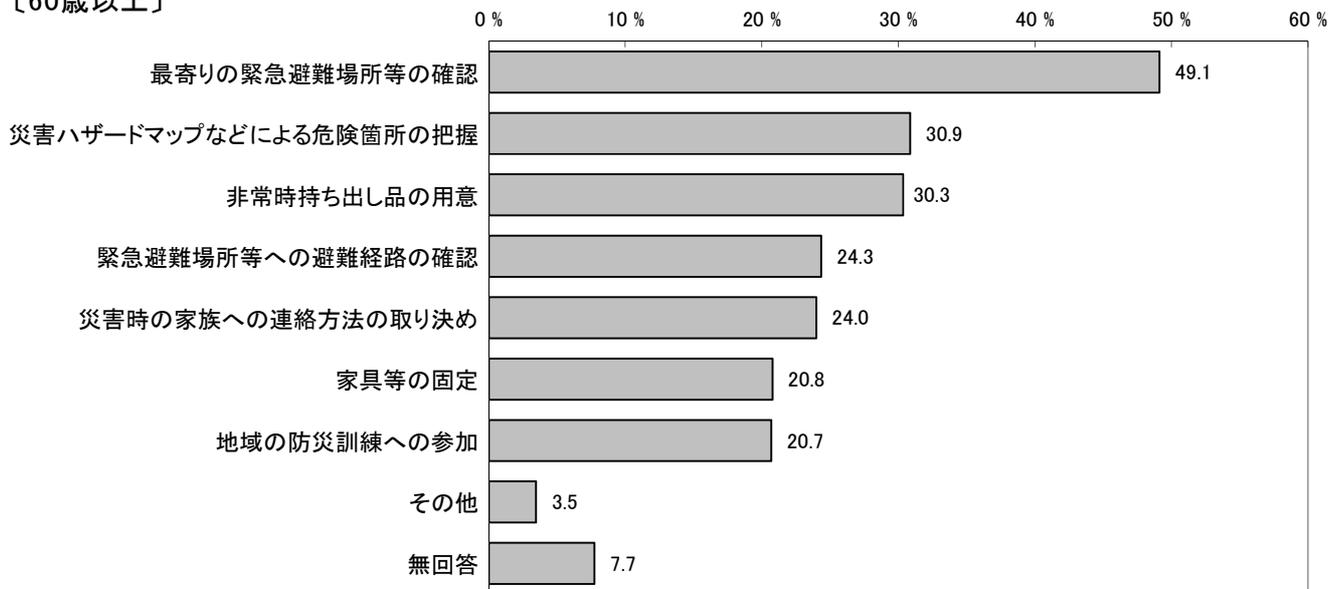
〔18～39歳〕



[40～59歳]



[60歳以上]



3 読書活動について

(1) 読書への興味

① あなたは読書（※）が好きですか（○は1つ）。

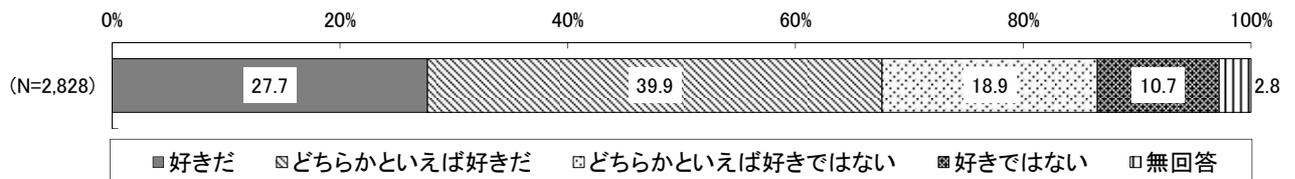
※読書には、新聞（日刊紙の電子購読版を含む。）、雑誌、電子書籍、子どもへの読み聞かせ、オーディオブック（注）も含まれます。

（注）オーディオブックとは、書籍を朗読したものを録音したCDやカセット等のことです。

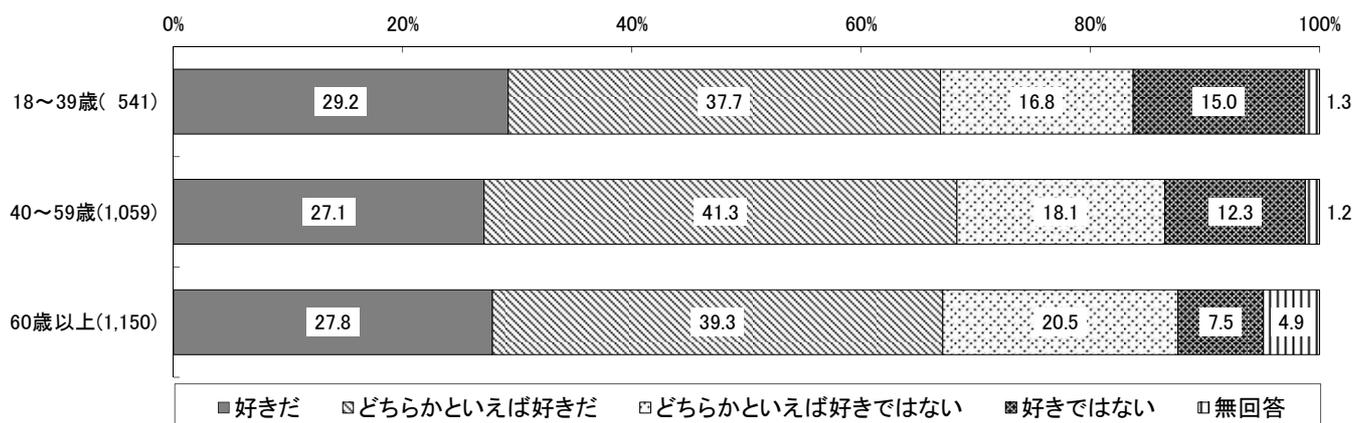
全体では、「好きだ」は27.7%で、「どちらかといえば好きだ」の39.9%と合わせると、好きと感じている人の割合は、67.6%となり、「好きではない」と「どちらかといえば好きではない」を合わせた割合29.6%を上回る。

年代別では、「好きだ」と「どちらかといえば好きだ」を合わせた割合が最も高いのは、40～59歳の68.4%で、60歳以上は67.1%、18～39歳は66.9%と、年代による違いはほとんどない。

【全体】



【年代別】



(2) 1日の平均読書時間

② あなたは1日平均(※)どれくらい読書をしていますか(○は1つ)。

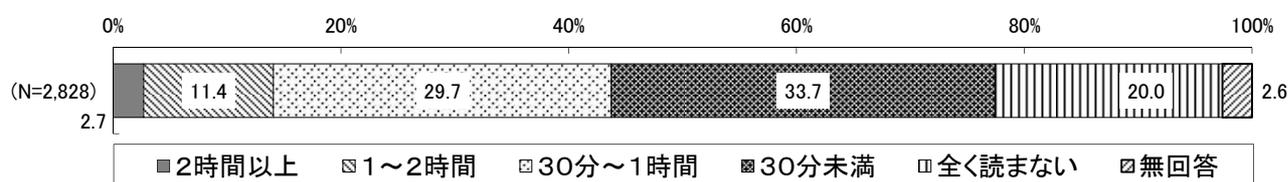
※子どもへの読み聞かせ時間も含まれます。

※休日まとめ読みの場合は、1日平均に置き換えてください。

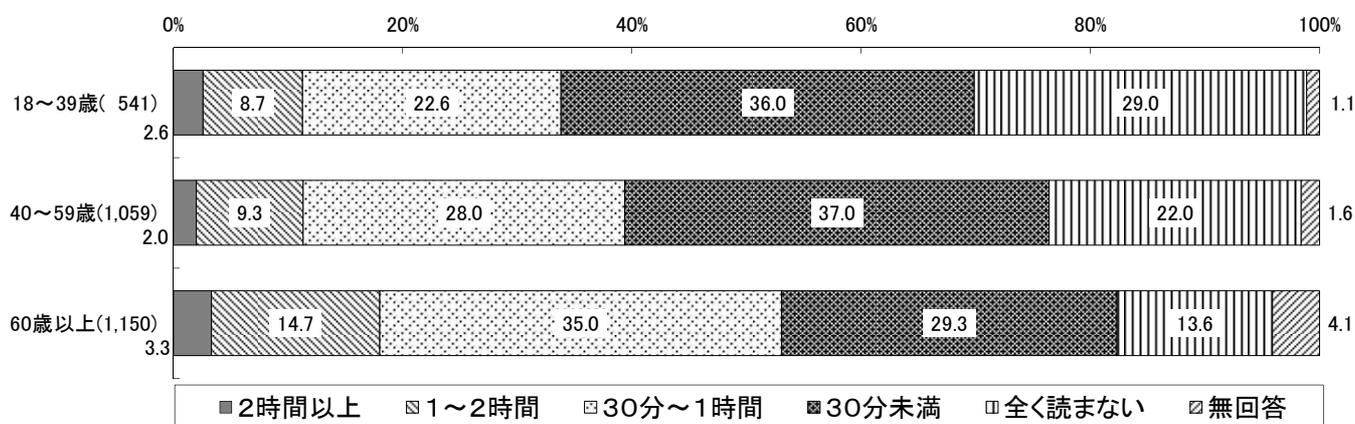
全体では、30分以上読書をする人の割合は43.8%であり、「全く読まない」は20.0%となっている。

年代別では、30分以上読書をする人の割合が最も高いのは、60歳以上の53.0%で、40～59歳の39.3%がそれに続いている。「全く読まない」は、18～39歳の29.0%が最も高い。

【全体】



【年代別】



4 男女共同参画について

「男は仕事、女は家庭」の考え方

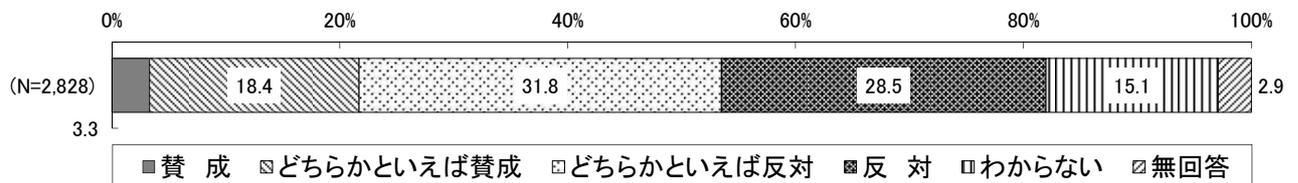
① 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこれについてどう思いますか
(〇は1つ)。

全体では、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合 21.7%は、「反対」と「どちらかといえ
ば反対」を合わせた割合 60.3%よりも低い。

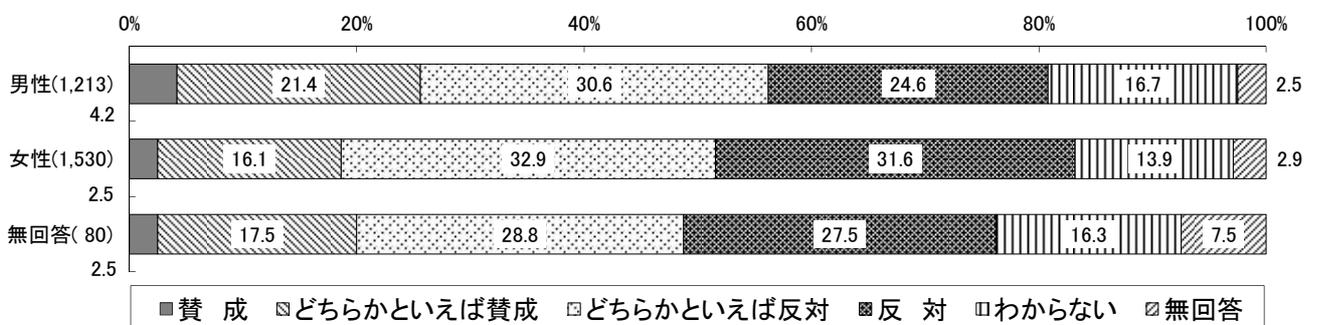
性別では、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合は、男性が女性より高く、「反対」と「ど
ちらかといえば反対」を合わせた割合は、女性が男性より高い。

年代別では、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合は、60歳以上が27.2%で最も高い。「反
対」と「どちらかといえば反対」を合わせた割合は、18～39歳が69.1%で最も高い。

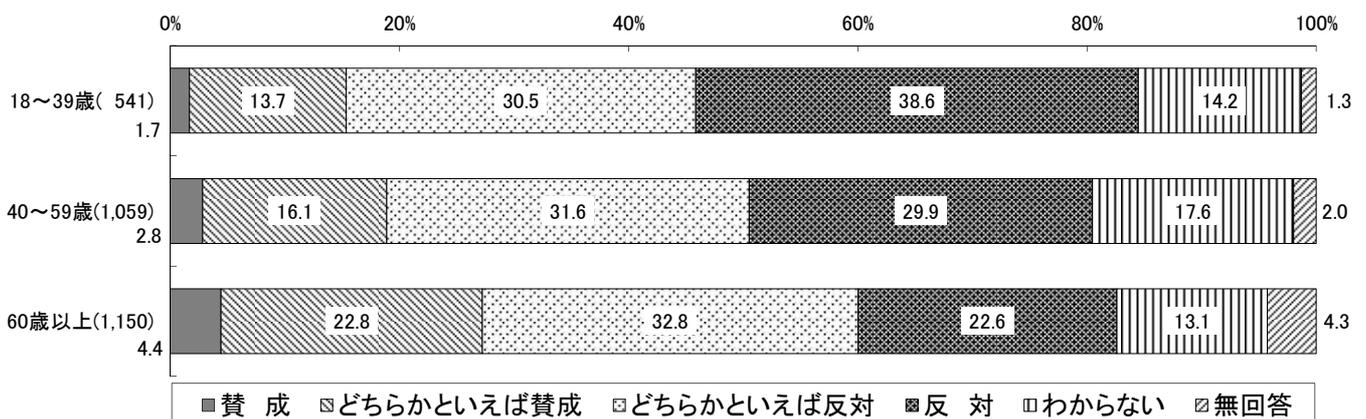
【全体】



【性別】



【年代別】



5 社会活動・地域活動について

「社会活動・地域活動」への取組の頻度

① あなたが、ここ1年間に仕事以外の何らかの「社会活動・地域活動」(※)に取り組んだ頻度で、もっとも当てはまるものはどれですか(○は1つ)。

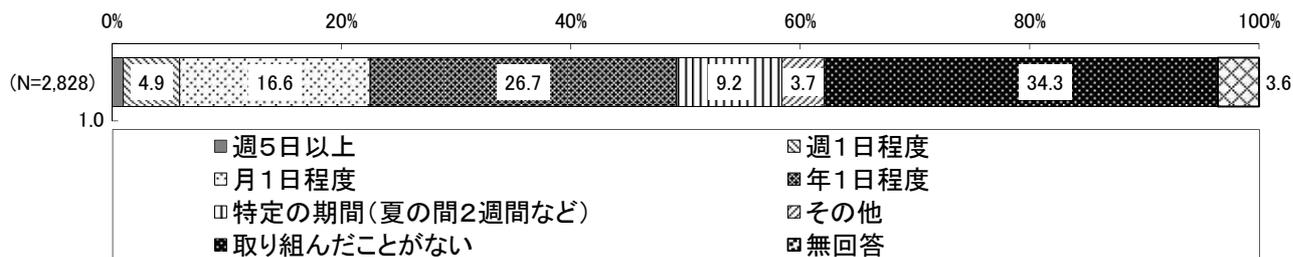
※「社会活動・地域活動」の具体例

地域の公園の花壇の手入れ、町内一斉清掃への参加、河川のごみ拾い、子育て支援、子ども会活動、まちづくりフェスティバル、祭り・伝統芸能の担い手、高齢者宅の除雪の手伝い 等

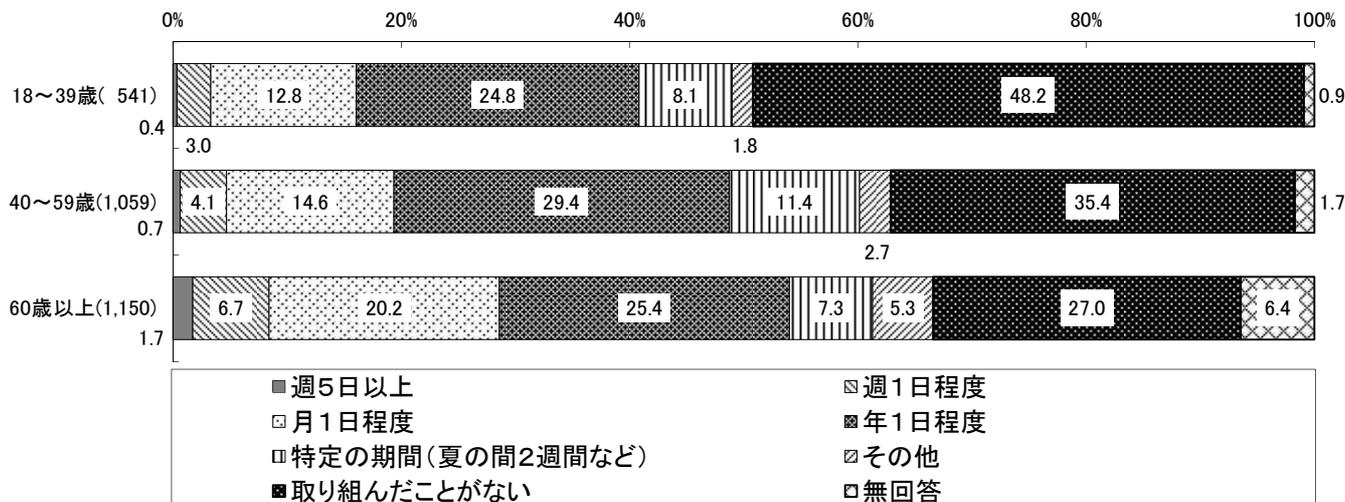
全体では、「取り組んだことがない」が34.3%と最も高く、次いで「年1日程度」の26.7%、「月1日程度」が16.6%と続いている。

年代別では、18～39歳は「取り組んだことがない」が48.2%と最も高く、60歳以上は「取り組んだことがない」が27.0%と最も低くなっている。

【全体】



【年代別】



6 地域社会の住みやすさについて

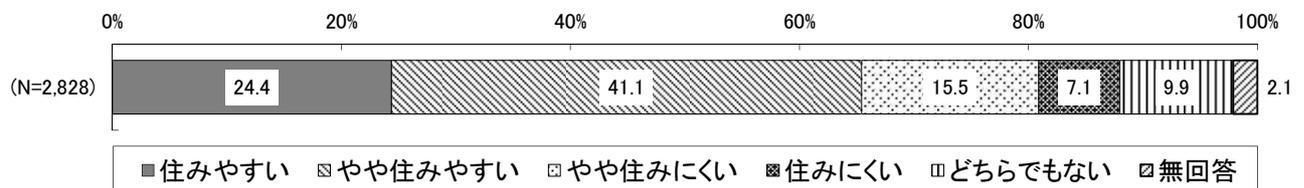
住んでいる地域の住みやすさ

① あなたは、現在お住まいの地域の住みやすさについて、どう思われますか（○は1つ）。

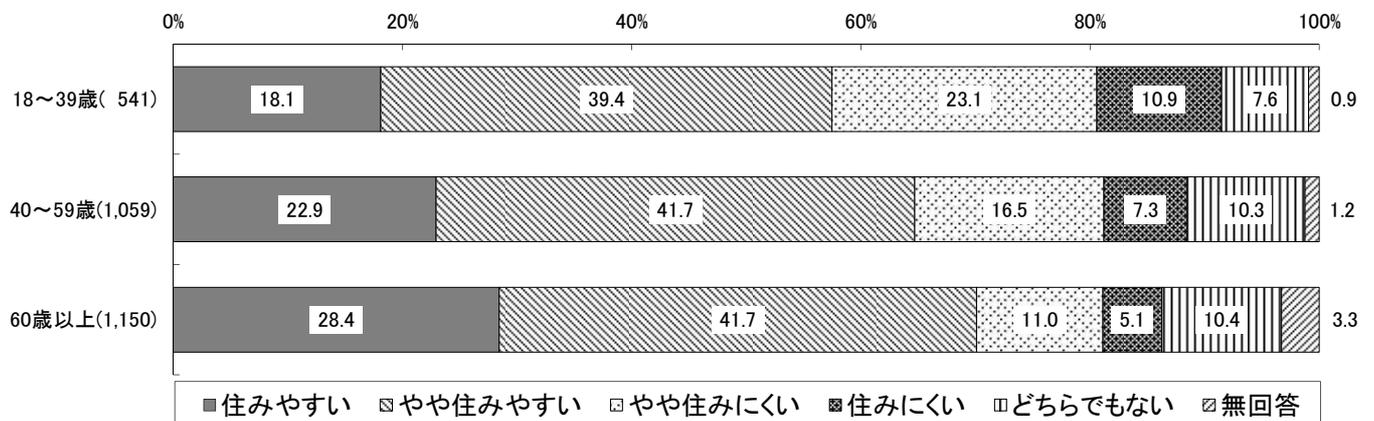
全体では、「住みやすい」と「やや住みやすい」を合わせた割合は65.5%で「住みにくい」と「やや住みにくい」を合わせた割合22.6%よりも高い。

年代別では、「住みやすい」と「やや住みやすい」を合わせた割合が最も高いのは、60歳以上の70.1%で、40～59歳の64.6%、18～39歳の57.5%と続いている。一方、「やや住みにくい」と「住みにくい」を合わせた割合が最も高いのは、18～39歳の34.0%となっている。

【全体】



【年代別】



7 子育て環境づくりについて

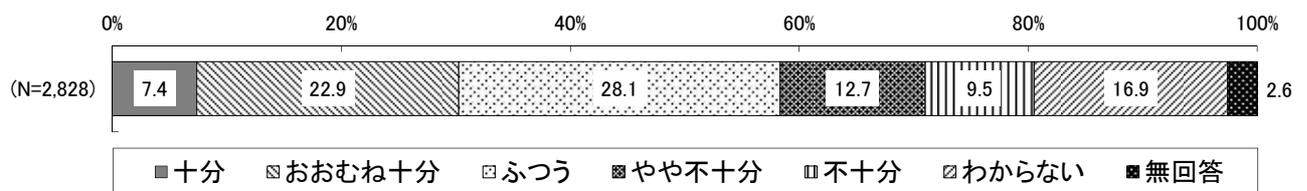
子育て家庭に対する県の経済的支援

① 県では、少子化対策として、子育て家庭に対して保育料や医療費の助成など様々な経済的支援を行っていますが、あなたは、これについてどう思いますか（○は1つ）。

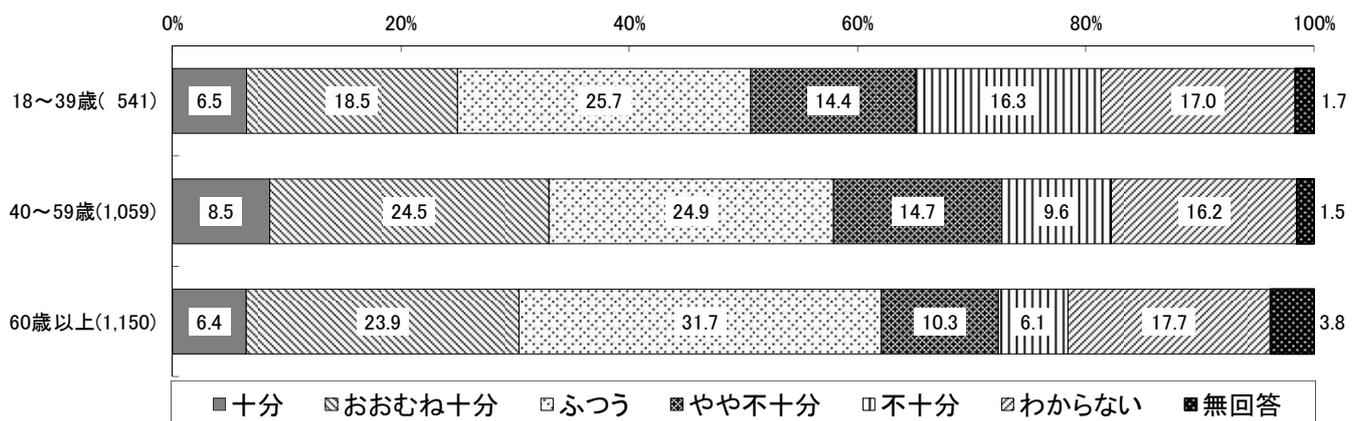
全体では、「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は30.3%、「ふつう」は28.1%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は22.2%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合せた割合（不満を感じていない人の割合）は58.4%であった。

年代別では、18～39歳は「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合が30.7%となり、「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合の25.0%を上回っている。その他の年代では、「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合が「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合を上回っている。

【全体】



【年代別】



8 高齢者の社会参加について

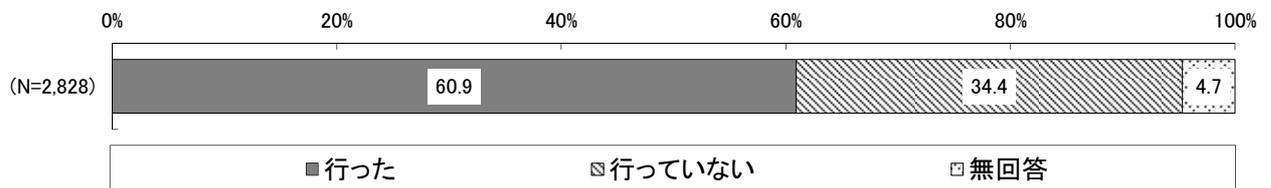
60歳以上の方の仕事や社会活動等への参加状況（平成30年度）

① 60歳以上の方にお聞きします。あなたは、平成30年度に、仕事や社会活動等（趣味や健康づくり、生涯学習を含む。）を行いましたか（どちらかに○）。

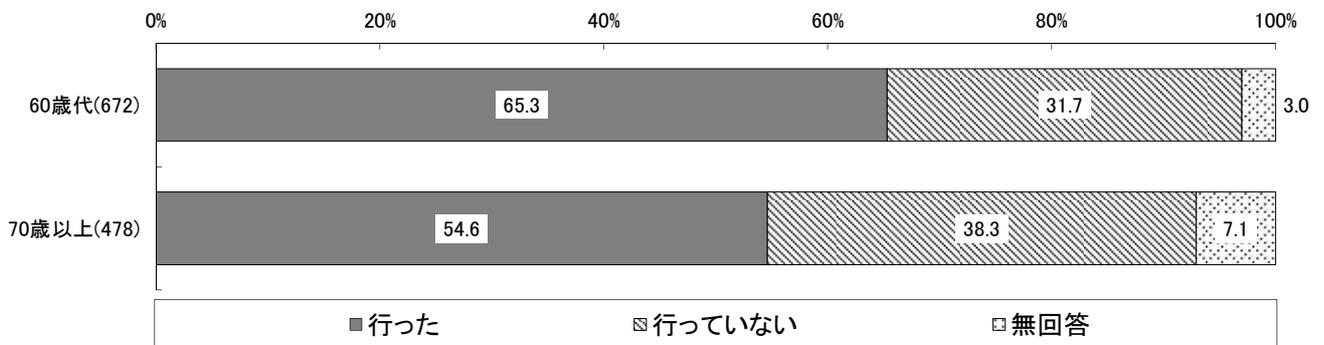
全体では、「行った」の割合は60.9%で、「行っていない」の割合は34.4%となっている。

年代別では、「行った」の割合は60歳代が65.3%であり70歳以上より高いが、70歳以上も仕事や社会活動等を行った割合は54.6%となっている。

【全体】



【年代別】



9 がん対策について

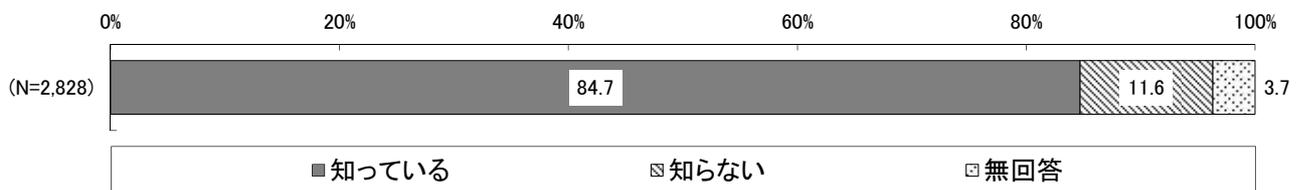
(1) 日本人のがん発症率に関する認知度

① あなたは、日本人の2人に1人はがんになることを知っていますか（どちらかに○）。

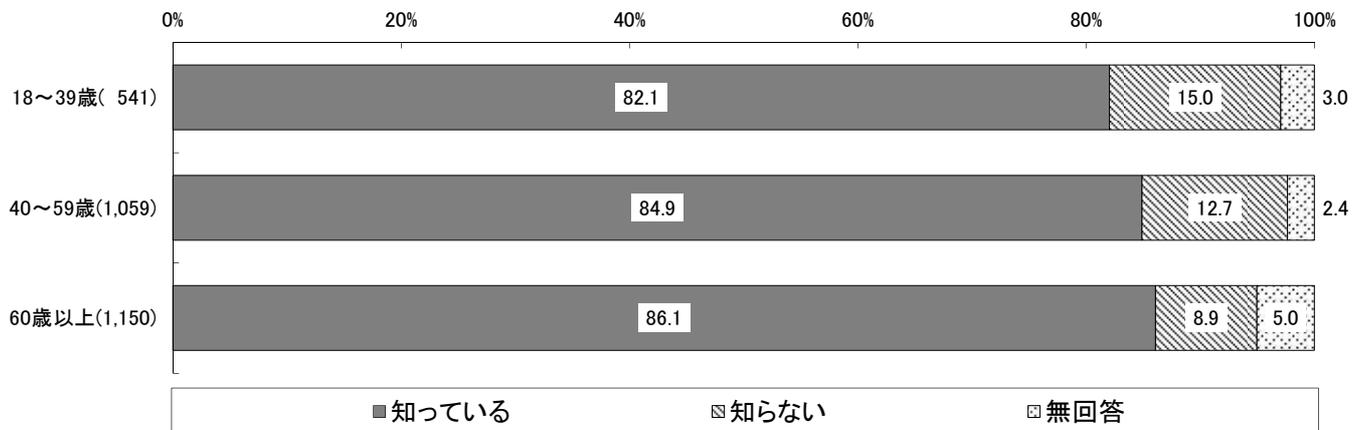
全体では、「知っている」の割合は84.7%で、「知らない」の割合は11.6%となっている。

年代別では、「知っている」の割合は、60歳以上が86.1%で最も高い。「知らない」の割合は18～39歳が15.0%で最も高い。

【全体】



【年代別】



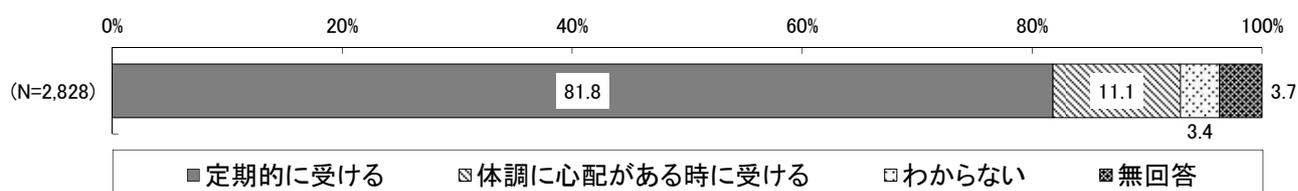
(2) がん検診の受診時期に対する考え方

② あなたは、がんを早期に発見するためにはがん検診をどのように受ければよいと思いますか
(○は1つ)。

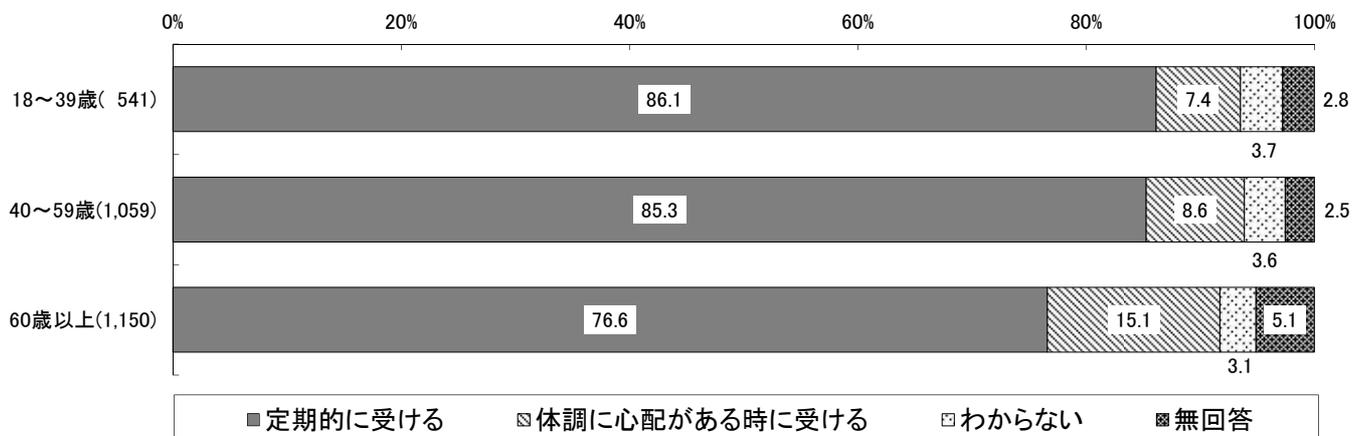
全体では、「定期的に受ける」の割合は81.8%で、「体調に心配がある時に受ける」の割合は11.1%である。

年代別では、「定期的に受ける」の割合は、18～39歳が86.1%で最も高く、次に40～59歳が85.3%である。最も低い60歳以上でも76.6%と7割を超える。

【全体】



【年代別】



10 環境保全活動について

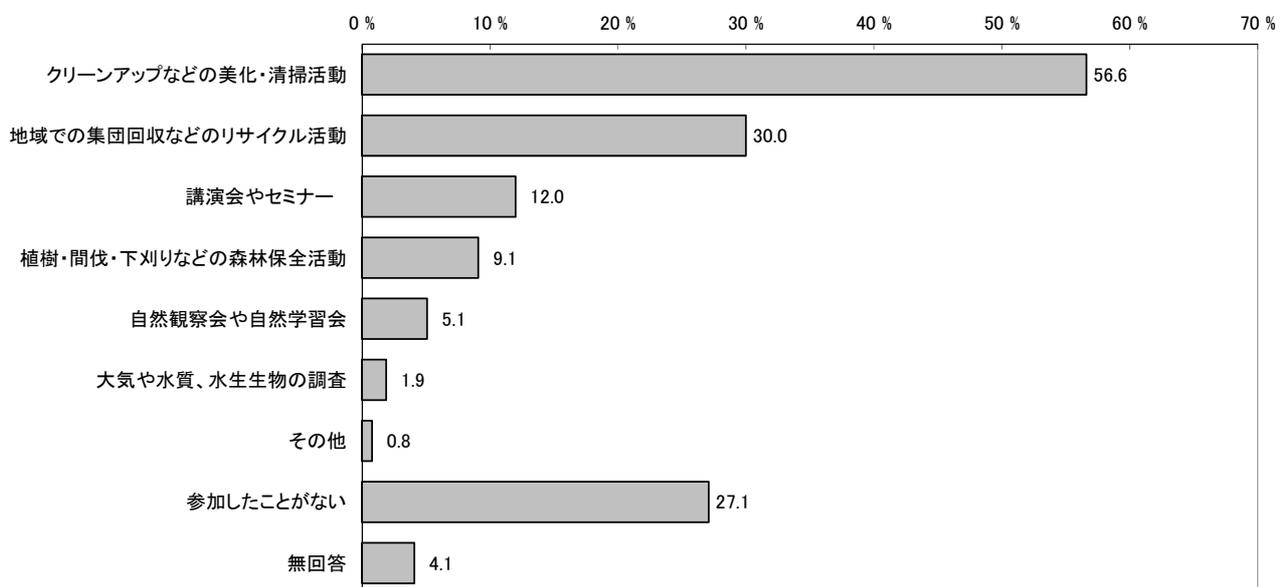
環境保全活動への参加

① あなたは、これまでどのような環境保全活動に参加したことがありますか（〇はいくつでも）。

全体では、「クリーンアップなどの美化・清掃活動」の割合が 56.6%で最も高く、「地域での集団回収などのリサイクル活動」が 30.0%、「参加したことがない」が 27.1%、「講演会やセミナー」が 12.0%と続いている。

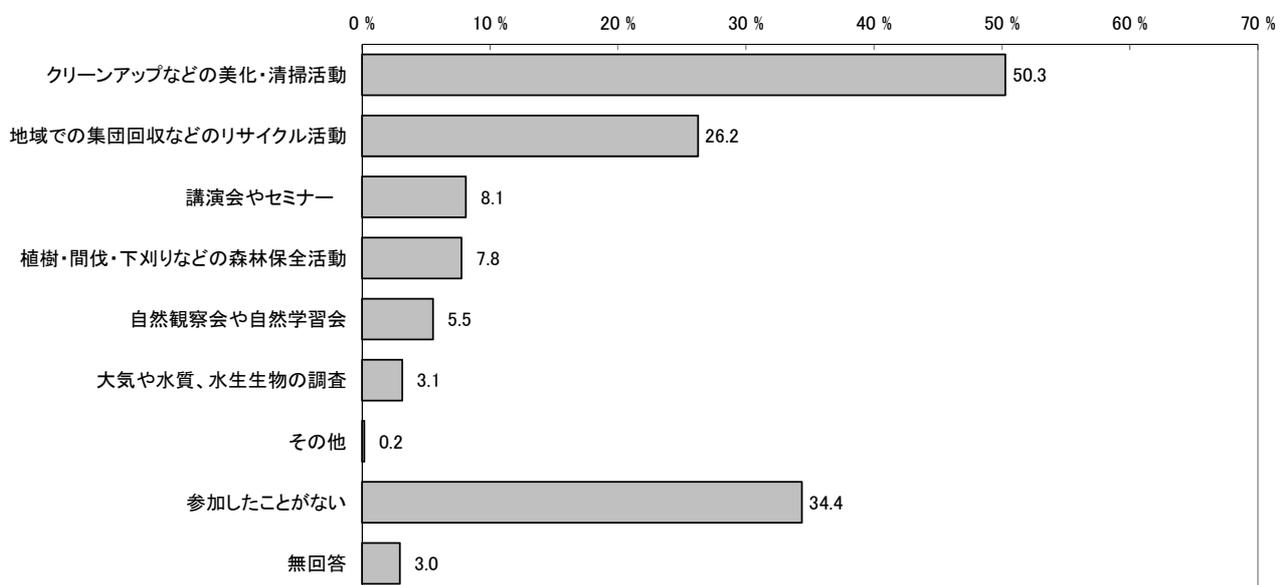
年代別では、全年代共通で「クリーンアップなどの美化・清掃活動」、「地域集団での集団回収などのリサイクル活動」が上位に入っている。また、年代が低くなるにつれて、「参加したことがない」の割合が高くなっている。

【全体】

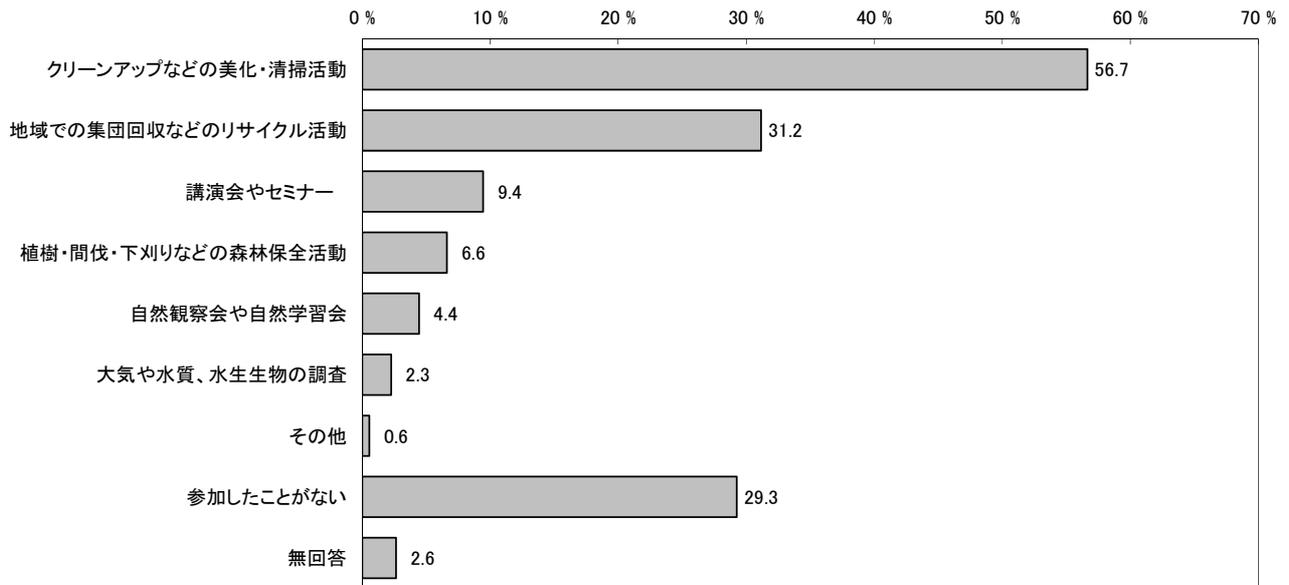


【年代別】

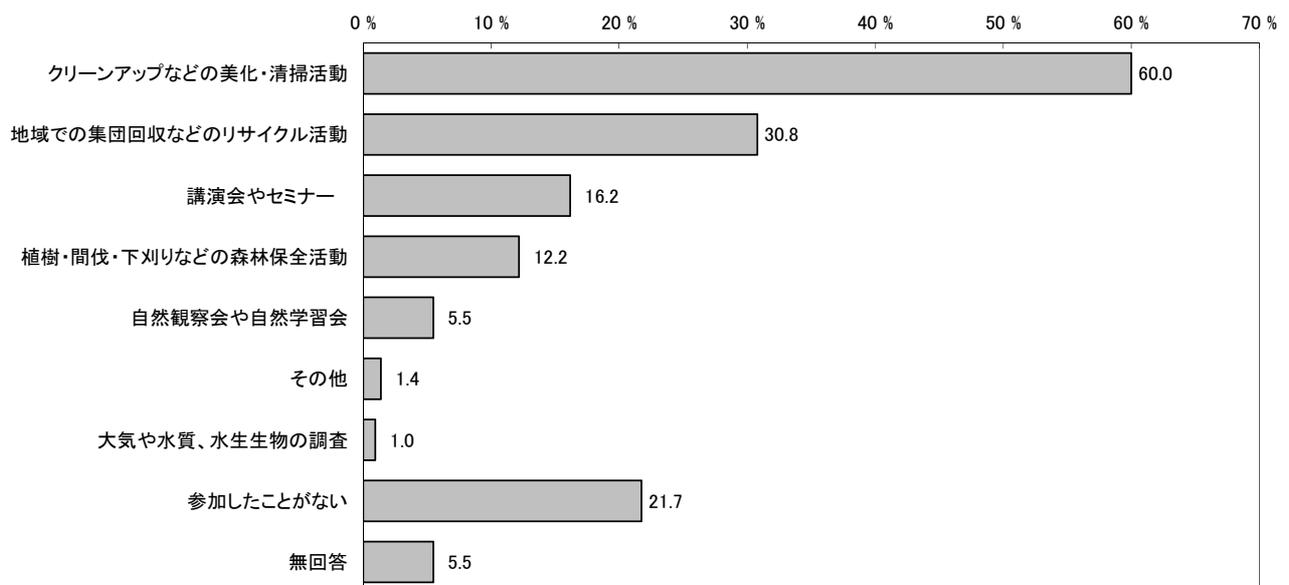
〔18～39 歳〕



[40～59 歳]



[60 歳以上]



11 地球温暖化対策について

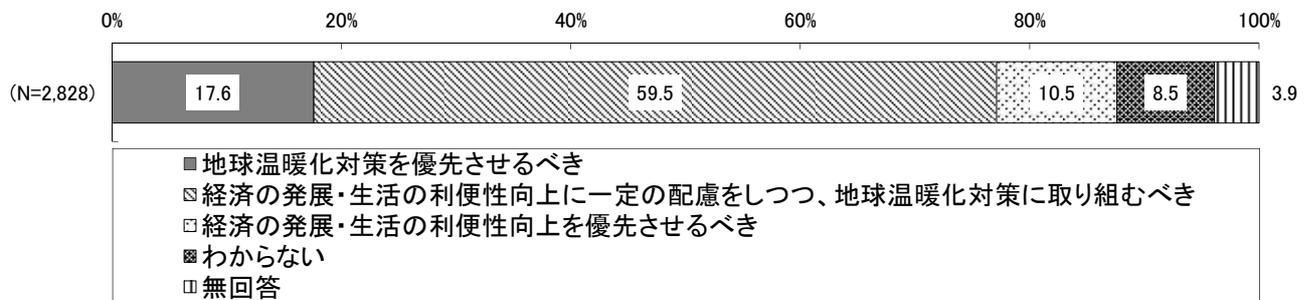
(1) 優先させるべき対策

① あなたは、「地球温暖化対策」と「経済の発展・生活の利便性向上」のどちらを優先させるべきだと思いますか（〇は1つ）。

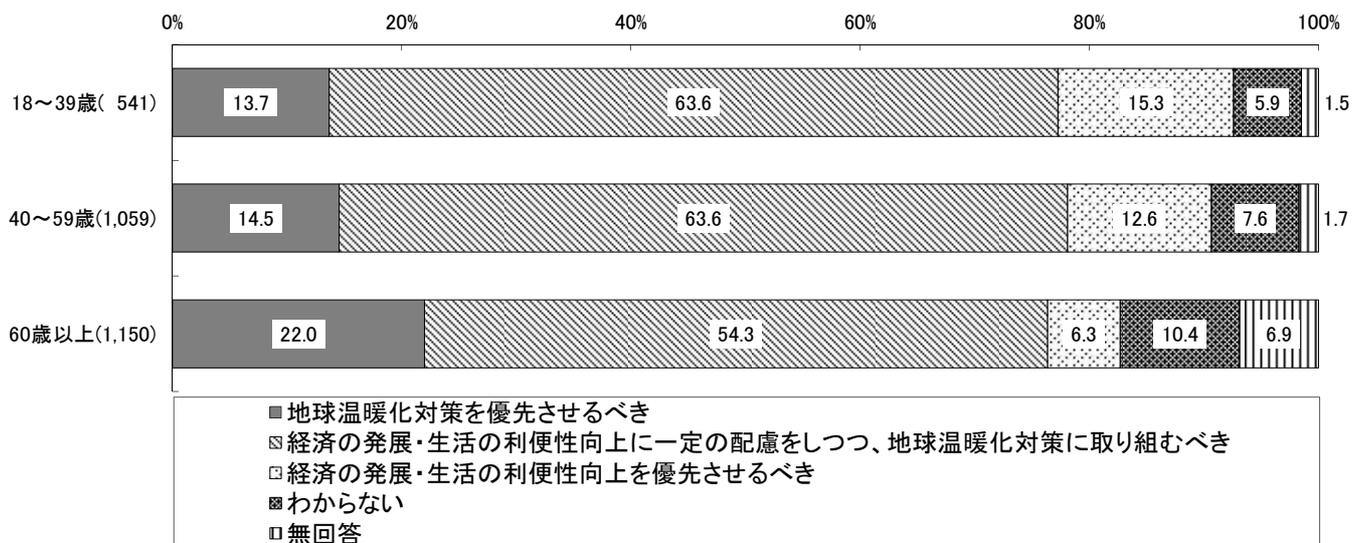
全体では、「経済の発展・生活の利便性向上に一定の配慮をしつつ、地球温暖化対策に取り組むべき」の割合が59.5%と最も高く、「経済の発展・生活の利便性向上を優先させるべき」を約50ポイント上回っている。

年代別では、「地球温暖化対策を優先させるべき」の割合は、60歳以上が他の年代より高く、「経済の発展・生活の利便性向上を優先させるべき」の割合は、18～39歳が他の年代より高い。

【全体】



【年代別】



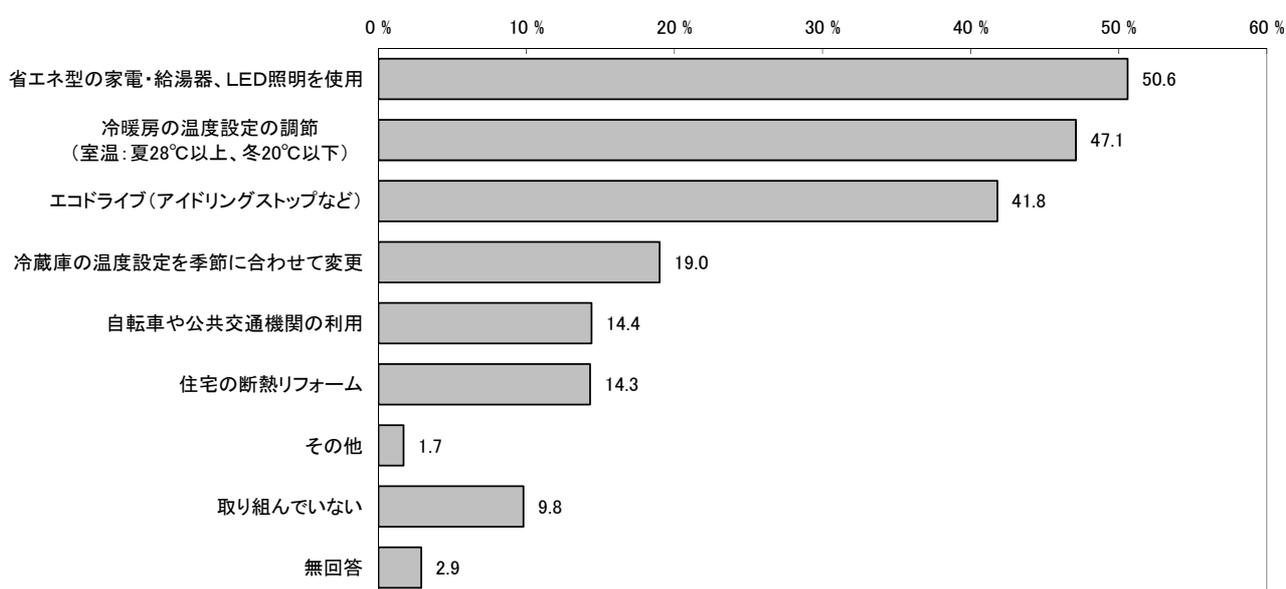
(2) 地球温暖化防止への取組

② あなたが、地球温暖化防止に関して取り組んでいる（予定を含む。）ことは何ですか（〇はいくつでも）。

全体では、「省エネ型の家電・給湯器、LED照明を使用」の割合が50.6%で最も高く、「冷暖房の温度設定の調節」が47.1%、「エコドライブ」が41.8%で続く。

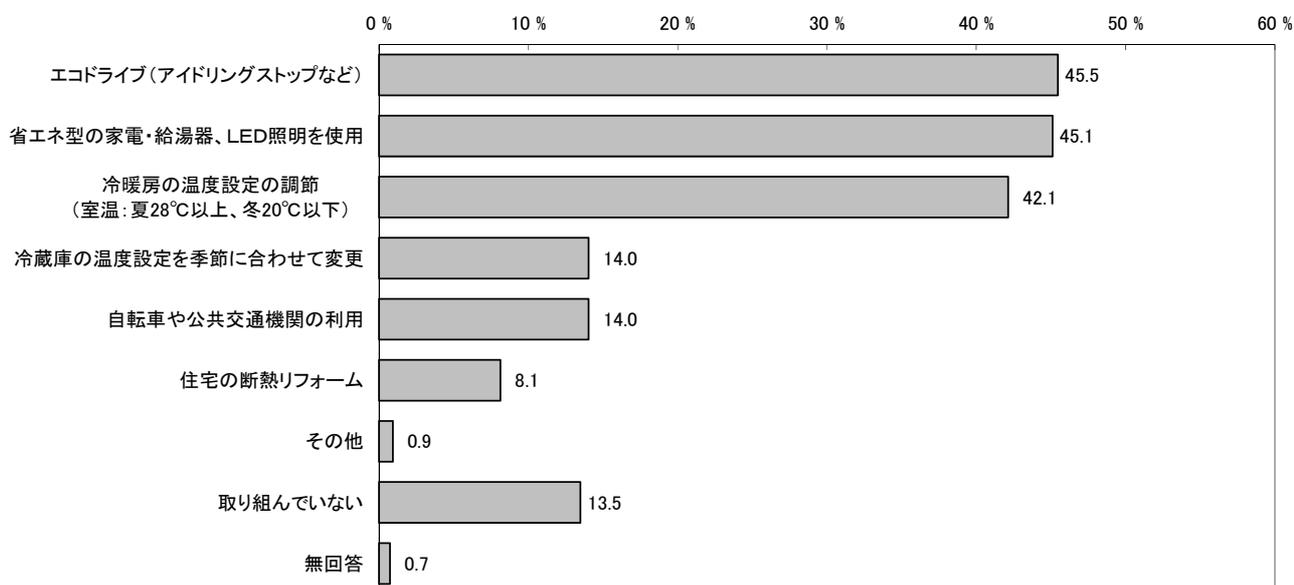
年代別では、全年代共通で「省エネ型の家電・給湯器、LED照明を使用」、「冷暖房の温度設定の調節」、「エコドライブ」が上位に入っている。なお、「エコドライブ」の割合は、18～39歳で45.5%、40～59歳で47.1%であるのに対し、60歳以上では35.3%となっている。

【全体】

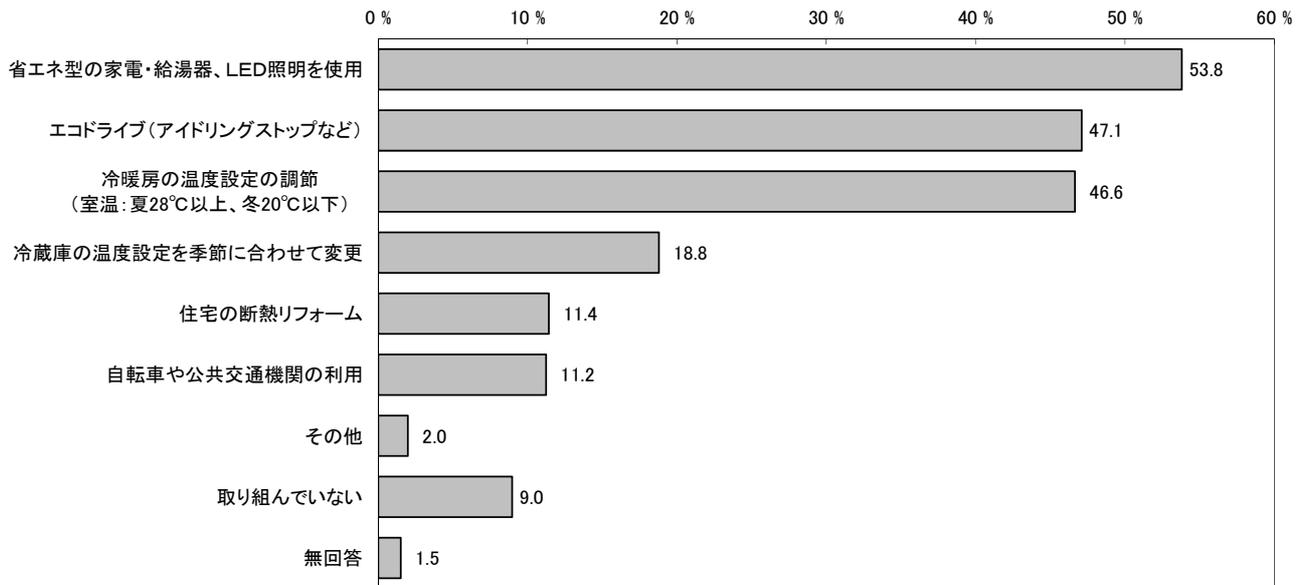


【年代別】

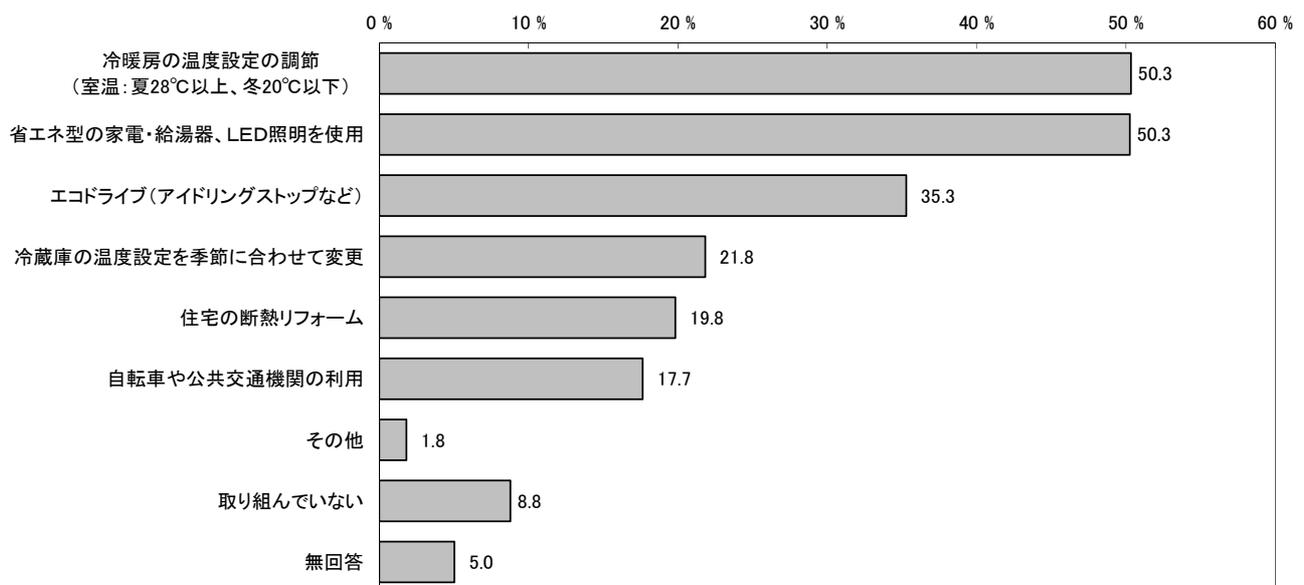
[18～39歳]



[40～59 歳]



[60 歳以上]



12 海岸漂着ごみ対策について

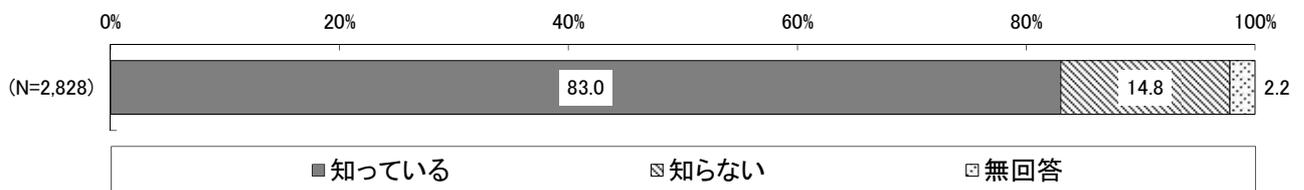
(1) 海岸漂着ごみ問題に関する認知度

- ① 秋田県の海岸には毎年のようにごみが漂着し、海岸を汚すなどの問題が発生していますが、あなたは、このことを知っていますか（○は1つ）。

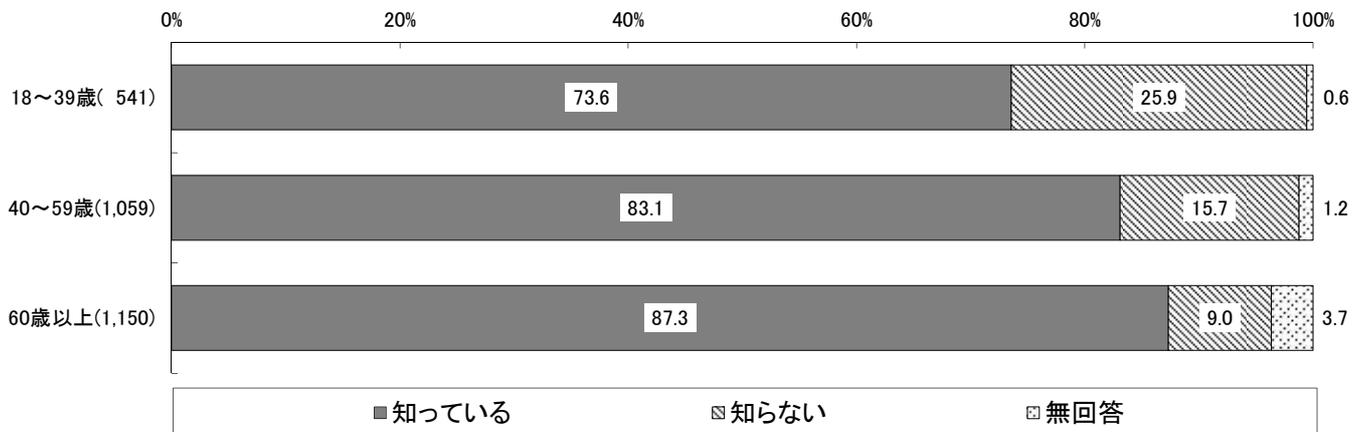
全体では、「知っている」の割合が83.0%であり、全体の8割を超える人が知っている。

年代別では、「知っている」の割合は、60歳以上が87.3%で最も高く、18～39歳が73.6%で最も低い。

【全体】



【年代別】

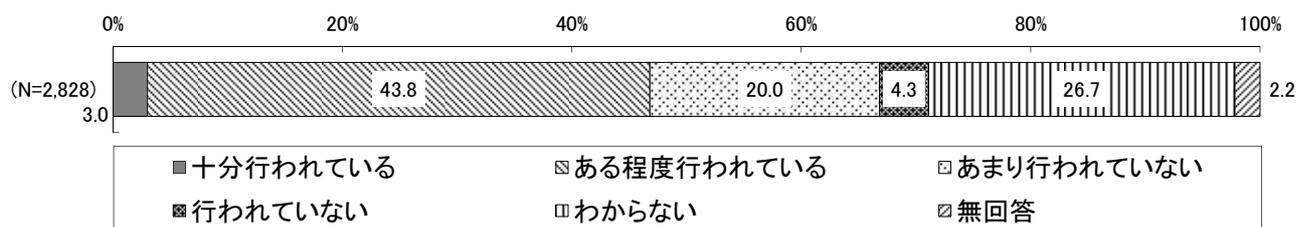


(2) 県などの取組の現状評価

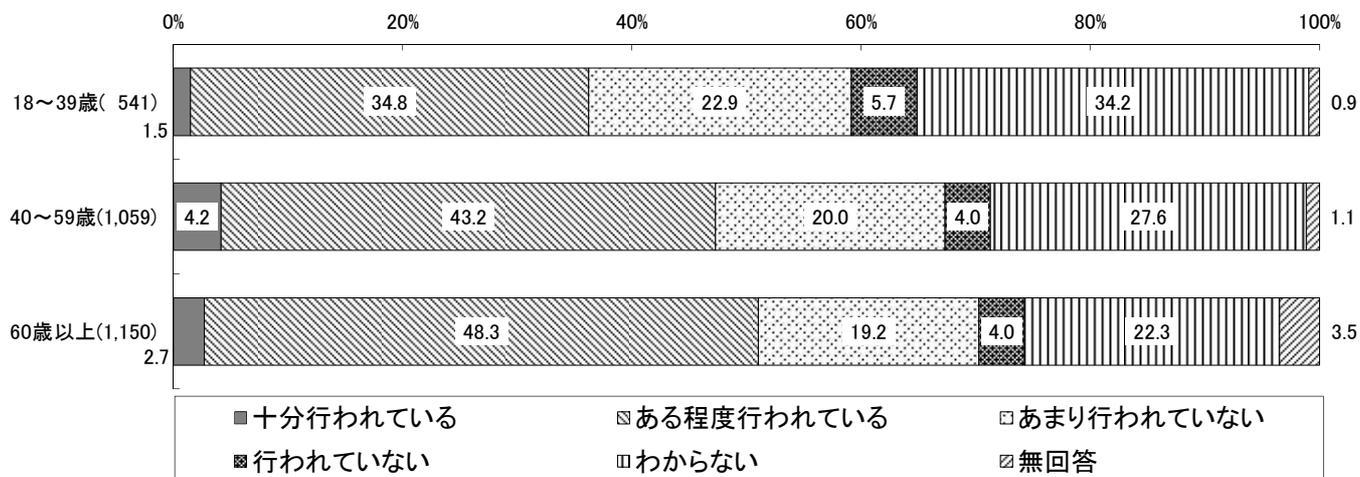
② この問題に対処するため、県などでは海岸や河川での清掃、発生抑制に関するイベントや広報を実施していますが、十分に行われていると思いますか（〇は1つ）。

全体では、「十分行われている」と「ある程度行われている」を合わせた割合は46.8%となっている。年代別では、「十分行われている」と「ある程度行われている」を合わせた割合は60歳以上が51.0%で最も高く、18～39歳が36.3%で最も低い。

【全体】



【年代別】



13 循環型社会の形成について

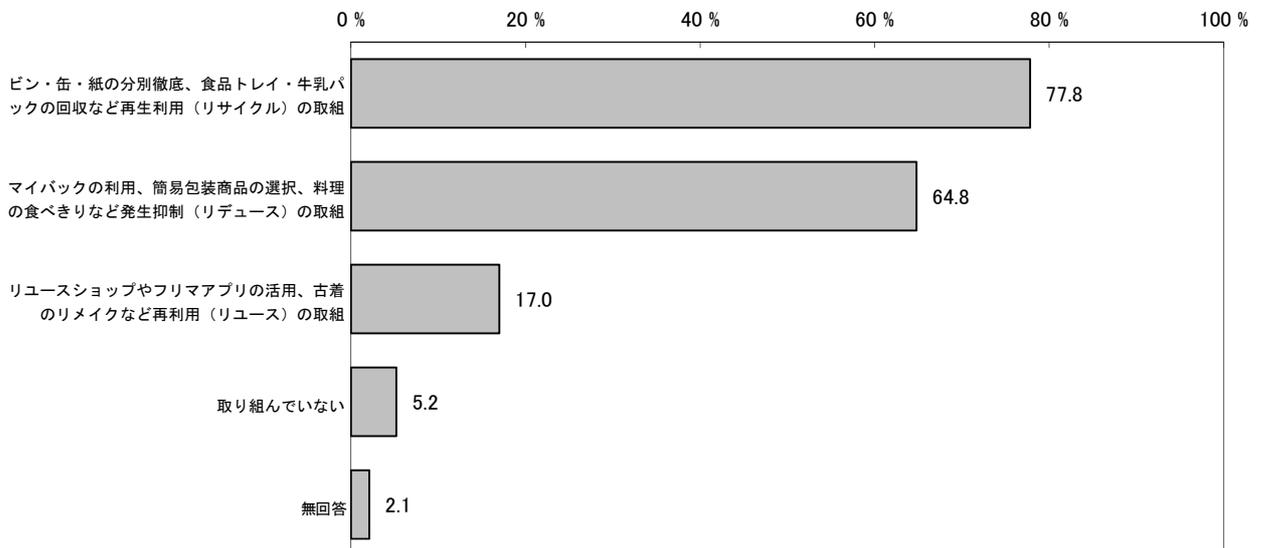
ごみを減らすための取組内容

① あなたは、ごみを減らすため、どのような活動に取り組んでいますか（〇はいくつでも）。

全体では、「ビン・缶・紙の分別徹底、食品トレイ・牛乳パックの回収など再生利用の取組」の割合が77.8%と最も高く、「マイバックの利用、簡易包装商品の選択、料理の食べきりなど発生抑制の取組」の64.8%と続いている。「リユースショップやフリマアプリの活用、古着のリメイクなど再利用の取組」は17.0%である。

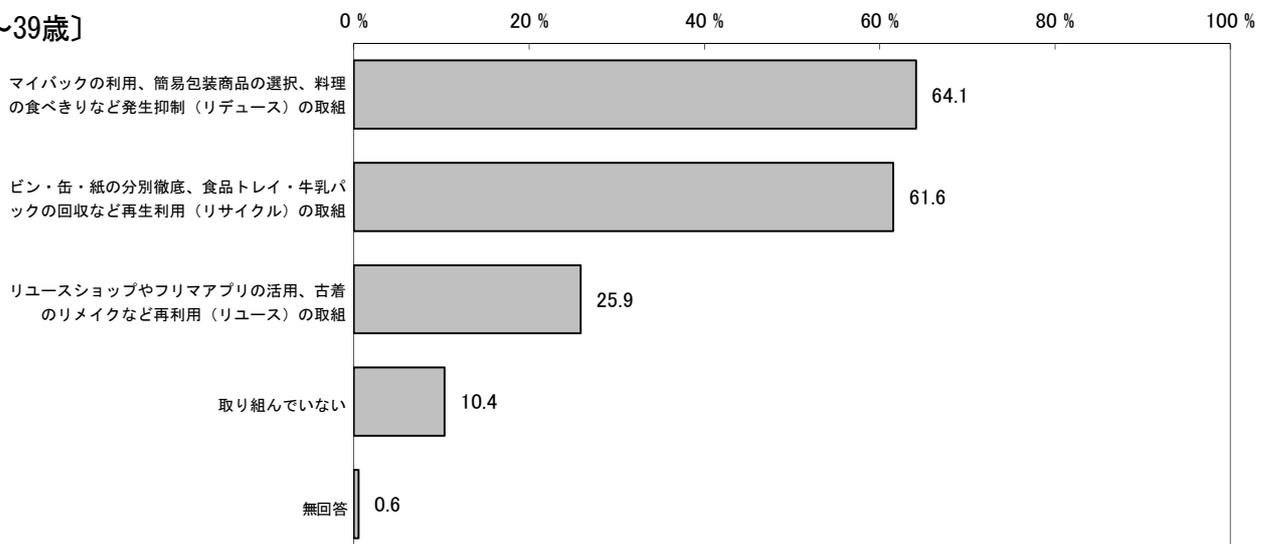
年代別では、18～39歳代は「マイバックの利用、簡易包装商品の選択、料理の食べきりなど発生抑制の取組」の割合が最も高く、他の年代と異なる傾向を示している。

【全体】

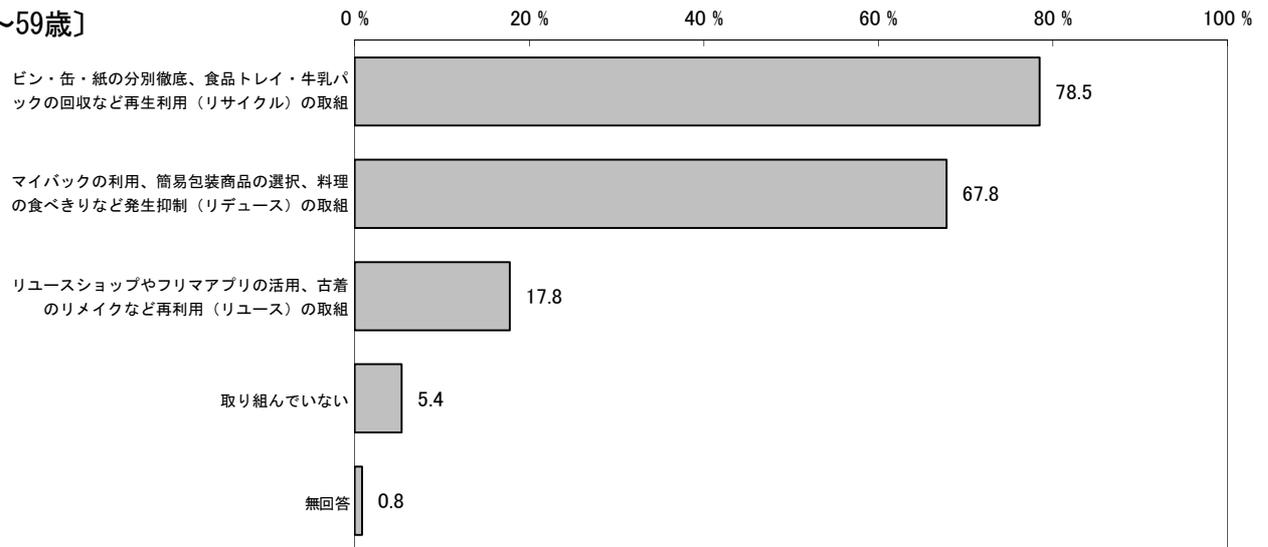


【年代別】

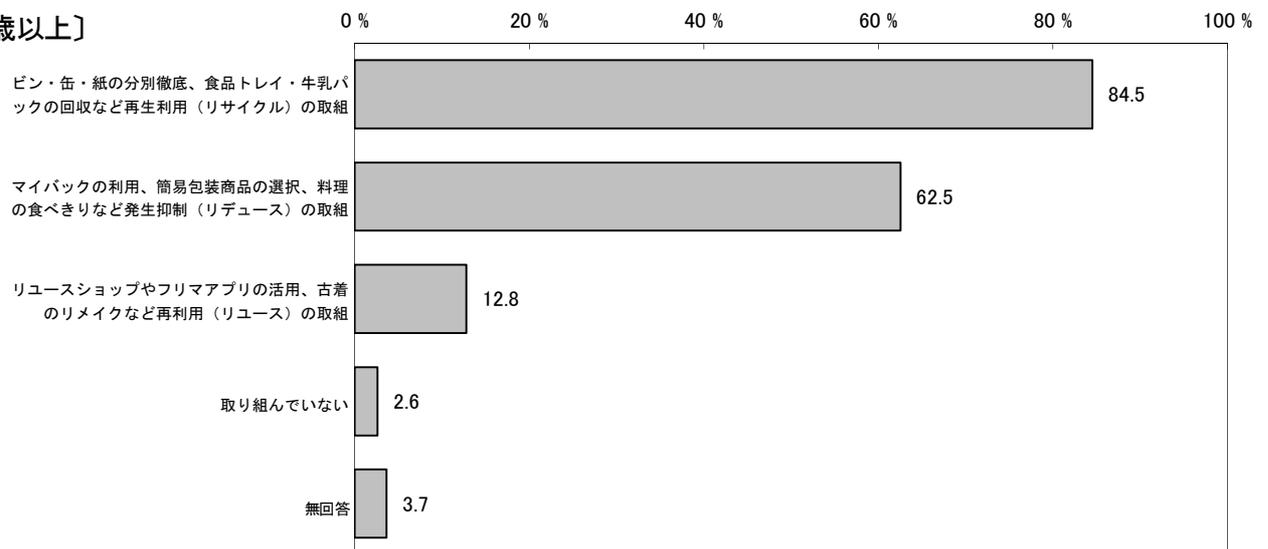
〔18～39歳〕



[40～59歳]



[60歳以上]



第4章 県政への自由意見について

県に力を入れて欲しいことや、県が取り組むべきだと思うことについて、何でもお気軽にお聞かせください。(問4)

【集計の方法】

回答は、内容からA～Nの14項目に分類した。同一の回答者が複数分野にまたがる意見を記入している場合には、項目を分けて別意見として扱っている。

1 自由意見の項目別件数

項番	項 目	件数
A	少子化対策・子育て支援・結婚支援に関すること	103
B	移住・定住に関すること	37
C	女性・若者の活躍支援に関すること	25
D	地域社会の維持・活性化に関すること	45
E	商工業・雇用・労働に関すること	176
F	農林水産業に関すること	39
G	観光に関すること	36
H	文化・スポーツに関すること	20
I	道路・交通ネットワークに関すること	82
J	健康・医療・福祉に関すること	83
K	教育に関すること	35
L	県土の保全・防災に関すること	4
M	身近な生活・環境に関すること	50
N	県政全般に対する意見・その他	282
	合 計	1,017

2 主な自由意見

722 人から、1,017 件の意見があった。一部を抜粋して掲載する。誤字等は校正しているため、掲載文は回答の原文とは異なる場合がある。

A. 少子化対策・子育て支援・結婚支援に関すること

- 秋田県の一番の問題は少子化と思われます。高齢者ばかり増え、人口も急激に減少している現状では有効な政策はないのかもしれませんが、おもいきった大胆な今までと違うことを実行しないと解決には向かわないと思う。若者が結婚して安心して子どもを育てていける環境を整備していくべきだと思う。(男性／40歳代／秋田地域)
- 少子化対策、保育料や医療費の助成ではなく、子どもたちへの教育と、知恵を出しあって女性たちが子どもを産みたいと考えるような仕組みをつくってほしい。人口が増えると多くの問題が解決するのではないのでしょうか。(性別不明／年代不明／居住地域不明)
- 人口が減少しているのですから子どもを産める環境をもっと充実させるべきです。私の家では里帰り出産で帰省中の娘と孫がいますが、私も主人も働いているので、地域で使える施設やサービスの少なさを実感しました。子どもを産んでほしいと沢山の人が願っているのであれば、サポートを充実したものにしてほしいです。赤ちゃんかわいいですよ。(女性／50歳代／北秋田地域)
- 出産後、仕事をする時に保育園が決まらず大変でした。妊娠し、出産した後、社会復帰するまでの道すがらきちんと整っていないと、少子化はどんどん進んでしまうような気がしました。(女性／40歳代／仙北地域)
- 待機児童を減らすための保育施設の増加をしてほしい。妊娠後退職した場合の生活援助や、マタハラを受けた場合に気軽に相談できる所がほしい。(女性／20歳代／北秋田地域)
- 子どもの施設を充実させてほしい。休日など遊べる公園がない。水あそびができたり遊具がある公園は県内に数カ所のみ。自宅周辺には全くないので、もう少し遊べる場所を整備してほしい。(女性／30歳代／仙北地域)
- 子ども（幼児）が室内で遊べる施設を増やしてほしい。(女性／40歳代／仙北地域)
- 安心して子育てできる社会（秋田県）になることを望む。(男性／70歳以上／由利地域)
- 魅力ある企業の誘致・少子化対策のために子育て支援も大事だが、その前に、結婚支援や男女の出会いの場を設けるイベントなどあればよい。あきた結婚支援センターがあることを、このアンケートの資料で初めて知った。もっと大々的にアピールしてはどうか…。(女性／50歳代／秋田地域)

- 少子高齢化が日本一進んでいる現状において、不妊治療に対する施策がまだまだ不十分だと思います。力を入れている病院も少ないです。また、治療に対する社会の理解も足りないと感じます。保険外治療のため、治療費用も高額ですし、また時間もかかります。国の施策に全く期待できない以上、県に期待したい夫婦は沢山いると思います。以前読んだ専門誌では、不妊治療に力を入れている病院一覧に秋田県の病院は「0」でした。晩婚化が進んでいる現在「欲しくても作れない」「産みたくても産めない」環境にいる家庭にももっと目を向け、理解を深めてもらい、不妊治療や出産、養育に対する支援の拡充を切にお願いしたいです。(女性／40歳代／雄勝地域)

B. 移住・定住に関すること

- 地元に残ろうとする若者の増加促進。(女性／10歳代／雄勝地域)
- 秋田県の人口減少についてニュースを見ていると毎年心配になります。増加は難しいかもしれませんが、減少を少しでも緩やかにできるように県外への流出を防いでほしいです。(男性／30歳代／秋田地域)
- Aターンについて、結婚をしている場合の住まいの保障や様々な相談等に取り組んでいただきたい。戻っては来たが結局他県へ移ったという話を多く聞いております。アフターケアをしっかりとお願いしたい。(女性／60歳代／秋田地域)
- 秋田県は少子高齢化であることから人材確保、人口流出減、移住増に向けて少しでも成果を上げる取組をしてほしい。県も市町村と一緒に地域課題に取り組むべきであると思います。(男性／40歳代／由利地域)
- 秋田に定住しなくても、交流や流動する人口を増やすことも地域の活性化につながるのではと思います。(男性／60歳代／仙北地域)

C. 女性・若者の活躍支援に関すること

- 子どもがいる女性が働きやすいようになってほしい。(女性／40歳代／仙北地域)
- 若者が住みやすいような、暮らしやすいような環境を作る。秋田をもっと明るい話題で盛り上げてもらいたい。(女性／30歳代／由利地域)
- 小学生(子ども)の人数がどんどん減って、どんどん学校が合併されていっています。まわりを見ると高齢者が多い。やっぱり若い人たちが住みたい県を作っていくかといけないと思います。(男性／30歳代／雄勝地域)

- 大学が少ないため大学に進学したい学生は県外に行くしかありません。県外に出た学生もバイトの時給とか遊ぶ地の多さを知ると秋田にあまり魅力を感じなくなってしまうと思います。若者が住みやすく、働きやすい環境づくりに取り組んでほしいと思います。（女性／20歳代／秋田地域）
- 若者にとって何が魅力的な生活なのか、アンケートをとるなりしてほしい。特に高校3年生。大学4年生。（男性／20歳代／仙北地域）

D. 地域社会の維持・活性化に関すること

- 高齢化、少子化が年々進むにつれて生活に不安があり、地域活動にも限りがあるので心配に思っている。住宅を見ても一人暮らしの方が多く無人化になり淋しくなっている。行政だけでは対処しきれない問題ではないかと思われれます。（男性／40歳代／由利地域）
- 高齢者のため、移動販売の導入、促進をしてほしい。（女性／50歳代／北秋田地域）
- 高齢者の独居が多い。血縁者がそばにいない、誰もいない、ということが多くなっている。対策を考えてほしい。（女性／40歳代／北秋田地域）
- 秋田県は秋田市にのみ様々なものが集中しており、地方はどんどん人口も減っていております。そのことに老後の不安も感じています。地方の活性化に力を入れてくださると、大変ありがたいです。（女性／50歳代／山本地域）
- 移住政策より、まずは魅力的なまちづくり。（男性／40歳代／秋田地域）

E. 商工業・雇用・労働に関すること

- 若い人達が働ける企業が少ないと思うので、もっと魅力的な働く場を確保してほしい。（女性／50歳代／仙北地域）
- 高校生と話すと、地元で働きたいと話すが、職場がないと、県外へ出ることが多い。若い人が働ける場を増やしてほしい。（女性／40歳代／北秋田地域）
- 若い人が就職活動をする中で、県外へ出ようとする姿をたくさん見てきました。秋田に魅力がないからだと思います。県外に出ていった若い人が、やっぱり秋田が一番住みやすいと戻ってきた話もよく聞きます。最初から県内就職を望むような、魅力的な職場が増えることを願います。（女性／50歳代／秋田地域）
- 息子が県外で働いています。県内で働けるような事業所があれば戻ってきたいと言っています。もう

少し力を入れて取り組んでほしいと思います。（男性／40歳代／仙北地域）

- IT企業などより高度な産業の誘致。私の息子もそうだが、若い人が都会で身につけた技術、知識、経験を生かせる企業が増えると秋田にリターンできる。官民で力をあわせてほしい。（女性／60歳代／秋田地域）
- 少子高齢化が全国問題となっている今日ですが、その少ない若い働き手をなんとか都会や県外に流出するのを止める手段として、やはり働く場の確保が重要であると思います。県内地域の特色などをPRして、企業を誘致していただき、県内の工業団地・造成地の活用など自治体と一緒に頑張って積極的に押し進めてほしいと願っております。相手のあることなのでなかなかむずかしいことと重々察しておりますが、未来の秋田県のためによりしくお願いします。また、県内企業さんにも自社のPRを大いに発信していただき、会社説明会など積極的に高校や大学に足を運んでいただいて人材の確保につなげてもらいたいと思います。（男性／70歳以上／雄勝地域）
- 企業誘致に地域差があると感じている。（女性／70歳以上／山本地域）
- 若い世代の給料アップ。（男性／20歳代／平鹿地域）
- 最低賃金の向上。（男性／50歳代／秋田地域）
- 秋田の時給、給与が安すぎる。若者が秋田を離れるのもそこが大きいのではないかと。（女性／40歳代／秋田地域）
- 全体的に賃金が安すぎると思う。働き方の多様性が全くと言っていいほど低い。少子高齢化というものの、このような状況で結婚や出産はとて厳しく前向きには考えられない。（女性／20歳代／山本地域）
- 若い方と年配の方には色々な取組があるが、その間の世代はおろそかにされているように思います。一番働いている世代にも、就職しやすくしたり（再雇用が難しいので）、休日を取りやすくしたり等、何かしらあってもよいのでは？（女性／40歳代／北秋田地域）
- 若者だけでなく中高年も転職や新しい職にチャレンジできる何かがほしい。ひいてはそれが自殺予防にもなり、結婚、出産、新しい子ども達の為になると思う。（男性／40歳代／鹿角地域）
- 高齢者、身体の不自由な人、病気の人、介護をしている人など、毎日や長い時間働くのは大変でも、短時間や週1とか週2～3など、少しだけだったら無理なく働けるし働きたいという人は、たくさんいると思います。こういった人たちの労働力を、海外や県外から労働力を入れる動きと並行して生かしていく方法を考えてみてもらいたいです。（女性／50歳代／秋田地域）
- 産業振興については、全ての面に欲張ってまんべんなく予算を使うのではなく、全国、あるいは世界

でトップクラスになれるくらいの産業を1つでもいいからつくってほしい。(男性/30歳代/由利地域)

F. 農林水産業に関すること

- 農水産に関しては、作り手が高齢となり、今後がとても心配しております。全国的に同じ問題をかかえていることは承知しておりますが、意欲のある若い作り手を育てていただきたいと思います。(女性/60歳代/鹿角地域)
- 農業に関してですが、米作りだけの農業から転作をもっともっと進めるべきだと思います。若い人がもっと農業や林業に従事してほしいです。(男性/50歳代/北秋田地域)
- 米偏重からの脱却(果樹・園芸生産の支援)(男性/30歳代/秋田地域)
- 林業の再生に力を注いでほしい。特に秋田スギの販売。(男性/60歳代/北秋田地域)
- このまま農業従事者がいなくなってしまうたら、秋田県はどうなるのでしょうか。農業、林業、水産業を継続していくことが、この県の生き残っていける道だと考えます。今後、AIの活用、一次産業を研究できるような大学の誘致。新しい農業(一次産業全て)の基盤を作れるよう、未来の「食」を率先して守っていかなければいけないと思います。それができる県は、そう多くはないと思うのです。(女性/40歳代/秋田地域)

G. 観光に関すること

- 県内外への観光のPR活動にもっと力を入れて観光客を呼び込むことが秋田県に潤いをもたらすと思います。他の県の方々によく言われます。こんなに良い所なのに、PRが少ないから秋田のことを知らない人がたくさんいると。(女性/60歳代/仙北地域)
- 観光資源や特産品は多くあると思うが、それをうまく利用しきれていないと思う。例えば、讃岐うどんを食べるために香川県を訪れる人は多いが、稲庭うどんを食べるために秋田県を訪れる人はあまりいないように思う。また、秋田犬も注目されているが、実際、秋田犬のブリーダーは県外の方が多いうように思う。県が率先して、秋田犬のブリーダーを増やす施策を示すべきではないか。秋田犬のふれあい処などの設置をしてはいるが中途半端。もっと県外から、わざわざそのために来訪するような施設が必要。そういったPR活動が弱いと思われる。観光資源や特産品を生かしきれていない。(男性/40歳代/秋田地域)
- 県外から帰省した友人と遊ぶ時、連れて行ける程楽しい所がない。“角館の桜”や“大曲の花火”など特定の時期でなければ観光できるスポットも少ないように思う。(女性/20歳代/由利地域)

- 観光地から他の観光地へのアクセスが遠いので、（例：秋田中央から県南へという1時間以上かかってしまう）など、移動の間飽きさせない工夫が必要。その市町村だけの観光を考えるのではなく、県北、中央、県南くらいの広い地域でまとまって大きなイベントができたと思う。冬になると雪が降るので、交通の便も悪くなり、皆余計に閉じこもりがちになるが、雪を逆手にとったイベントがほしい。例えば、他県から来た私にとっては除雪機、とっても珍しいので、除雪機のイベントがあってもいいと思う。（女性／40歳代／仙北地域）
- 外国人観光客を増やす対策。（男性／40歳代／北秋田地域）

H. 文化・スポーツに関すること

- 文化、芸術に若い頃から触れる機会を作ってほしい。（女性／50歳代／秋田地域）
- プロスポーツで、ノーザンハピネッツやノーザンブレッツのような、市民も応援しやすい組織ができ、とても喜ばしいことです。老いた人にも、成人、子どもに対しても、夢と希望を心に、胸に活力を与えてくれています。このような取組について、“東京オリンピック”もすぐそこにある今、県民皆で喜びを、希望を分け合って、持続、成長していければと思います。県の方でもよい環境で行なえるよう応援して下さい。（女性／60歳代／平鹿地域）
- 秋田は四方を海山に囲まれて陸路、鉄道の便が悪い環境にあるが、それを逆手にとって、なかなか来づらい所をアピールする方法もあるかと思います。ただし、県外から注目を浴びなければ、そもそも来る人もいないと思うので、イベントであったり、文化施設、自然景観の整備、IT文化、スポーツ文化、ポップカルチャー面の充実を図り、高齢人口県（伝統）と若者文化のバランスがとれた環境に取り組むやり方もあると考えています。（男性／50歳代／仙北地域）
- 男鹿フェスがあるから県外には行かずに秋田に就職するという若者がいるそうです。ロックといえば秋田、ぐらいにロックの聖地になればいいなあと思います。高齢者も障害のある方も一緒に音楽フェスを楽しめたら最高です。スポーツも大切ですが音楽イベントが増えたら嬉しいです。（女性／40歳代／秋田地域）
- スポーツに強い県になってほしい。マイナー競技にあえて特化して日本一、世界一の選手を育成してほしい。（男性／40歳代／秋田地域）

I. 道路・交通ネットワークに関すること

- 交通の便をもう少しよくして色々な分野が発展できるようにできないものかと思う。イベントが行なわれても移動を思うとやめようかなとか、学校を選ぶ時も、そんなに時間がかかるのなら都会の方がいいのではとか考えてしまいます。（女性／50歳代／仙北地域）

- 県民の住み心地について、やはり電車の頻度に問題があると考えます。私は普段奥羽本線を利用していますが、学校やバイト後の駅での電車待ち時間がとても長く、嫌になってしまいます。現在秋田県は人口の減少に困っているといった状況であると考えています。その要因の一つは、公共交通機関が活発でないことが挙げられると考えます。秋田での労働人口を増やそうにも、そもそも通勤に不便があるのでは若い人材は離れてしまうのではないのでしょうか。(男性／10歳代／仙北地域)
- 高速道路の整備、新幹線の整備を早急に取り組むべき。東京～大阪間が新幹線で3時間で行ける時代に、3時間30分かかる秋田にわざわざ来ようとは思わない。(男性／30歳代／秋田地域)
- バス路線の確保。遠方、学校の近くにはもっと本数がなければ。(女性／40歳代／秋田地域)
- 交通網の発展、整備。(男性／20歳代／山本地域)
- 交通整備もしっかり行ってほしい。道が悪い所が多いので道路を直して行ってほしい。(女性／20歳代／秋田地域)
- 秋田県の道路事情は、他県と比べてももっとも遅れていると思います。新しい道路は急いで作らなくても現在ある道路を整備することで、今の車社会に対応することで物流が増え、観光客も自ずと増えてくるのでは？また休憩施設の道の駅(トイレ)なんかも整備することで人が集まるのではないかと思います。(男性／60歳代／北秋田地域)
- 高齢者が免許返納しても、交通手段に不便しないように取り組んでほしい。乗り合いのバスを多くするなど、定額で乗り放題のバスやタクシーを出すなど。(女性／20歳代／秋田地域)

J. 健康・医療・福祉に関すること

- 特定健診などもっと多く検査が受けられる病院をつくってもらいたい。(女性／40歳代／秋田地域)
- 介護施設の利用時に思ったことですが、身体が不自由(多少あっても)な方にも、施設での手伝いをさせてくれば、認知症の進み方が違うのではと思いました。(タオルをたたむとか)(女性／50歳代／秋田地域)
- どこに暮らしていても、医療が公平に受けられる体制を保ってほしい。健康があつてこそその生活であるため。(女性／40歳代／由利地域)
- 今後は老人が増えて行くことから、一層の福祉の充実が求められると思うので力を入れていただきたい。(男性／60歳代／北秋田地域)

- ひきこもりの人に対する取組。友達の子どもが、ひきこもっている。同じ親として、とても考えてしまう。（女性／50歳代／秋田地域）
- 一人で悩みを抱えたまま自殺してしまう方のことを思うと、ニュースや記事を見るたびに苦しい。誰かに話せたら、話してみる勇気があれば、話せる場所があれば。そういう場所も、話を聞いてくれるところもあるのに、それを知らずになのか、それもできずになのか、亡くなる方がいる。予防対策がもっと進み、苦しんでいる方を救ってほしい。（女性／40歳代／秋田地域）
- 自殺の無い、起きないように力を入れてもらいたい。（男性／70歳以上／鹿角地域）
- 高齢者の孤立の話もよく身近に聞くので、地域や施設等と連携のとれる体制などの向上も必要と考える。（女性／40歳代／秋田地域）

K. 教育に関すること

- 子どもの教育は、社会的に分け隔てなく育てる環境を整備して、教員が意欲的に教育活動に取り組める教育現場の形成に勤めていただきたい。（男性／70歳以上／秋田地域）
- 高齢者だけでなく、子どもに優しい県にしてもらいたいと思います。全国トップクラスの成績は素晴らしいですが、毎日の宿題が多すぎてかわいそうです。秋田県の家庭学習ノートはたしかに実になるものだと思いますが、そこにとらわれることなく、効率の良い勉強方法をどんどん取り入れていくべきではないでしょうか？タブレットの導入など。（女性／30歳代／由利地域）
- 少子化が進む一方で、これからの未来を担う子どもたちにかかる様々な負担が多くなると思います。子どもたちを育てるのは大人の責任です。秋田県は学力が全国でも上位を維持していますが、同時に若者の自殺率が増えているのも事実です。学力、豊かな心、未来を担う強さを育むには、多くの大人の目が必要だと思います。教員の増員、地域と学校教育の連携強化、余裕ある家庭生活に向けて取り組んでほしいです。（女性／20歳代／雄勝地域）
- 若者の県外流出を防ぐために大学を増やす。昔に比べると大学数も増え、学部の数はかなり増えているが、まだまだ選択肢が少ない。（女性／50歳代／秋田地域）
- 子どもたちが通う学校の設備についても、ここ数年問題になっているエアコンの設置等を早急に行ってもらいたいと思います。予算の問題もあるとは思いますが、子どもたちの体に関わることだと考えれば、一刻も早い設置を望みます。（女性／30歳代／秋田地域）

L. 県土の保全・防災に関すること

- 自然災害への対策（河川、近くに川があるので）。（女性／40歳代／平鹿地域）
- 防災意識向上のために、地域の避難訓練など、全員が強制参加としてはどうか。（女性／30歳代／北秋田地域）

M. 身近な生活・環境に関すること

- ごみの削減、リサイクル活動に力を入れてほしい。ごみを分別、回収し、100%再利用できるような仕組みを考え、企業側にも働きかけてほしい。服やプラスチック製品などの回収BOXがあると思う。（女性／30歳代／秋田地域）
- 動物愛護殺処分ゼロを目指す。保護団体への支援も必要。ペットショップより譲渡で引き取る方が増えてほしい。（女性／40歳代／秋田地域）
- 森の中に行かなくても、熊やたぬき、鹿など、道路で見かけることがあるので、対策した方がいいと思う。（女性／10歳代／秋田地域）
- 雪の多い地域に住んでいるため、労力、時間、経済的に今後住み続けることができるか不安に感じています。雪にかかる費用等の助成や労働力の軽減などの対策があれば、もう少し人口の流出が防げるのではないのでしょうか。他のことについては、県としての対応をニュース等で知っているのですが、雪に対する対応はボランティアなどしか分からず、何か対策しているのかもわかりません。（女性／40歳代／雄勝地域）
- 交通事故・酒気帯運転が起きないように力を入れてもらいたい。（男性／70歳以上／鹿角地域）

N. 県政全般に対する意見・その他

- 人口減少に対する取組にもっと力を入れてほしい。（女性／60歳代／秋田地域）
- 人口が減少しても秋田に暮らす人が皆幸福と感じる社会づくりをする（人口は増やすことは無理、発想を変えること）。（女性／50歳代／北秋田地域）
- 本県は年々人口減少が続いている。少子化対策も必要だが、どうすれば人口が増えていくのか、多方面から考えてほしい。（男性／70歳以上／秋田地域）
- 秋田らしさとは？と考えることがありますが、義務教育課程の学力の高さとか、自然の多さとか、米

の有力産地であるとか… e t c ありますが、そのどれもが他県に比べて認知度が低いと思う。今一度その素晴らしさをアピールし、田舎なら田舎ならではの良さを発信していけたらいいのではと考えます。(男性／50歳代／鹿角地域)

- いろいろ取組をしていると思いますが、県民の皆さんが興味のある、又は興味が湧くようなアピールがされているかどうか全然伝わってこない。ホームページをご覧ください、とかのPRはあるが、見られない人達への対策はどうか。(男性／60歳代／平鹿地域)
- 秋田の強みを知る機会がほしい(売れている特産品、企業等)。(男性／20歳代／仙北地域)
- 県の実情が(良・悪両方)分かりづらい(情報提供の仕方及び内容)(新聞、広報は必ず目を通しているが…)。もしかすると、意識に残っていないのかも知れませんが、「そうなんだ?」と認識できる情報提供をしてほしいです。実は大変興味があります。(女性／50歳代／平鹿地域)
- 高齢者には十分な医療とレジャーを。他県の高齢者のおしゃれで活動的な場面に驚くことがある。これも意識の問題かと思う。これまでの常識にとらわれず、高齢化してしまった秋田の人々が無理なく、自分らしく生きることのできる豊かな秋田を目指して、これからも頑張ってください。(女性／40歳代／仙北地域)
- 大型レジャー施設の建設。(男性／50歳代／秋田地域)
- 遊びに行く場所が少ない。(女性／40歳代／平鹿地域)
- イージス・アショアの調査で誤データが確認されました。そのようないい加減さでは何も信じられません。「新屋ありき」で、住宅地や学校が近い演習場がなぜ配備地なのかという根本的な疑問が地元で根強いといえます。また、強力な電磁波が本当に人体には影響がないのかも疑問に思います。「地球温暖化対策」にも少なからず影響があると思います。そもそもイージス・アショアを配備しなければならぬ状況に危機感を覚えます。以上、要望というよりは、最近感じていることを書いてみました。(女性／50歳代／仙北地域)
- イージス・アショアについて、「迎撃ミサイル」であり安全保障上の国土防衛と言っていますが、どう言っても戦争の武器です。安全などあり得ない。マイクロで安全と言っているが“木をみて森を見ず”である。知事も、議会もしっかり反対と言うべき。検討、調査、全てムダである。秋田県に、日本本土にイージスはいらぬ。(男性／70歳以上／秋田地域)
- イージス・アショアについて、地域的に人が住んでいる所の近くに設置すべきではない。県の中核である県庁・市役所にも近い所に、無理やり埋立てや道路を移設してまで受け入れることはない。仮に交付金などがあつたとしても、地域住民や秋田県の価値を下げては何にもならない。観光といっても、危険な所に人々は来ない。長い目で見ると秋田の為にならないことは明白である。購入資金で国民の生活水準や社会保障の費用に当てた方がよい。他の国と円満にやっつけられる環境を作ることができる

秋田であってほしい。(女性／60歳代／秋田地域)

- イージス・アショアについて、秋田県が設置すれば日本の約半分が防衛できるのに何故設置しないのか。沖縄だけに任せず、秋田県が防衛の一部を果たすのは当たり前ではないか。未だに北朝鮮の弾道ミサイルが頭上を飛んで行ったことを思い出す。秋田にはイフリコギと言う言葉があるが、今こそイフリコギにならねば。(男性／50歳代／北秋田地域)
- 昨今話題の地上イージスの新屋配備についてですが、国有地以外に秋田県として協力できる配備地がないのでしょうか？メディアの報道を見ていると新屋配備ありきで事が進んでいるようにも思えます。個人的には地上イージスの配備は賛成なのですが、あの住宅地に近い配備地には甚だ疑問です。かといって配備地を他県に変更することにも賛成できかねます。防衛的、地政学的には秋田、山口が最適なのでしょう。加えてこの反対運動によって他県に変更することになれば、秋田県民の国防意識欠如を疑われるでしょう。ここは秋田県がリードして最適地を譲渡するぐらいの覚悟で進めてもらいたいです。(男性／50歳代／秋田地域)
- 各地域振興局など、地域に根ざした部局がありますが、各市町村との協力・連携など、積極的に行うことでよりよい行政につながると思います(各行政はどちらが上下(主従)の関係ではなく対等な関係で地域へ行政サービスを還元していくべきではないでしょうか。)(男性／40歳代／雄勝地域)
- 県として、秋田市ばかりが発展するのではなく、他の市町村も発展するように考えてほしいです。(男性／50歳代／鹿角地域)
- 限られた財政の中で、いかに県民を動かせるか。人口は減る、若者はいない。しかし、私たちはここで生きていかなければならない。周りと共に生活していくしかないのでは…。(女性／60歳代／仙北地域)
- 秋田は秋田の自然、秋田の良さを生かし、他県や都会の真似はしないで秋田に合った秋田らしい施策で進んでほしいと願っています。秋田県は農業県の田舎でよいと思います。ゆっくり生活できて人の良さを大切にす施策をのぞんでいます。(男性／70歳以上／由利地域)
- 全国ニュースなどでは、必ずと言っていいほどネガティブな数値では日本一になっている。そのような数値が少しでも改善するように頑張してほしい。(男性／50歳代／仙北地域)
- 他県ができないこと、まだやっていないことをおもいきって秋田でやるべき。新しい物を作る時、いつも中途半端だと思います。おもいきりが大切だと思います。(男性／30歳代／秋田地域)
- 住んでいる部落(田舎です。)のそばに小学生、中学生等、子どもがほとんどいません。老人ばかりで、ひとり暮らしの人も多いです。これから先、自分も老人のひとりとして、車がないと買い物にも行けないし、色々考えると不安なことばかりです。現実の地域を見て、何か自分も関わっていきたく思います。県の方でも、色々現実を見て考えてほしいと思います。(女性／50歳代／仙北地域)

- 秋田の人口減少に対して様々な取組がされていることは伝わってきます。私のまわりでも県外から帰ってきて、これまで学んだことを生かし、秋田のため、地域のために活躍している人、がんばっている人が沢山います。ただ秋田に長く住んでいると、そういう人達というのはごく一部にすぎなくて、大半の人が「なんとかなる」「関係ない」「誰かがやってくれる」「何も変わらない」という意識が強いように感じてなりません。それが選挙の投票数に現れていると思います。もっと若い人が声を上げて、30代、40代の今まさに子育てをしている人が将来の子どものことを考え、声を上げていかなければ、秋田の未来、日本の未来はないように感じ不安になります。県でもっと若者が選挙に行くように何か対策を取ってほしいです。(男性／30歳代／秋田地域)

- 子育てや仕事、取組等がたくさんあっても、県民一人一人の意識が高まっていなければ、なかなか形になる事は難しいのでは…と、生活している中で感じることがあります。(女性／30歳代／北秋田地域)

- 今回の調査で秋田県としていろいろなことに取り組んでいることに気づかされました。後は自分自身、又は県民一人一人の問題意識ではないでしょうか？一人でも多くの方が興味を持ち、取り組める場をもっと増やしてほしいです。漠然とした対策ではなく、私のような庶民でも分かりやすく、取り組みやすいものとしてほしいです。(女性／50歳代／鹿角地域)

付属資料：調査票

令和元年度 県民意識調査

令和元年5月

調査票

【調査の目的】

◇この調査は、秋田県が実施する調査で、県の取組に関する皆様の満足度やご意見等をお伺いし、各種政策の立案や政策評価等に反映させることを目的としています。

【調査票の取扱い】

◇調査結果は、全て統計的に処理しますので、回答内容が個人情報と結びついた形で公表されることはありません。

【記入に当たってのお願い】

- ◇この調査には、宛名のご本人がお答えください。
※ご本人が何らかの事情により回答できない場合、代理の方の回答は不要です。
- ◇ボールペンや鉛筆等で記入してください。
- ◇回答を1つだけ選んでいただく質問と、複数選んでいただく質問があります。

この調査票を三つ折りにし、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、

6月7日（金）までに投函してください。

なお、返信用封筒に住所、氏名等の記入は不要です。



©2015 秋田県んだッチ

- ◆左下のQRコード又は「秋田県 電子申請・届出サービス」(https://s-kantan.jp/pref-akita-u/offer/offerList_initDisplay.action) から、パソコン、スマートフォン、タブレット等を利用したインターネット回答が可能です。
※インターネット回答の場合は、調査票の返送は不要です。



【問い合わせ先】

◇この調査に関する質問等は、以下までお問い合わせください。
〒010-8570 秋田市山王四丁目1番1号
秋田県企画振興部 総合政策課 計画・評価班
電話：018(860)1217（直通）
FAX：018(860)3873
メール：seisaku@pref.akita.lg.jp

問1 県では、『第3期ふるさと秋田元気創造プラン』*に基づき、「時代の変化を捉え力強く未来を切り拓く秋田」を創り上げていくことを目指し、様々な取組を進めています。次の項目について、あなたはどの程度満足していますか。ご自身の実感に近いものを選んでお答えください。

また、お答えが「1」又は「2」の場合は、よろしければその理由や、県が取り組むべきだと思うことについて、お聞かせください。

*『第3期ふるさと秋田元気創造プラン』とは、平成30年度からの4年間に、県が取り組むべき政策等を取りまとめた県政運営の指針です。

項目	あなたの満足度 (1つ選び番号に○をしてください)					
	十分	おおむね十分	ふつう	やや不十分	不十分	わからない
1 若者にとって魅力的な働く場が確保されている。	5	4	3	2	1	N
	[自由記述]「不十分」又は「やや不十分」に○をつけた方は、よろしければその理由や、県がもっと力を入れて取り組むべきだと思うことについて、具体的にお聞かせください					
2 高校生や大学生の県内就職が進んでいる。	5	4	3	2	1	N
	[自由記述]					
3 安心して子育てができる社会になっている。	5	4	3	2	1	N
	[自由記述]					
4 女性や若者が職場や地域で生き生きと活躍できる社会になっている。	5	4	3	2	1	N
	[自由記述]					
5 地域交通や買い物サービスなどの日常生活に必要な機能が維持され、安心して生き生きと生活できる地域社会になっている。	5	4	3	2	1	N
	[自由記述]					

若者の定着や地域の活力維持に関する取組の状況

1 社会減の抑制に向けた

雇用の場の創出、人材育成・確保

- ・ 将来にわたり拡大が見込まれる成長分野（航空機・自動車・新エネルギー関連・医療福祉関連・情報関連）への県内企業の参入促進と競争力強化、県内企業の海外展開を支援
- ・ モノのインターネット化（IoT）や人工知能（AI）等に代表される「第4次産業革命」の進展により広範な産業分野において求められるICT人材を確保・育成
- ・ 女性の復職や個人のキャリアアップ等を支援

◎雇用創出数(企業誘致や成長産業の振興、農林水産業や観光産業による新規雇用創出)
2,552人(H28) ⇒2,209人(H29)

2 若者の県内定着・回帰と移住の促進による

秋田への人の流れづくり

- ・ 高校生や大学生が県内企業の魅力に触れる機会として、企業見学会・企業説明会等を開催
- ・ 大学生と保護者の県内就職への意識醸成に向けた情報発信の強化のほか、若者のふるさと回帰を呼びかける「あきた回帰キャンペーン」を実施
- ・ 移住相談や移住フェア等を通じて秋田暮らしの魅力を発信
- ・ Aターン就職を支援するため、東京都や秋田市等でAターンフェアを開催



秋田回帰キャンペーンロゴ

◎人口の社会減

△4,100人(H27) ⇒△4,410人(H29)

3 結婚や出産、子育ての希望をかなえる全国トップレベルのサポート

- ・ あきた結婚支援センターの運営支援を通じて結婚を希望する独身男女をサポート
- ・ 保育料助成の更なる拡充等、子育て世帯への経済的支援を充実
- ・ 地域の実情やニーズに応じ子どもや子育て家庭への支援を行う取組に対して助成



園庭で楽しく遊ぶ園児たち

◎婚姻件数

3,510組(H28) ⇒3,311組(H29)

◎出生数

5,666人(H28) ⇒5,396人(H29)

4 女性や若者の活躍推進と

ワーク・ライフ・バランスの実現

- ・ 経済団体等と連携した普及啓発や企業表彰の実施等により、女性活躍やワーク・ライフ・バランスの取組への気運を醸成
- ・ 「あきた女性活躍・両立支援センター」を設置し、企業訪問やアドバイザーの派遣等により企業の取組を支援

◎女性の活躍に関する行動計画を策定した企業数

64社(H28) ⇒130社(H29)

◎従業員の仕事と子育てに関する行動計画を策定した企業数

262社(H28) ⇒287社(H29)

5 活力にあふれ、安心して暮らすことが

できる地域社会づくり

- ・ 県と市町村が協働し、人口減少等の進行により生ずる生活課題の解決に向けた住民主体の支え合いの仕組みづくりを推進
- ・ 集落間交流や担い手育成、地域資源を活用した商品開発等により集落活動を支援



あきた元気ムラ大交流会

◎社会活動・地域活動に参加した人の割合

42.0%(H28) ⇒46.6%(H29)

項目

あなたの満足度 (1つ選び番号に○をしてください)					
十分	十分 おおむね	ふつう	やや 不十分	不十分	わからない

6 地域経済を ^{けん} 牽引することができる競争力を持った企業が増えている。
--

5	4	3	2	1	N
[自由記述]「不十分」又は「やや不十分」に○をつけた方は、よろしければその理由や、県がもっと力を入れて取り組むべきだと思ふことについて、具体的にお聞かせください					

7 中小企業の安定した経営が確保されている。

5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

8 企業誘致が進んでいる。

5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

9 産業人材の確保・育成が進んでいる。

5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

産業の振興に関する取組の状況

1 成長分野の競争力強化と

中核企業の創出・育成

- ・航空機・自動車関連の加工技術の向上や販路開拓を支援
- ・再生可能エネルギーの導入拡大と関連産業への県内企業の参入を促進
- ・医工連携による県内企業と大手医療機器メーカーとのマッチングを支援
- ・H30年3月「秋田デジタルイノベーション推進コンソーシアム」を設立、先進技術の導入による県内産業の振興を推進



デジタルイノベーション元年
フォーラム

◎輸送用機械器具製造業の製造品出荷額

1,124 億円 (H28) ⇒ 1,568 億円 (H29)

◎医療機器関連製造業の製造品出荷額等

548 億円 (H27) ⇒ 573 億円 (H28)

2 中小企業・小規模企業者の活性化と

生産性向上

- ・産業デザインやマーケティングに関する助言・指導、県産業技術センターの研究者による技術支援を実施
- ・生産性の向上を図るため、専門アドバイザーが生産現場での改善を支援
- ・全国に先駆けて H26 年度から事業承継支援を実施



秋田県中小企業応援キャラクター
「がんばっけさん」

◎製造品出荷額等(従業員4人以上の事業所)

1 兆 2,153 億円 (H27) ⇒ 1 兆 3,733 億円 (H29)

◎製造品付加価値額(従業員4人以上の事業所)

4,739 億円 (H27) ⇒ 5,757 億円 (H29)

3 国内外の成長市場の取り込みと投資の促進

- ・企業の海外展開に向けた活動経費を支援
- ・世界への物流の玄関口となる港湾施設を整備
- ・首都圏等における積極的な誘致活動等により、直接航空機メーカー・自動車メーカーと取引を行う企業や、大手自動車関連企業のソフトウェア開発部門を誘致



海の玄関口「秋田港」

◎秋田港国際コンテナ取扱量(実入り)

50,776TEU (H28) ⇒ 50,271TEU (H30) (速報値)

※「TEU」=貨物コンテナの量を表す単位

◎企業の誘致件数及び誘致済企業の施設・設備の

拡充件数

22 件 (H28) ⇒ 24 件 (H30)

4 産業人材の確保・育成と

働きやすい環境の整備

- ・働き方改革を推進するためのセミナーや専門家による集中支援を実施



働き方改革推進セミナー

- ・女性が働きやすい環境の整備に取り組む企業を支援
- ・県技術専門学校において、輸送機や新エネルギー関連のカリキュラムを実施

◎成長産業等における雇用創出数

1,691 人 (H28) ⇒ 1,355 人 (H29)

◎若者や女性等の働きやすい環境の整備に取り組む企業数

330 社 (H28) ⇒ 434 社 (H29)

項目

あなたの満足度 (1つ選び番号に○をしてください)					
十分	十分 おおむね	ふつう	やや 不十分	不十分	わからない

10 農林水産業で働く人が、地域で元気に活躍している。
11 えだまめ、ねぎ、しいたけ、キク、秋田牛などの生産が盛んに行われている。
12 あきたこまちをはじめ、全国の産地間競争に打ち勝つ米づくりが盛んに行われている。
13 飲料や発酵食品など、県産の農林水産物を生かした加工品づくりや販売が盛んに行われている。
14 秋田スギ丸太の生産量が増大し、県産材の利用が進んでいる。
15 ハタハタ、マダイ、ヒラメ、サケなど、県内で獲れた多様な魚が流通・販売されている。
16 豊かな農山漁村で生き生きとした暮らしが営まれ、農地・森林を守る活動などが行われている。

5	4	3	2	1	N
[自由記述] 「不十分」又は「やや不十分」に○をつけた方は、よろしければその理由や、県がもっと力を入れて取り組むべきだと思うことについて、具体的にお聞かせください。					
5	4	3	2	1	N
[自由記述]					
5	4	3	2	1	N
[自由記述]					
5	4	3	2	1	N
[自由記述]					
5	4	3	2	1	N
[自由記述]					
5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

農林水産業の振興に関する取組の状況

1 秋田の農林水産業を牽引する多様な人材の育成

・生産規模の拡大を目指す意欲的な経営体を育成

・県外からの移住者や新規学卒者・
Uターン者など、多様なルートと
幅広い年代から新規就業者を確
保・育成



首都圏での移住就業セミナー

◎農業法人数(認定農業者) 576 法人(H28) ⇒656 法人(H30)

◎担い手への農地集積率 73.2% (H28) ⇒74.1% (H29)

3 秋田米の戦略的な生産・販売と水田フル活用

・秋田米の安定生産やブランド力の向上を促進

・食味が特に優れた新品種の市場デビューに向けた取組を実施

・水田の大区画化や排水対策を図るほ場整備を実施

◎全国に占める秋田米のシェア 5.47%(※)⇒ 5.40% (H29)

※H23~27の最高値と最低値を除いた3年平均

◎米の生産費 10,500 円/60kg (H27) ⇒ 10,100 円/60kg (H29)

2 複合型生産構造への転換の加速化

・ねぎやキクなどの園芸メガ団地や大規模
畜産団地を整備

・「えだまめ出荷量日本一」や「しいたけ三
冠王(量・額・単価)」を目指して生産を拡大
※H29 は大雨災害が発生

・「秋田牛」「比内地鶏」のブランド力強化
に向けた取組を推進



大規模団地のねぎ収穫作業

◎主要園芸品目の系統販売額

160 億円 (H28) ⇒ 145 億円 (H29)

◎畜産産出額

352 億円 (H27) ⇒ 366 億円 (H29)

4 農林水産物の高付加価値化と

国内外への展開強化

・県産の農林水産物を生かした
加工品づくりや販売を促進

・食品メーカーなど異なる業種
との連携による新商品の開発
や新ビジネスの創出を促進



異業種交流会

◎6次産業化事業体販売額

143 億円 (H27) ⇒160 億円 (H28)

5 「ウッドファーストあきた」による

林業・木材産業の成長産業化

・伐採作業用の高性能な林業機械の導入を促進

・秋田市や大仙市で大規模バイオマス発電施設が稼働

・住宅等への県産材の利用を促進

◎素材生産量(燃料用含む)

1,470 千 m^3 (H28) ⇒ 1,484 千 m^3 (H29)

◎スギ製品出荷量

591 千 m^3 (H28) ⇒ 634 千 m^3 (H29)

6 つくり育てる漁業と広域浜プラン推進による

水産業の振興

・つくり育てる漁業の対象魚種(ハタハタ、マダイ、
ヒラメ、サケ、トラフグ)などの稚魚の育成・放流

・R元年9月開催の全国豊かな海づくり大会秋田大会
の開催に向けた準備を着実に推進

◎海面漁業協同組合員1人当たりの漁業生産額

288.0 万円 (H28) ⇒282.1 万円 (H29)

◎つくり育てる漁業の対象魚種の漁業生産額

9.7 億円 (H27) ⇒8.9 億円 (H28)

7 地域資源を生かした活気ある農山漁村づくり

・農山漁村での都市住民との交流活動や食ビジネス
の取組を促進

・草刈りや植樹など地域住民による農地、森林を守る
活動を促進

◎中山間地域資源活用プラン策定地域数(累積)

37 地域 (H28) ⇒49 地域 (H30)

◎水と緑の森づくり推進事業参加者数

22,324 人 (H30)

項目

あなたの満足度 (1つ選び番号に○をしてください)					
十分	お お む ね 十分	ふ つ う	や や 不 十分	不 十分	わ か ら な い

17 国内外から観光誘客が進んでいる。

5	4	3	2	1	N
[自由記述]「不十分」又は「やや不十分」に○をつけた方は、よろしければその理由や、県がもっと力を入れて取り組むべきだと思うことについて、具体的にお聞かせください。					

18 日本酒や発酵食品など、秋田の食品が国内外の市場で盛んに流通している。

5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

19 国内外に秋田ならではの文化の魅力が伝えられている。

5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

20 スポーツに関連する様々な活動が盛んに行われ、地域に活気がもたらされている。
--

5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

21 地域間の交流や生活を支える県内の道路ネットワークが整備されている。

5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

22 鉄道や航空、地域交通など利便性の高い交通ネットワークが整備されている。
--

5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

観光・文化・スポーツの振興に関する取組の状況

1 地域の力を結集した「総合的な誘客力」の強化

- ・見て、触れて、楽しめる、秋田ならではの体験型観光を推進
- ・宿泊施設の整備など、観光客の旅の満足度の向上に向けた受入環境の充実を支援



なまはげ体験

◎観光地点等入込客数(延べ人数)

3,159万6千人(H28) ⇒3,328万2千人(H29)

2 「食」がリードする秋田の活性化と誘客の推進

- ・日本酒や発酵食品等の更なる高品質化とブランド力の強化を促進
- ・発酵食など本県独自の食文化を観光コンテンツとして磨き上げ、誘客へ活用



JR 上野駅での秋田産直市

◎食料品・飲料等製造品出荷額等

1,205億円(H27) ⇒1,284億円(H28)

3 文化の発信力強化と

文化による地域の元気創出

- ・東京オリンピック・パラリンピックを契機とした県内の多彩な文化事業を実施し、国内外へ情報を発信
- ・青少年音楽コンクールなど若者をはじめとした多くの県民が参加しやすい環境の整備と地域における文化活動への支援を実施
- ・本県文化の中核拠点となる県・市連携文化施設の整備を推進



県・市連携文化施設(イメージ図)

◎文化事業への来場者数

44万9,311人(H28)⇒48万8,379人(H30)

4 「スポーツ立県あきた」の推進 とスポーツによる交流人口の拡大

- ・モーグルワールドカップ秋田たざわ湖大会や全県25市町村対抗駅伝大会等を開催
- ・ジュニア層の強化を競技力向上の柱に据えた一貫指導体制を確立
- ・ノーザンハピネットやブラウブリッツ、ノーザンプレッツの活動への支援を実施



モーグルワールドカップ秋田たざわ湖大会

◎成人の週1回以上のスポーツ実施率

49.5%(H28) ⇒48.0%(H30)

5 県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備

- ・H30年3月に日沿道「大館能代空港IC」が供用開始となり空港と高速道路が直結
- ・H31年3月現在、県内の高速道路は、計画延長362kmに対し、326.2kmが供用済

◎県内高速道路の供用率

90%(H28) ⇒90%(H30)



日沿道「大館能代空港IC」

6 交流の持続的拡大を支える交通ネットワークの構築

- ・台湾定期チャーター便の利用促進に向けたキャンペーン等を実施
- ・LCCなど新たな国内航空路線の誘致に向けた取組を推進
- ・国や市町村と連携し、生活バス路線の運行費等を支援



国際定期チャーター便

◎秋田県と県外間の旅客輸送人員数

539万2千人(H27) ⇒601万5千人(H29)

項目

あなたの満足度 (1つ選び番号に○をしてください)					
十分	十分 おおむね	ふつう	不十分 やや	不十分	わからない

23 食事やたばこなど、これまでの生活習慣を見直し、健康づくりに取り組む県民の意識が高まってきている。

5	4	3	2	1	N
[自由記述]「不十分」又は「やや不十分」に○をつけた方は、よろしければその理由や、県がもっと力を入れて取り組むべきだと思うことについて、具体的にお聞かせください。					

24 誰も自殺に追い込まれることのないよう、悩みを抱えた方が相談しやすい環境が整っている。

5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

25 どこに住んでいても、安心して医療を受けられる体制が整っている。

5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

26 高齢者や障害がある方などが、住み慣れた地域でニーズに合った介護・福祉サービスを受けることができる。
--

5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

27 全ての子どもが生まれ育った環境にかかわらず、健やかに育まれる支援体制が整っている。
--

5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

健康づくりや医療・福祉の充実に関する取組の状況

1 健康寿命日本一への挑戦

- ・市町村や経済団体、保健医療団体、報道機関等、多様な主体と連携した健康づくり県民運動を推進
- ・テレビ・ラジオCM、新聞紙面やウェブサイト等を活用した普及啓発等を通じて、県民一人ひとりの健康意識を高揚



◎健康寿命

男性 71.21 年、女性 74.53 年 (H28)

2 心の健康づくりと自殺予防対策

- ・民・学・官の連携による自殺予防街頭キャンペーン等の普及啓発や、様々な悩みを抱える方の相談支援体制を整備
- ・自殺原因の約4割を占める健康問題に関する悩みを抱える方に対する医療従事者や相談機関の相談員の対応力を向上
- ・市町村や民間団体等の活動支援を通じた地域レベルのきめ細かな取組の充実や、関係機関と連携した自殺未遂者の支援体制を強化

◎自殺による人口 10 万人当たり死亡率

23.8 (H28) ⇒24.4 (H29)

3 医療ニーズに対応した医療提供体制の整備

- ・高齢化の進展により医療ニーズが高まっている脳・循環器疾患に係る医療提供体制の拠点となる県立循環器・脳脊髄センター（旧 脳血管研究センター）が、H31年3月に新棟での診療を開始

◎脳血管疾患による人口 10 万人当たり年齢調整死亡率

37.9 (H28) ⇒37.7 (H29)

◎がんによる人口 10 万人当たり 75 歳未満年齢調整死亡率

87.4 (H28) ⇒83.8 (H29)



県立循環器・脳脊髄センター

4 高齢者や障害者等が安全・安心に暮らせる福祉の充実

- ・職員の処遇改善や育成等に積極的な事業所を県が認証する「介護サービス事業所認証評価制度」の普及を推進
- ・障害者差別解消推進条例の制定を契機として、共生社会の実現に向けた取組を強化

◎介護施設等の介護職員数

20,891 人 (H28) ⇒21,228 人 (H29)

5 次代を担う子どもの育成

- ・里親制度の普及・啓発、里親の育成、里親支援体制の整備、里親支援コーディネーターの配置等により、社会的養護が必要な子どもの里親委託を推進
- ・学習支援や家計改善支援など、子どもの貧困対策を強化



里親制度地域セミナー

◎里親委託児童数

16 人 (H28) ⇒25 人 (H30)

項目

あなたの満足度 (1つ選び番号に○をしてください)					
十分	おおむね十分	ふつう	やや不十分	不十分	わからない

28 学校教育を通じて、ふるさと秋田を愛し支える心が育まれている。
29 学校教育を通じて、意欲的に学ぼうとする態度や、自ら考え、判断し、表現する力が育まれている。
30 学校教育を通じて、外国文化を理解しようとする態度や、英語でコミュニケーションをとる能力が育まれている。
31 学校教育を通じて、他人への思いやりなどの豊かな人間性と健やかな体が育まれている。
32 学校・家庭・地域が連携し、社会全体で子どもたちの成長を支えていく体制が整備されている。
33 県内の大学等で、地域の活性化につながる教育・研究・社会貢献活動が行われている。
34 県民の多様な生涯学習の機会や芸術文化に触れる機会が提供されている。

5	4	3	2	1	N
[自由記述]「不十分」又は「やや不十分」に○をつけた方は、よろしければその理由や、県がもっと力を入れて取り組むべきだと思うことについて、具体的にお聞かせください。					
5	4	3	2	1	N
[自由記述]					
5	4	3	2	1	N
[自由記述]					
5	4	3	2	1	N
[自由記述]					
5	4	3	2	1	N
[自由記述]					
5	4	3	2	1	N
[自由記述]					
5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

教育・人づくりに関する取組の状況

1 自らの未来を主体的に切り拓き、

秋田を支える気概に満ちた人材の育成

- ・ 起業体験やボランティア活動など、地域の活性化に貢献する体験活動や地域の伝統を受け継ぐ活動を推進
- ・ 県立高校等に就職支援員を配置し、生徒の就職相談や県内企業の求人開拓、企業情報の提供等を実施

◎高校生の県内就職率

65.0% (H28) ⇒65.0% (H30)

2 子ども一人一人に応じた教育の充実と確かな学力の定着

- ・ 各学校において学習状況調査等の結果を分析し課題の改善につなげていく「検証改善サイクル」を実施
- ・ 小・中学校全学年で実施している少人数学級を高等学校にも順次拡大し、きめ細かな特色ある教育を推進

◎授業で自分の考えを発表する機会がよくあると思う

児童生徒の割合(小4～中2)

91.0% (H28) ⇒91.1% (H30)

3 世界で活躍できる

グローバル人材の育成

- ・ 英語コミュニケーション能力の育成に向け外国語指導助手や外部検定試験を活用
- ・ 高校生の海外研修や県内の外国人留学生との交流により異文化理解を推進



イングリッシュキャンプ

◎英検3級以上相当の英語力を有する

中学3年生の割合

37.1% (H28) ⇒48.3% (H30)

4 豊かな人間性と健やかな体の育成

- ・ スクールカウンセラー等の専門家の配置により教育相談体制を充実
- ・ 体育授業にスポーツの専門人材を派遣し、児童生徒の実態に応じた質の高い授業を展開



地域人材を活用した体育授業

◎自分にはよいところがあると思っている児童生徒の割合(小6・中3)

83.0% (H29) ⇒89.1% (H30)

◎運動やスポーツをすることが「好き」な児童生徒の割合(小5・中2)

65.6% (H29) ⇒66.0% (H30)

5 子どもの成長を支える

魅力的で良質な学びの場づくり

- ・ 学校と地域の協働活動を推進する人材育成や、地域と連携した安全教育活動を実施
- ・ 能代地区専門系統合校の整備に着手したほか、老朽化した一部の県立学校校舎を改築

◎授業の内容がよく分かると思う児童生徒の割合(小6・中3)

83.8% (H29) ⇒85.8% (H30)

6 地域社会と産業の活性化に資する

高等教育機関の振興

- ・ 各大学等の多様な資源を活用し、地域社会や産業の課題解決に向けた取組を推進
- ・ 高校教育と大学教育の連携など学生の確保に向けた多様な取組を推進

◎県内高等教育機関による県内企業等との共同研究・受託研究数

89件 (H28) ⇒85件 (H29)

◎県内高卒者の県内大学・短大への進学率

28.4% (H29) ⇒27.9% (H30)

7 地域を元気にする住民参加の学び

の場と芸術・文化に親しむ機会の提供

- ・ 県生涯学習センターや公民館、学校などで様々なテーマの生涯学習講座を開催
- ・ H30年12月「男鹿のナマハゲ」を含む「来訪神：仮面・仮装の神々」がユネスコ無形文化遺産に登録

◎芸術・文化施設をセカンドスクールの

的に利用した小・中学生の割合

26.6% (H28) ⇒24.3% (H30)

問2 県の重要課題について、お伺いします。

問1で満足度をお伺いした項目に関して、今後の県政を推進していく上で、あなたが重要課題として県に力を入れて欲しいことは何ですか。5つまで選択して番号を記入してください。

--	--	--	--	--

◆若者の定着や地域の活力維持

- 1 若者に魅力的な働く場の確保
- 2 高校生や大学生の県内就職の促進
- 3 県内への移住の促進
- 4 結婚、出産、子育てのしやすい環境の整備
- 5 女性の活躍推進と仕事と家庭の両立支援
- 6 安心して生活できる地域コミュニティの維持

◆産業の振興

- 7 企業の成長分野への参入促進
- 8 地域経済をけん引する企業の創出・育成
- 9 中小企業の安定的経営の確保と競争力強化
- 10 企業の東アジア市場等への進出の促進
- 11 企業が必要とする専門人材の確保
- 12 誰もが働きやすい職場環境の整備
- 13 I o T、A I 技術等の産業への導入の促進

◆農林水産業の振興

- 14 農林水産業の担い手の確保
- 15 野菜や果樹、畜産物等の生産の拡大
- 16 産地間競争に打ち勝つ米づくりと販売の強化
- 17 水田の大区画化や汎用化の促進
- 18 農林水産物の加工・販売の促進
- 19 秋田スギや木製品の生産・加工・販売の促進
- 20 水産資源の維持・増大による水産業の振興
- 21 農山漁村地域の活力向上

◆観光・文化・スポーツの振興

- 22 国内外からの観光誘客の強化
- 23 新商品の開発や販路拡大による食品産業の振興
- 24 秋田ならではの文化の振興と発信
- 25 スポーツの振興による地域の活力向上

26 道路ネットワークの整備と道の駅の魅力向上

27 鉄道や航空・地域交通などの整備

◆健康づくりや医療・福祉の充実

- 28 健康寿命の延伸に向けた取組の推進
- 29 自殺予防対策の推進
- 30 医療提供体制の整備
- 31 介護・福祉サービスの充実
- 32 貧困や虐待等、複雑な事情を抱える子どもへの支援

◆教育・人づくり

- 33 ふるさと教育やキャリア教育の充実
- 34 学力向上に向けた取組の充実
- 35 英語教育と国際教育の充実
- 36 豊かな人間性を育む教育の充実
- 37 健やかな体を育む教育の充実
- 38 教員の指導力向上
- 39 学校施設の整備
- 40 大学等の地域貢献活動の強化
- 41 生涯学習機会の充実と学習効果の社会への還元
- 42 文化遺産等の保存・活用の促進

◆安心・安全な生活環境の確保

- 43 治山治水対策の充実
- 44 地域防災活動の充実
- 45 温暖化防止活動や自然環境保全対策の推進
- 46 犯罪や交通事故の少ない地域づくり
- 47 食品や水道などの安全・安心の確保
- 48 動物愛護活動の推進
- 49 快適で安らげる生活基盤の整備
- 50 I C Tによる便利な暮らしの実現と地域の活性化

問3 県の特定期課題について、お伺いします。

県の広報活動について

① あなたは、県の施策・事業等を何から知ることが多いですか（○はいくつでも）。

- | | |
|---|--------------------------------------|
| 1 | 県が発行する広報紙（全戸配布広報紙・新聞広告等） |
| 2 | 県のウェブサイト（「美の国あきたネット」等） |
| 3 | 県政広報番組（テレビ、ラジオ） |
| 4 | 新聞記事やテレビ、ラジオ等のニュース番組 |
| 5 | ソーシャルメディア（ブログ、ツイッター、フェイスブック、動画サイト 等） |
| 6 | その他（
） |

② あなたは、広報紙やウェブサイト、テレビ、ラジオ等による広報活動は十分に行われていると思いますか（○は1つ）。

- | | | | |
|---|------------|---|------------|
| 1 | 十分行われている | 2 | ある程度行われている |
| 3 | あまり行われていない | 4 | 行われていない |
| 5 | どちらともいえない | | |

家庭での防災活動について

① あなたの家庭では、災害時の備えとして、水・食料等の備蓄（※）（家族人数×3日分）をしていますか（○は1つ）。

※備蓄には、普段から家庭で使うために購入・保管している冷蔵庫内の食料品等や、災害時にも活用できるペットボトル飲料水やカップラーメン、缶詰なども含みます。

- | | |
|---|-------------------|
| 1 | 3日分以上の備蓄をしている |
| 2 | 備蓄はしているが、2日分以下である |
| 3 | 備蓄はしていない |

② あなたは、災害に備えて日頃どのような防災活動を行っていますか（○はいくつでも）。

- | | | | |
|---|-------------------|---|-----------------------|
| 1 | 地域の防災訓練への参加 | 2 | 災害ハザードマップなどによる危険箇所の把握 |
| 3 | 最寄りの緊急避難場所等の確認 | 4 | 緊急避難場所等への避難経路の確認 |
| 5 | 災害時の家族への連絡方法の取り決め | 6 | 非常時持ち出し品の用意 |
| 7 | 家具等の固定 | | |
| 8 | その他（
） | | |

読書活動について

① あなたは読書（※）が好きですか（○は1つ）。

※読書には、新聞（日刊紙の電子購読版を含む。）、雑誌、電子書籍、子どもへの読み聞かせ、オーディオブック（注）も含まれます。

（注）オーディオブックとは、書籍を朗読したものを録音したCDやカセット等のことです。

- | | |
|------------------|---------------|
| 1 好きだ | 2 どちらかといえば好きだ |
| 3 どちらかといえば好きではない | 4 好きではない |

② あなたは1日平均（※）どれくらい読書をしていますか（○は1つ）。

※子どもへの読み聞かせ時間も含まれます。

※休日まとめて読みの場合は、1日平均に置き換えてください。

- | | | |
|---------|----------|-----------|
| 1 2時間以上 | 2 1～2時間 | 3 30分～1時間 |
| 4 30分未満 | 5 全く読まない | |

男女共同参画について

① 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこれについてどう思いますか（○は1つ）。

- | | | |
|------|--------------|--------------|
| 1 賛成 | 2 どちらかといえば賛成 | 3 どちらかといえば反対 |
| 4 反対 | 5 わからない | |

社会活動・地域活動について

① あなたが、ここ1年間に仕事以外の何らかの「社会活動・地域活動」（※）に取り組んだ頻度で、もっとも当てはまるものはどれですか（○は1つ）。

※「社会活動・地域活動」の具体例

地域の公園の花壇の手入れ、町内一斉清掃への参加、河川のごみ拾い、子育て支援、子ども会活動、まちづくりフェスティバル、祭り・伝統芸能の担い手、高齢者宅の除雪の手伝い 等

- | | | |
|--------------|-------------------|---------|
| 1 週5日以上 | 2 週1日程度 | 3 月1日程度 |
| 4 年1日程度 | 5 特定の期間（夏の間2週間など） | |
| 6 その他（具体的に | | ） |
| 7 取り組んだことがない | | |

地域社会の住みやすさについて

① あなたは、現在お住まいの地域の住みやすさについて、どう思われますか（○は1つ）。

- | | | |
|---------|-----------|-----------|
| 1 住みやすい | 2 やや住みやすい | 3 やや住みにくい |
| 4 住みにくい | 5 どちらでもない | |

子育て環境づくりについて

- ① 県では、少子化対策として、子育て家庭に対して保育料や医療費の助成など様々な経済的支援を行っていますが、あなたは、これについてどう思いますか（○は1つ）。

- | | | |
|---------|----------|---------|
| 1 十分 | 2 おおむね十分 | 3 ふつう |
| 4 やや不十分 | 5 不十分 | 6 わからない |

高齢者の社会参加について

- ① 60歳以上の方（※）にお聞きします。あなたは、平成30年度に仕事や社会活動等（趣味や健康づくり、生涯学習を含む。）を行いましたか（どちらかに○）。

※60歳未満の方は次の質問に進んでください。

- | | |
|-------|----------|
| 1 行った | 2 行っていない |
|-------|----------|

がん対策について

- ① あなたは、日本人の2人に1人はがんになることを知っていますか（どちらかに○）。

- | | |
|---------|--------|
| 1 知っている | 2 知らない |
|---------|--------|

- ② あなたは、がんを早期に発見するためにはがん検診をどのように受ければよいと思いますか（○は1つ）。

- | | | |
|-----------|-----------------|---------|
| 1 定期的に受ける | 2 体調に心配がある時に受ける | 3 わからない |
|-----------|-----------------|---------|

環境保全活動について

- ① あなたは、これまでどのような環境保全活動に参加したことがありますか（○はいくつでも）。

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1 講演会やセミナー | 2 クリーンアップなどの美化・清掃活動 |
| 3 自然観察会や自然学習会 | 4 地域での集団回収などのリサイクル活動 |
| 5 大気や水質、水生生物の調査 | 6 植樹・間伐・下刈りなどの森林保全活動 |
| 7 その他（ | ） |
| 8 参加したことがない | |

問4 [自由記述] 県に力を入れて欲しいことや、県が取り組むべきだと思うことについて、何でもお気軽にお聞かせください。



©2015 秋田県んだッチ

問5 あなたご自身について、お伺いします。

回答を統計的に分析するために、あなたご自身のことについてお聞かせください。
(最も近いと感じる選択肢の番号1つに○をつけてください。)

① あなたの性別

1 男性 2 女性 3 その他

② あなたの年齢

1 18～19 歳 2 20～29 歳 3 30～39 歳 4 40～49 歳
5 50～59 歳 6 60～69 歳 7 70 歳以上

③ 18歳未満の子どもの有無

1 現在18歳未満の子どものを養育している 2 していない

④ あなたのご出身

1 秋田県の出身 2 秋田県以外の出身

⑤ あなたのお住まいの地域

1 鹿角地域（鹿角市、小坂町）
2 北秋田地域（大館市、北秋田市、上小阿仁村）
3 山本地域（能代市、藤里町、三種町、八峰町）
4 秋田地域（秋田市、男鹿市、潟上市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村）
5 由利地域（由利本荘市、にかほ市） 6 仙北地域（大仙市、仙北市、美郷町）
7 平鹿地域（横手市） 8 雄勝地域（湯沢市、羽後町、東成瀬村）

⑥ あなたの主な仕事の業種

1 農業 2 林業 3 漁業 4 建設業 5 製造業 6 情報通信業
7 運輸業・郵便業 8 卸売業・小売業(観光関連) 9 卸売業・小売業(観光関連以外)
10 宿泊業 11 飲食サービス業 12 学術研究・学校教育・学習支援
13 医療・保健 14 福祉 15 公務（1～14以外） 16 その他の業種
17 学生 18 無職

これで調査は終わりです。ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。
この調査票を三つ折りにし、同封の返信用封筒(切手不要)に入れて、**6月7日(金)まで**に投函してください。

令和元年度 県民意識調査報告書

令和元年 8 月

発 行 秋田県 企画振興部 総合政策課

〒010-8570 秋田県秋田市山王 4 丁目 1 番 1 号

TEL 018-860-1217 FAX 018-860-3873

調査機関 株式会社フィデア情報システムズ

〒010-0951 秋田県秋田市山王 3 丁目 4 番 23 号

TEL 018-883-0200 FAX 018-883-0209